*

国立西洋美術館年報

NO.8

*

BULLETIN ANNUEL
DU
MUSEE NATIONAL D'ART OCCIDENTAL

*

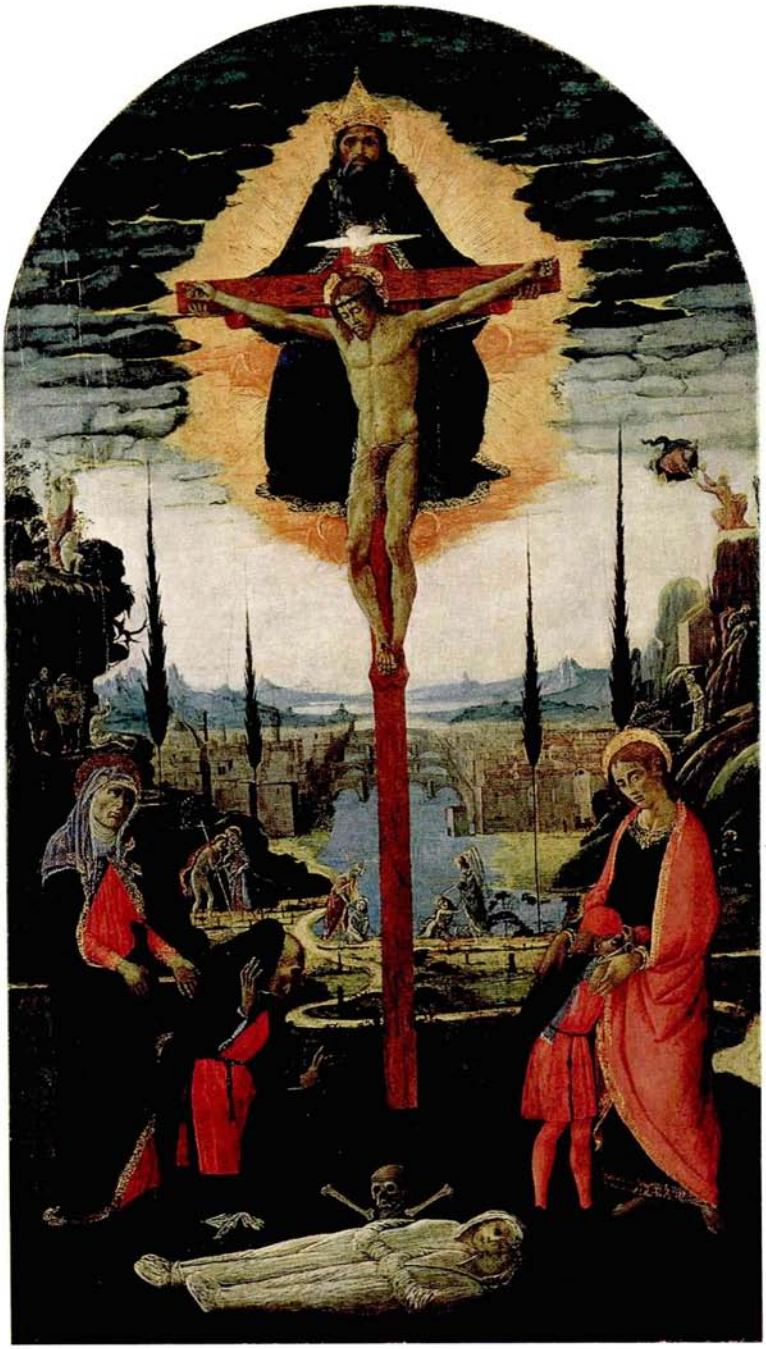
TOKYO 1974

*

国立西洋美術館年報

NO. 8

（昭和48年度）



新収作品：セライオ《奉納祭壇画》

目　次

昭和48年度の新収作品について　山田智三郎――4
Nouvelles acquisitions, par Chisaburoh F. YAMADA

新収作品目録――6
Nouvelles acquisitions (catalogue)

美術における日本26殉教者―その作品カタログ　越　宏一――16
Die 26 Märtyrer von Japan in der Kunst: Ein Werkkatalog, von Koichi KOSHI

研修報告：版画作品の保存管理について　八重樫春樹――73
Sur la conservation des estampes, par Haruki YAEGASHI

所蔵作品の修復報告　長谷川三郎――79
Rapport de la restauration des tableaux, par Saburoh HASEGAWA

事業記録：特別展・巡廻展・講演会――80

資料：歳出歳入表・年度別入館者総数・職員名簿――82

昭和48年度の新収作品について

山田智三郎

Nouvelles acquisitions,

par Chisaburoh F. YAMADA

国立西洋美術館は，昭和48年度に，ヤコポ・デル・セライオ(1442—93)の奉納祭壇画一点，マニャスコ(1667—1749)の油絵一点，15世紀のクレタ派の画家リッツォス作のビザンチンのイコン一点，合計三点の絵画を購入し，彫刻としてはブールデルの《絶望の手》のブロンズ一点，さらにヴュイヤールの有名な版画シリーズの中でも傑作とされる《料理する女》一点を購入した。これらの作品についての詳しいデータは新収作品目録に記してあるので，ここでは購入作品中最も重要な絵画三点について少し詳しく報告することにしたい。

三点のうち最も古い時代のものであるイコンは，もと松方コレクションのもので，日本のある私有コレクションのものになっていたが，本館の越宏一氏の調査により，15世紀のクレタ派の代表的な画家であるアンドレアス・リッツォスの主要作品の一つと見なすべきものであることが分ったので購入したものである。この作品についての越氏の精密な研究は，昭和49年3月に発行された本年報7号に掲載されている故，それを参照されたい。

セライオの奉納祭壇画（原色版）は，上半に描かれた三位一体図の十字架を下に長く延ばして，下半がゴルゴタ丘上のキリスト磔刑図となっている珍しい構図のものである。この十字架の左右には聖母マリアと使徒ヨハネが描かれ，十字架の下，前方には少女とその母らしい女性の屍体が描かれている。それに向って跪き，二人の死を悲しみなげく夫に，聖母が背後からいたわりの手を差しのべている。向って右の聖ヨハネは，母の死に泣きくずれる男の子をかかえ，慰めている。亡くなった妻と娘の冥福を祈るために奉納した祭壇画なのである。1479年と1484年にはフィレンツェでペストが流行して多数の人が死んだ。この母娘は，恐らくこのいずれかの年のペストの犠牲者であろう。

背景には，アルノ河を中央に，当時のフィレンツェ市の実景が描かれている。河にかかる四つの橋の描写は，後述するハイデンライヒ教授の論文によると，1480年の実景図と比べることによって，実景そのままに描かれたものであることが分る。河の向って左手にはパラッツォ・ヴェッキオの高塔や大聖堂のドームが見える。町の背後の遠景はしかし画家の想像図で，ここにはレオナルドの初期の仕事（《キリストの洗礼》の遠景と，ウフィツィ美術館の《聖告》の遠景など）の影響が見られる。町をはさんで左右に山の傾斜が描かれており，山上から河岸にかけて，八つの情景が描かれている。左側には，アブラハムがイサクを生贄にしようとするところ，サマリア人の慈善，キリストと洗礼のヨハネ，聖アウグスチヌスの幻影，右側には，十戒を受けるモーゼ，聖ヒエロニムス，聖フランチェスコ，トビアスと護りの天使を描いている。こうした小情景を数多く背景に描きこむのは，セライオが特に好むところであった。

ヴァザーリによれば，セライオはフラ・フィリッポ・リッピの弟子で，二つ年下のボッティチェルリは彼の相弟子であった。後期にはボッティチェルリから強く影響を受けた。彼はしっかりした技術の所有者ではあったが，創造的才能に恵まれず，個性の弱い二流画家

で，ボッティチェルリのみならず，ギルランダイオその他当時の一流画家の様式をいろいろと採り入れて描いている。そのため，彼の絵は名品ではないが，初期ルネッサンス芸術の主流であったフィレンツェ派の15世紀後半の様式を示すには格好の見本である。

このたび購入した祭壇画は，ハイデンライヒ教授のこの絵についての詳細な研究によれば，ボッティチェルリの影響がいまだ強く現れぬ中期の作品である。同教授は様式についての考究と，ベスト流行の年とあわせ考えて，1480年代はじめの仕事としておられる。この絵の主調は先生のフィリッポ・リッピの様式であるが，キリストにはマサッチオから習ったところも見られ，遠景にはレオナルドの，人物にはカスターニョの影響さえ認められる。

本館にはイタリア・ルネッサンスの宗教芸術を示す見本が今迄一点もなかった。数年前入手したバルナ・ダ・シエナの《聖ミカエルと竜》は，中世末期の宗教芸術の例で，ルネッサンスのものではない。また旧松方コレクションのカルロ・クリヴェルリの《ある僧正の像》は，大きな祭壇画の両側を飾った四枚の翼の一つにすぎず，宗教画の例とするべきものでないし，修復がひどくて，原画の美をとどめていない。セライオは，大家の輩出した初期ルネッサンスの画家としては二流画家ではあるが，彼の主要作品の一つであるこの祭壇画は，初期ルネッサンスの，それも主流であるフィレンツェ派の宗教芸術の好例として見て頂くに充分の美しさをもっている。この絵は今のところ，初期イタリア・ルネッサンスの宗教芸術を示す日本における唯一の作例である。

アレッサンドロ・マニャスコの《嵐の海の風景》は，同じ作家の《羊飼のいる風景》と一対をなしているものであるが，一対をまとめて購入するだけの予算額が認められなかったので，他処へ売られて了うのを防ぐため，取敢えずこの絵一枚だけ今年度購入したもので，昭和49年度に他の一枚を購入する予定である。

この一対は，マニャスコ研究の権威，デログが，マニャスコの第二ミラノ時代の最盛期である1718—25年の作としている壮大な風景画である。彼独特の強い筆致で激しい嵐のなかの海岸風景を描き出した今年度の購入作品は，壮大な自然の美と威力を表わすと同時に，大自然の前には小さな無力な存在でしかない人間の自然との果敢な戦いの姿をも示している。

マニャスコはイタリア後期バロックの特異な風景画および風俗画の作家で，その表現主義とも言える，激しい動きを示すドラマチックな表現の故に，戦後とみに評価の高まっている画家である。ティントレットの後期の作品から影響を受けた（グレコの影響を論ずる人もいる），力強く大まかな筆使いとハイライトの強い画法で，暗い室内あるいは風景のなかに，多くの，激しい身振りをする小さな人物を描き出す彼の後期の怪奇な絵は，人間存在の不安を感じさせて，現代特に高く評価されている。しかし，私は一般の趣味を考えて，後期の作品よりは明るい，しかし，人間を打ちのめすような壮大な自然の偉力を表現した壮年期の絵を選んだ次第である。

新収作品目録

この目録は，昭和48年度刊行の「国立西洋美術館年報 No. 7」に収載分以後，昭和49年3月までに当館予算で購入した作品と寄贈作品を含む。作品番号のPは絵画，Gは版画，Sは彫刻，大きさの表示は縦×横×奥行の順，単位はメートルである。

購入作品

マニャスコ，アレッサンドロ
ジェノヴァ1667～ジェノヴァ1749
MAGNASCO, Alessandro
Genova 1667～Genova 1749

P・1973-4
嵐の海の風景
1718～1725年頃
油彩　カンヴァス　0.93×1.30

来歴：ウィーン，個人コレクション；チューリヒ，ナータン画廊
文献：G. Delogu, "Vier unveröffentlichte Gemälde von Magnasco" in *Pantheon*, XI Jahrg. 1938; M. Pospisil, *Magnasco*, Firenze 1945, Tav. 58–59; B. Geiger, *A. Magnasco*, 1949, p. 151.

昭和48年度購入作品

セライオ，ヤコポ・デル
フィレンツェ1442～フィレンツェ1493
SELLAIO, Jacopo del
Firenze 1442～Firenze 1493

P・1973-5
奉納祭壇画：聖三位一体，聖母マリア，聖ヨハネと奉納者
1480～1485年頃
テンペラ　板　1.27×0.73

来歴：ミュンヘン，フォン・ミラー博士；パリ，オットー・ヴェルトハイマー
文献：L. H. Heidenreich, "Ein In-Memoriam-Bild des Jacopo del Sellaio" in *Kunst und das schöne Heim*, 1952, No. 7.

昭和48年度購入作品

NOUVELLES ACQUISITIONS

Ce supplément constitue la suite à notre Bulletin Annuel No. 7 *en 1973. Il comprend donc toutes les œuvres achetées et données depuis cette date jusqu'à la fin du mars de 1974. Le numéro précédant chaque œuvre indique norte numéro inventaire,* P *étant pour la peinture,* S *pour la sculpture, et* G *pour la gravure. Les dimensions sont données en mètres, la hauteur précédant la largeur et la profondeur.*

ŒUVRES ACHETÉES

P • 1973-4

PAYSAGE DE LA MER ORAGEUSE

ca. 1718~1725

Huile sur toile H. 0,93; L. 1,30

Prov. : Collection particulière, Vienne; Dr. Fritz Nathan und Dr. Peter Nathan, Zurich

Bibl. : G. Delogu, "Vier unveröffentlichte Gemälde von Magnasco" in *Pantheon*, XI Jahrg. 1938; M. Pospisil, *Magnasco*, Firenze 1945, Tav. 58–59; B. Geiger, *A. Magnasco*, 1949, p. 151.

Achat du Musée en 1973.

P • 1973-5

RETABLE VOTIF: LA TRINITÉ, LA VIERGE, SAINT JEAN ET LES DONATEURS

ca. 1480~1485

Tempera sur bois H. 1,27; L. 0,73

Prov. : Dr. von Miller, Munich; Otto Wertheimer, Paris.

Bibl. : L. H. Heidenreich, "Ein In-Memoriam-Bild des Jacopo del Sellaio" in *Kunst und das schöne Heim*, 1952, no. 7.

Achat du Musée en 1973.

リッツォス，アンドレアス
カンディア（クレタ島）1422頃～?
RITZOS, Andreas
Candia (Crète) ca. 1422～?

P・1973-6
ポストビザンチン・イコン：神の御座（ヘトイマシア）を伴うキリスト昇天
15世紀，クレタ派
テンペラ　板　0.71×0.475
右下に署名：XEÌP ANⲇPÉϒ PÍTZϒ

来歴：松方幸次郎氏購入；東京，個人コレクション――昭和35 (1960)年以来国立西洋美術館に寄託（寄託作品番号 D–13）
展覧会歴：『第三回松方氏蒐集絵画展覧会』（国民美術協会），東京府美術館　1930年，図録番号 97（ないし 98）；『松方コレクション名作選抜展』，国立西洋美術館　1960年，図録番号143
文献：『昭和五年五月十七日ヨリ六月四日迄 東京府美術館ニ於テ開会　第三回松方氏蒐集絵画展覧会目録　主催国民美術協会』，図録番号 97（ないし 98）；『松方コレクション名作選抜展図録』，1960年，図録番号143；『国立西洋美術館総目録』，1961年，寄託作品 D–13，図版；高階秀爾編『松方コレクション』（至文堂・近代の美術 2），1971年，第66図；越宏一「国立西洋美術館所蔵のアンドレアス・リッツォス作のイコンについて――15世紀の〈クレタ派〉の作品」，『国立西洋美術館年報』No. 7, 1973, pp. 8—57（独文要旨付）；*Gazette des Beaux-Arts*, Février 1974, (La Chronique des Arts), p. 202, no. 695 (Fig.).

昭和48年度購入作品

P • 1973-6

ICÔNE POSTBYZANTINE: ASCENSION DU CHRIST AVEC L'ÉTIMASIE

XVe siècle, école crétoise

Tempera sur bois H. 0,71; L. 0,475

Signé en bas à droite: ΧΕΙΡ ΑΝΔΡΕΟΥ ΡΙΤΖΟΥ

Prov. : Acheté par Kojiro Matsukata; Collection privée, Tokyo — Déposé depuis 1960 au Musée National d'Art Occidental, Tokyo (D–13)

Exp. : Troisième Exposition de la Collection Matsukata, Tokyo 1930, n° 97 (ou n° 98); *Masterpieces of the Ex-Matsukata Collection*, Tokyo 1961, n° 143

Bibl. : Catalogue de la troisième Exposition de la Collection Matsukata, (en japonais), Tokyo 1930, n° 97 (ou n° 98); Catalogue de la Exposition: *Masterpieces of the Ex-Matsukata Collection*, (en japonais), Tokyo 1960, n° 143; Catalogue Général du Musée National d'Art Occidental, (en japonais et français), Tokyo 1961, Oeuvre déposée: D–13, Fig; Sh. Takashina, *La Collection Matsukata*, (en japonais), Tokyo 1971, Fig. 66; K. Koshi, Über eine kretische Ikone des 15. Jahrhunderts von Andreas Ritzos im Nationalmuseum für Westliche Kunst in Tokio, (en japonais avec résumé en allemand), dans *Bulletin Annuel du Musée National d'Art Occidental*, n° 7, Tokyo 1973, pp. 8–57, Fig. 1, 2, 3, 12, 15, 18 et 22; *Gazette des Beaux-Arts*, Février 1974, (La Chronique des Arts), p. 202, no. 695 (Fig.)

Achat du Musée en 1973.

ヴュイヤール，エドゥアール
キュイゾー（ソーヌ・エ・ロワール）1868～
ラ・ボール1940
VUILLARD, Édouard
Cuiseaux (Saône-et-Loire) 1868～La Baule 1940

G・1974-1
料理する女
1899年
石版　紙　0.355×0.275（版面）
右下に署名：Vuillard
「風景と室内」12点連作（A. ヴォラール版，パリ，1899年，100部作製）のひとつ。
文献：Claude Roger-Marx, *L'Œuvre gravé de Vuillard*, Monte Carlo 1948, no. 42; Ferdinand Salamon, *A collector's guide to Prints and Printmakers from Dürer to Picasso*, London 1972, p. 298, Pl.

昭和48年度購入作品

ブールデル，エミール・アントワーヌ
モントーバン1861～ル・ヴェジネ1929
BOURDELLE, Emile Antoine
Montauban 1861～Le Vesinet 1929

S・1974-1
絶望の手
1893～1902年頃
〝モントーバン記念碑〟のための習作
ブロンズ　0.337×0.140×0.123
台座に銘：MAIN DÉSESPÉRÉE/Emile-Antoine Bourdelle

昭和48年度購入作品

G • 1974-1

LA CUISINIÈRE

1899

Litho sur papier H. 0,355; L. 0,275

Signé en bas à droite: Vuillard

Appartient à la série en 12 planches "Paysage et Intérieurs" (Ed. A. Vollard, Paris 1899, 100 exemplaires)

Bibl. : Claude Roger-Marx, *L'Œuvre gravé de Vuillard*, Monte Carlo 1948, no. 42; Ferdinand Salamon, *A collector's guide to Prints and Printmakers from Dürer to Picasso*, London 1972, p. 298, Pl.

Achat du Musée en 1974.

S • 1974-1

MAIN DÉSESPÉRÉE

ca. 1893~1902

L'étude pour le "Monument de Montauban".

Bronze H. 0,337; L. 0,140; P. 0,123

Inscription au socle: MAIN DÉSESPÉRÉE/ Emile-Antoine Bourdelle

Achat du Musée en 1974.

寄贈作品

トレド・ピサ，ドミンゴス・デ
カピヴァリ（サン・パオロ州）1887～1945
TOLEDO PIZA, Domingos de
Capivari (Estado de São Paulo) 1887～1945

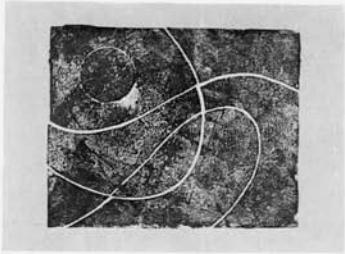
P・1973-3
静物
油彩　カンヴァス　0.450×0.552
右上に署名：TOLEDO PIZA
来歴：サン・パウロ，P.M. バルディ
展覧会歴：『ドミンゴス・デ・トレド・ピサの50点の絵画』，サン・パウロ美術館，1972年4～5月

1973年 P.M. バルディ氏より寄贈

グレックナー，ヘルマン
ドレスデン1889～
GLÖCKNER, Hermann
Dresden 1889～

G・1973-1～10
十相の展開
10点連作　1971年
リノカット　紙　0.250×0.320

1973年国立西洋美術館協力会寄贈



ŒUVRES DONNÉES

P • 1973-3

LA NATURE MORTE

Huile sur toile H. 0,450; L. 0,552

Signé en haut à droite: TOLEDO PIZA

Prov. : P.M. Bardi, São Paulo

Exp. : "50 Pinturas de Domingos de Toledo Piza", Museu de Arte de São Paulo, Abril-Maio 1972.

Donnée par M.P.M. Bardi en 1973.

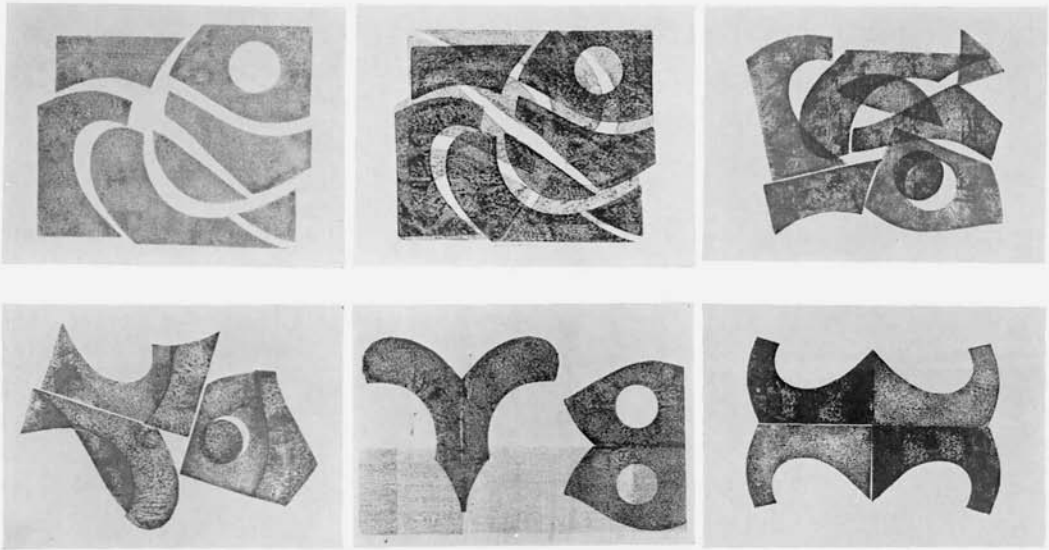
G • 1973-1～10

ENTWICKLUNG IN 10 PHASEN

1971

Gravure sur linoléum, papier H. 0,250; L. 0,320

Données par la Société des Amis du Musée en 1973.



アルテンブルク，ゲルハルト
レディヒェン・シュネプフェンタール1926～
ALTENBOURG, Gerhard
Rödichen-Schnepfenthal 1926～

G・1973-11
狼の足跡を追って
1968年
木版　紙　0.506×0.389
右下に署名年記：Altenbourg 1968
「流れにうかぶ枝—ボブロウスキーのために」連作のひとつ

1973年国立西洋美術館協力会寄贈

アルテンブルク，ゲルハルト
レディヒェン・シュネプフェンタール1926～
ALTENBOURG, Gerhard
Rödichen-Schnepfenthal 1926—

G・1973-12
根の憂鬱
1971年
石版　紙　0.453×0.325（版面）
中央下に署名年記と書き込み：Altenbourg 1971/Wurzel-Melencolia

1973年国立西洋美術館協力会寄贈

G • 1973-11

IN DER WÖLFE SPUR

1968

Gravure sur bois, papier H. 0,506; L. 0,389

Signé en bas à droite: Altenbourg 1968

Appartient à la série "Über dem Strom ein Gezweig—Blätter zu Bobrowski".

Donnée par la Société des Amis du Musée en 1973.

G • 1973-12

WURZEL-MELENCOLIA

1971

Litho sur papier H. 0,453; L. 0,325

Signé et daté en bas avec inscription: Altenbourg 1971/Wurzel-Melencolia

Donnée par la Société des Amis du Musée en 1973.

美術における日本26殉教者——その作品カタログ

越　宏一

DIE 26 MÄRTYRER VON JAPAN IN DER KUNST: EIN WERKKATALOG

Koichi Koshi

日本におけるキリスト教の歴史は，イエズス会の東方伝道者フランシスコ・ザビエルがアンジロウなる日本人を案内人にシナのジャンク船に乗って鹿児島に着いた時，すなわち，洋暦1549年8月15日，邦暦天文18年7月22日から始まる。以後1639年，寛永16年の鎖国に至るまで約1世紀間，いわゆる〈キリシタン世紀〉[1] が続くことになるが，その前半はポルトガルをバックにして来日したイエズス会のバテレンたちが九州から京畿にかけてキリスト教の伝道に従事した時代である。1569年，イエズス会士ルイス・フロイスは織田信長から京都在住ならびに布教を許可されている。翌1570年，スペイン人はマニラを占領し，シナ・日本への布教を企て始め，スペイン国王の保護のもとにある托鉢修道会士は1584年，初めて来日した。しかしその翌年にはイエズス会の巡察師アレッサンドロ・ヴァリニャーノの要請によって，教皇グレゴリオ13世は日本の伝道をイエズス会に限る勅書を発布している。スペイン側バテレンの渡来によって，布教上の混乱を来たすのを避けようとしたためである。しかし，2年後にはイエズス会のバテレンたちも，豊臣秀吉によって発せられた禁教令（1587年）のため公然と布教することはできなくなってしまった。

1591年秀吉はフィリピンに対して日本入貢を促す威嚇的な書状を送った。その第2次使節として1593年フィリピン総督より派遣されたフランシスコ会のバテレン，ペトロ・バプチスタ，同会イルマンのゴンサーロ・ガルーシアらは京都に上ると当初からの目的であった布教活動を始め，さらに大阪・堺・長崎までも進出して，貧民を対象とする，いわゆる〈下からの布教〉を活潑に行なった。イエズス会のバテレンたちがこれら托鉢修道会士に深い憂慮を示したことは言うまでもない[2]。1596年8月，日本司教ペドロ・マルチンスがインド副王の書状を携えて長崎に到着，翌月，在日フランシスコ会士の退却を命じた。折しも同年10月，マニラからメキシコに向っていたスペインの〈サン・フェリーペ号〉が土佐の浦戸湾に漂着，秀吉はその積荷の没収を命じた。この時，この処置に憤慨したサン・フェリーペ号の航海士はスペインの国力を誇示し，スペイン人はバテレンを派遣して外国の領土を侵すと発言したと伝えられるが，これが秀吉を刺激し[3]，この放言と天正禁止令とを口実に，彼に謁した司教マルチンスが離京した直後，1596年12月9日，京都・大阪にある修院の包囲とバテレン・信者の名簿作製を命じた。間もなく捕縛が開始され，ペドロ・バプチスタを初めとする6名のフランシスコ会士（外国人）と3人の少年を含む18名の日本人信徒が縛についた。翌年1月3日，24名は左耳の一部を切られた上，牛車に乗せられ京都の街街を引きまわされ，翌4日伏見・大阪とたらい回しにされた後，1月9日堺を出発して長崎へ護送された[4]。道中さらに2名がむりに加わり，一行26名は2月5日の朝長崎に着き，その日のうちに西坂の丘で磔刑に処せられた[5]。日本暦の慶長元年12月19日のことであった。ザビエルの渡来から48年目に起きた日本最初の大殉教である[6]。

26名の殉教者中20名は日本人であるが，そのうちの1人三木パウロは早くからイエズス会

のイルマンであり，五島ジョアンとき斎ディオゴの2人は殉教の直前にイエズス会のイルマンとなった。残りの17名の日本人はフランシコ会第3会員かまたはフランシスコ会の会友で，京都・大阪・尾張・伊勢その他出身の平信徒である。6名のフランシスコ会士はバテレン・イルマン各3名で，そのうち4名がスペイン人，残りの2名はインドとメキシコで生まれている。これら26名の殉教者の名前は，松田毅一氏の研究[7]に従うと次の通りである。ペドロ・バプチスタ，マルティン・デ・ラ・アセンシオン，フランシスコ・ブランコ，フランシスコ・デ・ラ・パリラ（デ・サン・ミゲル），ゴンサーロ・ガルーシア，フェリーペ・デ・ヘスス（デ・ラス・カサス），三木パウロ，五島ジョアン，き斎ディオゴ，鈴木パウロ，同宿ガブリエル，絹屋フアン，伊勢・談義トメ，薬師（クスシ）フランシスコ，同宿こざきトメ，榊原ホアキン，同宿ベントゥーラ，鳥丸レオン，マチーアス，同宿アントニオ，同宿ルイス，茨木パブロ，こざきミゲル，助じ郎ペドロ，たけ屋コスメ，フランシスコ・ガヨ。

この日本における最初の大殉教事件は，イエズス会士ルイス・フロイス[8]，フランシスコ会士マルセロ・デ・リバデネイラ[9]，スペイン商人アビラ・ヒロン[10]，フランシスコ会士フアン・ポーブレ[11]，日本司教ペドロ・マルチンス[12]など事件当時長崎にあった外国人や，在日していたフランシスコ会士ジェロニモ・デ・ジェズース[13]の報告を始めとして古今東西の幾多の文献[14]に記録されている。これらの殉教に関する根本資料のうち最も詳細かつ正確なものは，比類なき日本通であったバテレン，フロイスの1597年3月15日付イエズス会総長宛の書翰である。彼は刑場に立合うことはできなかったが，しかし殉教直後遺骸を仰ぎ，多数の証人から資料を集めて報告書を作製した。現在ローマのイエズス会文書館にあるフロイス自署のスペイン語書翰（Jap. Sin. 53. ff. 1–71）は，1935年に至ってR. ガルドス師により公刊されたが，それに由来する刊本は，若干要約された形ではあるが，すでに1599年，ローマ[15]・ミラノ[16]・マインツ[17]で，さらに1628年ミラノ[18]で出版されている。1597年長崎における殉教に関する刊本の中で最も早いものは，殉教の翌年，つまり1598年にローマ／ベルージア[19]，およびセヴィリア[20]で出版されたフランシスコ・テーリョの報告書[21]であるが，これは26殉教者中の6名のフランシスコ会士のみに関するものである[22]。1600年・1601年にはナポリ[23]およびマドリード[24]でフランシスコ会士フアン・デ・サンタ・マリアの『6名のフランシスコ会士・3名のイエズス会士および17名の日本人信徒の殉教』が刊行されている。一方バルセロナでは同年，フロイスの報告記録と並んで極めて貴重な，26名の殉教録を含むマルセロ・デ・リバデネイラ（フランシスコ会士）の『アジア布教史』[25]が出版された。

1598年から1601年までヨーロッパ各地で相次いで刊行された日本の26殉教者関係の出版は，1627年に至って再び活潑になる。東洋の使徒フランシスコ・ザビエルが列聖されて5年後

の1627年9月14日，教皇ウルバノ8世は26殉教者中のフランシスコ会士6名ならびにフランシスコ会と関係のあった日本人平信徒17名，合計23名を列福したからである。残るイエズス会士3名も1629年同じく福者とされた。フランシスコ会関係の23人が列福された1627年には，マドリード[26]とミラノ[27]でこれら23殉教者の殉教録が刊行されたが，一方，あたかもこれに呼応するかのように，翌年にはモデナ[28]とミラノ[29]で3イエズス会士の殉教録が3種類も出版されている。同じ1628年にはまた，モンティラ（スペイン）で23殉教者に関する殉教録[30]，ミラノ[31]・セヴィリア[32]・ドゥエ[33]（フランス）で『26名の殉教録』の刊行をみている。

このように，1597年の長崎における殉教関係の書物は殉教1年後以来ヨーロッパ各地で出版されてきたが，殉教場面を表わす版画扉絵が添えられたのは，1628年にイタリアとフランスで刊行された次の3書がその始めであった。すなわち，ミラノ刊フロイス著『26人の輝ける死についての報告』（本カタログ4参照），モデナ刊『3イエズス会士の輝ける死についての小報告』（19），ドゥエ刊『フランシスコ会の23殉教者および3イエズス会士の生涯と死』（2）である。これらの版画扉絵（ドゥエ刊のそれには1627年の年記がある）は，現在我々が知る限り，年代が確定している最も早い，1597年の殉教に関する作例に数えられる。17世紀に制作されたこのテーマの作例の中で，1627年の列福式以前の確証ある作品は現在伝えられていないからである[34]。ナンシー（ロレーヌ）のフランシスコ会のために制作されたジャック・カロの一枚刷りエッチング（国立西洋美術館蔵，3）も，そこに表わされた23殉教者たちがニンブスをつけているので，恐らく1627年の列福式を記念したものと思われる。この作品は，17世紀から今世紀に至るまで制作された数多くの，1597年の殉教者を表わす作例中，芸術的に最も優れた作品のひとつであり，すでに当時から広くゆき渡っていたものと思われる。この作品において図像学的に注目されることは，棕櫚の枝と月桂冠とを殉教者たちに用意する天使ケルビムが洗者聖ヨハネに導かれていること，および，十字架を，他の多くの作例のように（例えば，本カタログ8,12,38,39,44）横一列に並べるのではなくて，二列にわけて遠近法的に重ねている点などである。これと同じような十字架の配し方は，すでに触れた1628年・ミラノ版のフロイスの著書に添えられたジョヴァンニ・ピエトロ・ビアキの銅版扉絵（4）や，北イタリアの画家タンツィオ・ダ・ヴァラロ（1635年頃歿）の油彩画（5）にも見られるが，特に後者は，二列の十字架の中央に，1597年の殉教者の頭ペドロ・バプチスタを配する点でカロ作品により類似し，恐らくその影響を受けたと思われる[35]。

カロの殉教図は殉教当時長崎にいた報告者たちの記述と必ずしも一致していないが，しかし却ってその故にこそ芸術的魅力を備えているともいえるだろう。例えば，カロの銅版画では，立ち並ぶ十字架の下にひしめき合う群衆の姿が生き生きと表現されているが，しかしフロイスは「でうすのこれら教役者はくる

すの用意してある現場に着いた時，半三郎は直ちに鉄砲，槍手でくるすの立ててある周囲を整然と取り囲ませた。彼等はくるすから七，八歩離れた場所にいて，獄吏，役人の外は一人もくるすに近い中央部に入れなかった。武器の他に太い棒を持った数人のものがいて，何人も近づけないようその棒を振り廻した。」（新井トシ訳，第16章，157頁）と記しているし[36]，また，各殉教者の配置については，「名樹は各々三四歩の間隔を置き，市街に背をむけて，恰もでうすにその市の守護を願うかのように一列にくるすに掛けられた。フライ達の右側に十名の日本人，左側に十人，その中に吾らの三名のいるまんが交り，真中に六名のフライが位置した。」（新井訳，第16章，165頁）と報告されている[37]。一方，ビアンキの扉絵はフロイスの26殉教者録のためのものであるだけに，史実をカロより忠実に表わしている。ここでは下部の銘からも明らかなように，十字架の中央部に6名の外国人フランシスコ会士が配され，また，フロイスに「例外は二人のぱあでれ，即ちフランシスコ・バシオとファン・ロドリゲスで，半三郎と長崎代官の許可を受けて被刑者を励ますため絶えずくるすの近くにいた」（新井訳，第16章，157頁）と述べられているように[38]，2名のイエズス会バテレンも描かれている。刑吏の数および槍の突き方についてフロイスは，「四名の獄吏は直ちに槍を刺すため鞘……を払った。……四名は走りながら全員に槍を刺した――二人の中の一人は被刑者の左側から，他は右側から槍を刺した。」（新井訳，第16章，159頁）と述べている[39]が，これらの点でもビアンキの銅版画はフロイスの記述に従っている。しかしこの扉絵において殉教者たちは，興味深いことに，一人も，カロの版画にみられるようなフランシスコ会の服装をしていない[40]。ビアンキの版画はイエズス会系の出版物に添えられた扉絵であるからである。

日本布教時におけるイエズス会とフランシスコ会の対立についてはすでに触れたが，それはまた，ヨーロッパにおける26殉教者関係の刊本の場合にもいえることもすでに見た通りである。エミール・マールは『トレント公会議以後の宗教美術』（初版1932年）[41]の中で，8点ほど26殉教者関係の作例を挙げ，そこにイエズス会とフランシスコ会の対立をすでに指摘しているが，事実，美術においても両修道会の宗派争いの反映がみられる。つまり，26名の殉教者全員が列聖される1862年までは，26人が揃って表わされることはむしろ例外的であった。列聖式以前の26人全員の殉教図としては，前記のビアンキによる銅版扉絵（1628年ミラノ刊，4），近年坂本満氏によって紹介された，イエズス会士ペトロ・ビィヴェリウスの著作(1634年アントワープ刊)の銅版挿絵（6），およびメキシコのクエルナバカ大聖堂の壁画（17世紀前半，8）が挙げられるに過ぎない。

日本では17世紀に入ってキリシタンへの迫害はますます凄絶を極めた。日本の殉教者たちの悲劇は次々にヨーロッパに伝えられ，カトリック教徒の心を強くゆさぶった。迫害に直面したキリシタンたちの英雄的な殉教行為

は，いわゆる〈いけにえなるが故の勝利者〉(Victor quia victima) というキリスト教的パラドックの具現であったと同時に，エキゾチズムの香りを放ってバロック信徒の心を奪ったのである。日本はキリシタンの殉教によって却ってヨーロッパ人の意識のうちに潜入していったとも言えよう。事実，日本のテーマはバロック劇に少なからぬ役割を演じている。イエズス会は布教地の殉教者を好んで舞台にのせたが，トーマス・インモース師の研究[42]によると，1605年から1836年にかけて，高山右近，大友宗麟，有馬のプロタジウス，豊後のティトゥスなどを主人公とした日本劇が164回，全ヨーロッパにまたがって上演されたのであった[43]。1597年の長崎の殉教者に関しても，1628年北フランスのドゥインケルケンで Het Christen-Saet van Japonien oft de Martelie van Paulus Michi, Johannes de Goto, ende Didacus Guizai, Japonosisen と題する3イエズス会士の殉教劇が上演され，また，ベルギーのトウルネーでも1630年，日本の3イエズス会士の殉教劇（Martyrium trium e Societate Japonensium）が行われた記録が残されているのである。

日本のテーマ，とりわけ日本の殉教者のそれは，17世紀ヨーロッパにおける刊本や演劇におけるのみならず，美術においても好んで取り上げられた。バロックのイタリアでは，É. マール，A. ピグラー[44]，L. レオー[45]などによって指摘されたように，カミロ・ラーマ（1622年以後歿，1），タンツィオ・ダ・ヴァラロ（1635年歿，5），フランチェスコ・マフェイ（1660年歿，53）などによってフランシスコ会関係23人の殉教図が描かれ，また，ジョヴァンニ・ランフランコ（1647年歿，20），カヴァリエーレ・ダルピーノ（1640年歿，21），カニャッチ（1681年歿，24・25），ロレンツォ・パシネリ（1700年歿，26）といった画家も3イエズス会士の磔刑図を残している。

スペインおよびその植民地ペルーにおける作例については，すでにディエゴ・パチョコ師によってその一部が紹介されている[45]。スペインでは，17世紀に著しい発展をみせたイエズス会の教会に3イエズス会士の彫像が置かれたが，そのうち，フランシスコ・ディアス・デル・リベロ（1630年頃の作品，58）やアロンソ・デ・サアヴェドラ（1670年の作品，59）による，殉教のシンボル，十字架を手にしているイエズス会士の木彫を始めとして，フアン・デ・メサ（1627年歿）に帰せられる，優れたイエズス会士像(81)，18世紀に活躍したマルセリーノ・ロルダン（82）やペドロ・ドゥケ・コルネホ（83）の手になるイエズス会殉教者の木彫が特に注目に値いする。

ペルーでもすでに1630年，ラザロ・パルド・デ・ラゴスなる画家によってフランシスコ会関係の23殉教者の絵が2点（9・10）制作されている。ペルーでは特にリマに作例が多い。リマの聖フランシスコ修道院廻廊の柱にはめこまれたセヴィリア製の陶板（17世紀前半，11）には，磔刑にあう23人の日本の殉教者の姿が見出されるが，その描写は歴史的事実に極めて忠実である。すなわち，フロイスが「主は手足を留めるに釘を刺込まれたが，彼等は手足を鉄輪で留めて傷は受けなかった。」（新井訳，第16章，156頁）と報告している

ように，この陶板でも殉教者の手足は鉄の環で抑えられている。

1597年の長崎における殉教者の姿は，1627年・1629年の列福式以後，ローマで1646年に刊行されたアントニオ・フランシスコ・カルディムの『日本殉教精華』（ピエール・ミヨットの銅版画入り，22）や，プラハで1676年出版されたマティアス・タンナー著『イエズス会殉教者伝』（メルヒオール・キュセルの銅版画入り，29）など，ヨーロッパ各地で刊行されたイエズス会関係の書物にその挿絵として登場しているが[46]，これらのうちでとりわけ興味深いのはミュンヘンで1674年に出版された3イエズス会士の殉教録にみられる小型の銅版扉絵（28）である。これは，恐らく当時有名であった，スヘルテ・アダムス・ボルスヴェルト（フランドルの銅版画家，1659年歿）による一枚刷りエングレーヴィング（国立西洋美術館蔵，27）を縮小コピーしたものに他ならない。ボルスヴェルトの作品は，カロ（3）のものと並んで，1597年の長崎の殉教者を表わす最も優れた版画作品に数えられる。

18世紀においては，26殉教者関係の作品は17世紀における程多くは制作されなかった。この時代の代表的作例としては，フランソワ・フーシェの初期の作品と考えられる，3イエズス会士の殉教を表わす油彩画（31）ならびにそのエングレーヴィング・コピー（ローラン・カールによるもの，32），および，マニラで1744年に刊行されたフアン・フランシスコ・デ・サン・アントニオ著『フランシスコ会年代記』の扉絵・挿絵2点（13・14）が挙げられる。サン・アントニオの年代記に添えられた，フランシスコ会関係23人の磔刑を表わすこれら2点の版画は，史実に最も忠実かつ詳細な殉教図に数えられるものである。因に，フロイスは「現場にいた葡萄牙人及び日本人の情熱は信じられないものがあった。彼等は獄吏が槍を刺した時天まで届くような大声で啼泣し，未だ生々しく慄えているさんとすの死体から流れ出る血を手布に，或いは又着物の裾に受けんとて獄吏（監視人の殴打をものともせず）の間を疾走した」（新井訳，第16章，161頁）と述べ，また，「神は道中掲げながら運んできた王の宣告文を書いた立札（……）を直ちにその場所に立てるよう半三郎に命じた。」（新井訳，第16章，159頁）と報告しているが[47]，年代記の版画における殉教者の血を受ける目撃者，および宣告文を書いた立札といったモチーフのみならず，画面前方の隅に描かれた日本司教ペドロ・マルチンスの姿も史実と無関係のモチーフではないのである[48]。

1861年12月23日，教皇ピオ9世は1597年の長崎の殉教者のうち，フランシスコ会関係の23名の謚聖を許可する旨宣告し，翌年3月25日，イエズス会の3人の殉教者に対しても同様の宣言が行われた。次いで同年6月8日，26殉教者の列聖式がサン・ピエトロ大聖堂において挙行された。列聖式の模様は当時の出版物によって知りうるが，大聖堂内部は殉教のエピソードを描いた多数の絵で飾られていた（33・89はその一部）という。日本のカトリックの歴史を通じて初めて聖人に列せられた

これら26殉教者に対する崇敬はこの機会に再びにわかに高まり，1862年だけでもローマ・ブレダ・パリ・リール・ルツェルン・マドリード・ヴァレンシア・マインツ・トゥールーズ・ダブリンなどで17種以上の書物が刊行された[49]。これらのうち，扉絵があるものは，アゴスティーノ・ダ・オシモ著『日本フランシスコ会23殉教者伝』（ローマ刊，ニコラ・モネータの銅版扉絵入り，15），ジュゼッペ・ボエロ著『日本イエズス会3聖人の生涯と殉教』（ローマ刊，64），ダブリンで刊行された『3イエズス会殉教者の生涯と殉教』（68），エウスタキオ・マリア・デ・ネンクラーレス著『日本26殉教者伝』（マドリード刊，トマス・カルロス・カプスおよびホアキン・マギストリスの版画表紙・挿絵入り，37・38）などであるが，美術史的に注目されるのは，N.AA.アウセムス著『聖ペドロ・バプチスタ伝』（ブレダ刊，39），D.ブイー著『日本26聖人史話』（パリ／リヨン刊，40），および，M.ド・モントロン著『日本聖殉教者』（リール／パリ刊，41）の版画扉絵である。これら3点の作例のうち，後の2例はいずれもオーギュスト・ポントゥニエなるパリの複製木版画家の手になるものであり，それらは，アウセムスの著書の扉絵とほぼ完全に一致している。これらのうちのどれかは，明治の中頃日本にも知られていたとみえ，1887年（明治20年）大阪で刊行された『日本廿六聖人致命略伝　全』（42）の扉絵にコピーされている。この銅版扉絵の彫師は石田有年であるが，彼はまた，同年京都で出版されたビリヨン師の『日本聖人鮮血遺書』（43）のために極めて日本的な26聖人磔刑図を残した。これら石田有年による銅版画作品は日本人最初の26聖人殉教図といえよう。

19世紀においては，長崎の26人の殉教者たちは聖人に列せられたとはいえ，彼等の姿は17世紀におけるようには名のある画家たちによって描かれることは最早なかった。そして，今世紀に入ってからは，岡山聖虚（91），中田秀和（47・48・93），長谷川路可（50・51・94），愛久沢勇悟（92），舟越保武（95）などが26聖人をテーマとした作品を残しているが，他方，外国人作家による作品は極めて少ない。

本稿は，1597年の長崎における日本最初の大殉教場面およびその殉教者をテーマとする東西の美術作品の資料収集を主眼としたが，しかし，26殉教者を単独に表わす作品は本カタログから割愛した。例えば，ペドロ・バプチスタを称える作品はその生地スペインに多く，また，フェリーペ・デ・ヘススを表わす作例はメキシコに少なくないが，これらについては別の機会に譲りたい。ただ，ここでは，近年日本にもたらされた2点の油彩画（挿図参照）について触れておきたい。日本26聖殉教者を保護の聖人とする東京・本所教会の聖堂には現在，ペドロ・バプチスタおよびフェリーペ・デ・ヘススの半身像油彩画（カンヴァス，90.5×68.5cm および 76.5×65.5cm）が掛けられているが，これらは元アッシジ近郊のポルツィウンコラの修道院にあったもので，一説に列福式（1627年）のとき制作されたものといわれている[50]。

東京・本所教会蔵（アッシジ近郊ポルツィウンコラ修道院旧蔵）油彩画（17 世紀？）：ペドロ・バプチスタおよびフェリーペ・デ・ヘスス
Tokyo, Kirche von Honjo: Ölgemälde (17. Jh.?) aus dem Kloster Portiunkula bei Assisi — Pedro Baptista und Felipe de Jesus

註　Anmerkungen

（1） C. R. Boxer, *The Christian Century in Japan, 1459–1650*, Berkeley 1951 (Second edition, 1967). 〈キリシタン世紀〉の評価については J. Wh. Hall, *Das Japanische Kaiserreich*, Frankfurt a. M. 1968 (J. ホール著尾鍋輝彦訳『日本の歴史　上』，講談社，1970 年，220 頁）の興味深い指摘を参照。

（2） この修道会同士の争いの問題については，岡本良知「日本耶蘇会とフィリッピンの諸修道会との論争——26聖人殉教の遠因として」，『キリシタン研究』III，吉川弘文館，1948 年，および，松田毅一『南蛮のバテレン——東西交渉史の問題をさぐる』，NHK ブックス 122，1970年を参照。

（3） この事件については，松田毅一「サン・フェリーペ号事件の再検討」，『清泉女子大学紀要』14 号，1966 年を参照。

（4） 京坂で捕えられて長崎に送致された経過と路程については，D. Pacheco, *Notas sobre la ruta de los 26 Santos mártires de Nagasaki*, Madrid 1960［ディエゴ・パチェコ（岩谷十二郎訳）「日本二十六聖殉教者の旅路に関する覚え書」，『キリシタン研究』VIII，1963 年，40–86 頁］；片岡弥吉「最後の道」，『キリシタン研究』VIII，1963 年，87–105 頁；ディエゴ・パチェコ『長崎への道——日本二十六聖人』，二十六聖人記念館，1971年に詳述されている。

（5） 殉教の場所が今日の西坂公園のところであるとの考証については，片岡弥吉「廿六聖人殉教の位置とその崇敬」，『長崎談叢』第 37 輯，藤木博英堂，1955 年を参照。

（6） 1597年の長崎における殉教に関する 1868年（明治元年）以後の国内外の夥しい文献については，松田毅一編『日欧交渉史文献目録』，1965 年，および松田毅一「日欧交渉史文献目録続篇」，『清泉女子大学紀要』16，17，18，19，20号，1968–1972年を参照。欧文による紹介書としては，E. Hamaguchi, *The Twenty-six Martyrs of Japan*, Nagasaki 1949; G. Huber, *Kreuze über Nagasaki—Den sechsundzwanzig Erstlingsmartyrern Japans zum Gedächtnis*, Werl 1954; D. Pacheco, Nagasaki—La colina de los Martires, Separata de *Missionalia Hispanica* XVII–51, Madrid 1960; J.

Escobar, *Los Veintiseis Martires de Japon*, Delegacion General O. F. M. de Japon 1961 などがある。

(7) 松田毅一「日本二十六聖人の人名について」,『キリシタン研究』VIII, 1963年, 3–39頁。

(8) *Relación del Martirio de los 26 cristianos crucificados en Nangasaqui el 5 Febrero de 1597*. P. Luis Frois S. J. (Autor). P. R. Galdos S. J. (Editor). Tipografía de la Pontíficia Universidad Gregoriana. Roma, 1935. これの邦訳に新井トシ訳註「フロイス日本二十六聖人殉教記, R. Galdos 編」,『日本文化』三二, 三三, 三四, 三五号 (1952–1955年), および浦川和三郎「日本二六聖人の殉教——フロイスの報告書より」,『聲』第838, 1947年があり, また, 本書翰の研究に次のものがある。D. Schilling, Zur Geschichte des Martyrerberichtes des P. Luis Frois, *Archivum Historicum Societatis Jesu*, VI, Roma 1937, 107–113.

(9) Historia De Las Islas Del Archipelago, Y Reynos De La Gran Ćhina, Tartaria, Cvchinchina, Malacu, Sian, Camboxa Y Iappon ... Compvesta Por Fray Marcello Deribadeneyra companēro de los sey frayles hijos de la misma Prouincia Martyres gloriosissimos de Iappon ... Em Barcelona ... Año M. DCI. [*Laures* (文献略号表参照) *253* (*151*)]. なお本書は1947年マドリードで新たに公刊されている。邦訳に次のものがある。佐久間正 (訳)「日本二十六聖人伝記」,『横浜大学論叢』人文科学系列第10巻 (1958年) 第2号; 同第11巻 (1959年) 第1号・第2号。佐久間正訳「マルセーロ・デ・リバデネィラの報告記録」,『横浜市立大学論叢』第12巻 (1960年) 人文科学系列第1号, 第2, 3号合併号; 第13巻 (1961年) 第1号, 第2, 3号合併号; 第14巻 (1963年) 第1号, 第2, 3号合併号; 第15巻 (1964年), 第1号。佐久間正訳「マルセーロ・デ・リバデネィラの報告記録——日本二十六聖人殉教後の経過 (一), (二)」,『キリスト教史学』XVIII, XIX, 1966年。マルセロ・デ・リバデネイラは, 殉教当時長崎に滞在していたのであるが, 禁足を命ぜられてポルトガル船内に留まっていた。ここから彼は殉教を目撃した。

(10) Bernardino de Avila Giron: Relación del Reino de Nippon a que llaman corruptamente Jappon. 全編23章からなるこの『日本王国記』の第15章半ばまではシリング師とレハルサ師により刊行されている。D. Schilling—F. de Lejarza, Relación del Reino de Nippon por Bernardino de Avilla Giron, *Archivo Ibero-Americano*, Vol. 36 (1933), Vol. 38 (1935)。全23章の邦訳として, 佐久間正訳・註, 会田由訳, 岩生成一註「アビラ・ヒロン 日本王国記」,『大航海時代叢書』XI, 岩波書店, 1965年がある。

(11) Juan Pobre de Zamora: Histoia de la pérdida y descubrimiento del Galeón San Felipe con el gloriosa martirio del Japón. Año de 1597. (Ms. en poder de D. Antonio Graiño).

(12) フーベルト・チースリク「日本二十六聖人殉教関係史料」(British Museum 所蔵),『キリシタン研究』VIII, 1963年, 111–135頁。

(13) L. Pérez, Fr. Jerónimo de Jesús, restaurador de las missiones del Japon: sus cartas y relaciones (1595–1604), *Archivum Franciscanum Historicum*, XVI, 1923, 507–544. 同書の中にある日本26殉教者に関する記録の邦訳に, 佐久間正「西班牙古文書 日本二十六聖人殉教録 (ジエロニモ・デ・ジエスス書翰並びに報告)」,『横浜市立大学紀要』, No. 26, 1954 がある。

(14) 殉教直後, マニラにおいて作製されメキシコに送付された殉教報告書に San Felipe de Jesús, Protomartir Mexicano (Extracto de las Informaciones auténticas para la Beatificatión de los veintiseis Mártires del Japón, publicado por primera vez en la "La Semana Católca", México 1898) があり, その邦訳に, 佐久間正訳「サン・フェリーペ・デ・ヘスース——日本二十六聖人殉教録」,『キリスト教史学』IV, 1953年がある。その他の史料に関しては, 松田毅一「日本二十六聖人の人名について」,『キリシタン研究』VIII, 1963年, 3–10頁を参照。日本側の記録については, 海老沢有道「26聖人関係日本文献」,『望楼』II–1, 1947年; 海老沢有道「日本二十六聖人関係日本文献」,『キリシタン研究』VIII, 1963年, 137–175頁を参照。

(15) Relatilone Della Gloriosa Morte Di XXVI Posti In Croce ... Mandata dal P. Luigi Frois alli 25. di marzo ... Et fatta in Italiano dal P. Gasparo Spitilli di Campli ..., In Roma ... 1599. [*Laures 237* (*141*)].——Trattato D'Alcvni Prodigii Occorsi L'Anno M. D. XCVI. Nel Giappone. Mandato dal P. Luigi Frois ... Tradotto in Italiano dal P. Francesco Mercati ... In Roma ... M. D. XCIX. [*Laures 239* (*142*)].

(16) Relatione Della Gloriosa Morte Di XXVI. Positi in Croce ... Mandata dal Padre Luigi Frois ...

In Milano ... 1599. [*Laures 238*].

(17) De Rebvs Iaponicis Historica Relatio, Eaqve, Triplex: I. De gloriosa morte 26. crucifixorum. II. De Legatione Regis Chinensium ad Regem Iaponiae, ... III. De rebus per Iaponiam anno 1596. a PP. Soc. Iesv durante persecutione gestis. A R. P. Lvdovico Frois Societatis Iesv ... Mogvntiae ... M. D. CIX. [*Laures 235 (139), 243*].——Drey Japponische Schreiben.//Das erst.//Was massen 26. Geist//liche vnd Weltliche Personen/vmb//Christi willen/am Creutz getödt.//Das ander.//Inhalt etlicher Wunder vnd schreck-//lichen fürgelauffenen Zeichen.//Das dritt//jahrschreiben/was die Societet Jesu im 96. Jahr in deß//Heren Weinberg außgericht.//An den E. P. Claudium Aquauiuam/der Societet//Jesu Generaln/durch Ludouicum Fros auß//Jappon gethan.//Auß//Italienischer/in die Hochdeutsche//Sprach vbersetzt.//Getruckt zu Meyntz/bey Johan Albin.//M.D. XCIX. [*Laures 240 (143)*].

(18) 本カタログ4参照。Siehe Kat. Nr. 4.

(19) Relatione Mandata Da Don Francesco Teglio ... intorno al Martirio de i sei Frati Spagnoli, dell' Ordine di S. Francesco ... Crocefissi Nel Giappone L'Anno 1597 ... Ristampata in Perugia ... Stampata in Roma, Et in Perugia (1598). [*Laures 233 (138)*].

(20) Relacion Qve Don Francisco Tello ... embio de seys frayles españoles ... que crucificaron los del Iapon ... : ... En Seuila a treze de março de mill y quiniẽtoy y nouẽta y ocho anos ... [*Laures 234 (138a)*]. 佐久間正「キリシタン資料(1)——日本26聖人殉教に関する報告書(1)」,『スペイン図書』VI, 1962年も参照。

(21) 1599年にはパリでフランス訳も出ている。Relation Envoyee Par Don Francisque Tello ... Touchant le martire de six Religieux Espagnols ... A Paris ... M. D. XCIX. [*Laures 242*]. なお，テーリョは，殉教事件後日本へ使節を送り，サン・フェーペ号の積荷の返還および殉教者の遺骸の引き渡しを求めたフィリピン総督である。

(22) 6名の外国人フランシスコ会士に関しては，1599年マドリードでも報告書が刊行されている。Über die sechs Franziskaner vgl. auch: Dos Informaciones hechas en Iapon: vna de la hazienda que Taycosama ... mandò tomar ... y otra de la muerte de seis Religiosos ... que el dicho Rey mandò crucificar en la ciudad de Nangasaqui. Madrid, en Mayo de 1599. [*Laures 241*].

(23) Relatione/Del Martirio/Che Sei Padri Scalci/di San Francesco,/E 20. Giapponesi Christiani patirono nel Giappone,/L' Anno MDXCVII./Scritta dal R. P. F. Gio. di S. Mara ... E dapoi tradotta dalla lingua Spa-/gnuola nella Italiana, Per ordine del R. P./F. Gioseppe di S. Maria ... In Napoli, Appresso Antonio Pace. MDC. [*Laures 246 (146)*].

(24) Relacion Del Martirio Qve seys Padres Descalços Franciscos, tres hermanos de la Compañia de Iesus, y decisiete Iapones Christianos padecieron en Iapon. Hecha por F. Iuan de Sancta Maria ... En Madrid ... 1601. [*Laures 248 (148)*].

(25) 註(9)参照。Siehe auch Anm. (9).

(26) Relacion/Svmaria De/Vida, Prision,/Y Gloriosso Martirio/de los veinte y tres Martyres, que de la/magnifica Religion de nuestro Padre san/Franciscò sembraron las Indias del Iapon/con su sangre: los quales canonizo este pre/sente año de 1627 la cabeza de la Iglesia/de Christo nuestro Redemptor. Vrbano Papa Octauo, de eterna y feliz/memoria Año 1627/Con Licencia/En Madrid, por la viuda de Alõso Martin. [*Laures 371 (244)*].

(27) Breve Compendio Del Martirio, é Morte Delli Ventitre Martiri dell'Ordine Minori di San Francesco ... della Prouincia di San Gregorio delle Filippine, e del Giappone ... In Milano ... 1627. [*Laures 373 (246)*].

(28) 本カタログ19参照。Siehe Kat. Nr. 19.

(29) Breve relatione della gloriosa morte di Paolo Michi, Giovanni Goto, e Giacomo Chisai ... Cauata da una lettera del P. Pietro Gomez Viceprovinciale al P. Generale della medesima Compagnia, l'anno 1597. In Milano, appresso Gio. Battista Bidelli, M. DC. XXVIII. [*Laures 381*].——Breve Raggraglio Del Glorioso Martirio Di trè Religiosi della Compagnia di Giesv, Paolo Michi, Giouanni Goto, Giacomo Quisai ... In Milano ... 1628. [*Laures 392 (261b)*].

(30) Fiestas/Qve Celebro La Noble/Villa De Vaena A La Canoniza/cion de los Gloriosos Martires del Iapon, S. Pedro/Bautista i sus 22 Companeros de la

Religion de/San Francisco: desde 26 de Febrero desto Año./Por don Gabriel Ioseph d'Arriga natural de Granada, Secretario/del Señor Don Lvis Manuel Cordora i Figueróa. Año de 1628./Montilla. [*Laures 387 (258)*].

(31) 本カタログ4参照。 Siehe Kat. Nr. 4.

(32) Svmaria Relación de los Protomartyres de la Iglesia del Iapon ... Sacada de las Historias del Iapon, escritas por los Padres de la Compañia de Iesus, Luys Froes, Gaspar de Espitilli, Luys de Guzman, Luis Piñero, António de Vasconcelos, Bartolome Ricio ... En Sevilla ... 1628. [*Laures 385 (256)*].

(33) 本カタログ2参照。 Siehe Kat. Nr. 2.

(34) 1627年以前という可能性が考えられうるのは，本カタログ1および77であろう。 Es könnte die Möglichkeit bestehen, daß die beiden Werke Kat. Nr. 1 und 77 vor 1627 entstanden sein sollte.

(35) これについては，本カタログ5を参照。 Vgl. hiezu Kat. Nr. 5.

(36) ヒロンの『日本王国記』にも「日本人たちは近くにこそ近づけなかったけれど，大勢の者がじっと見まもっていた……」(佐久間・会田訳，第8章，257–258頁)と記されている。Vgl. hiezu auch „Relacion del Reino de Nippon ..." (Kap. 8) von Avilla Giron (Siehe Anm. 10).

(37) リバデネィラの報告記録にも「葡萄牙人はくるすが樹立される前に六名の宗教家を中央にして両側に十名づゝ日本人を配するように頼んだ」(原書，532頁)とある。Vgl. hiezu auch „Historia de las Islas ..." (p. 532) von Marcello de Ribadeneyra (siehe Anm. 9).

(38) ジェロニモ・デ・ジェススの殉教記録にも「二人のパードレ・フランチェスコ・パシオ及びジョアン・ロドリゲスのみが十字架の近くへ来た」(佐久間訳，第11章，164頁)と記されている。 Vgl. hiezu auch den Märtyrerbericht (Kap. 11) von Jerónimo de Jesús (siehe Anm 12).

(39) ヒロンも『日本王国記』の中で「…すべての十字架がすっかり立てられたのを見とどけると，[検視役は]すでに手まわしよく袖をくくり上げてそこを歩いていたあの死刑執行人を幾人か呼んだので，その中の四人が聖者たちのところへ行った。そしてまず列の道路に一番近いところへ近づき，二人はガヨから始め，あとの二人は反対の側へ行き，聖人たちを槍でつきさし始めた。一人一人に脇腹を二突きして，からだを串ざしに突き通させるのだが，それは左脇から槍がはいれば右肩へそれが突出るし，また右からはいった槍は左へ突き出るのだから，つまり一人一人の胸の内部で十文字ができることになった。」(佐久間・会田訳，第8章，261頁)と述べている。Vgl. heizu auch „Relacion del Reino de Nippon ..." (Kap. 8) von Avilla Giron (siehe Anm. 10).

(40) フロイスは殉教者たちの服装に関しては「くるす上の主の着物は裸に近いまで取上げたが，彼等には肉体を覆う一枚だけを残した。」(新井訳，第16章，156頁)と記しているにすぎない。なお，ビアンキの版画では3イエズ会士の姿が，下部の銘から明らかなように，右側の最前部にまとめて配されているが，この点，フロイスの記述(第18章)とは異なる。フロイスの記す十字架の順列は東側から次の通りである。1) Francisco Adaucto; 2) tagueja Cosme; 3) Suqui Jiro Pedro, Adaucto; 4) Cosaqui Miquel; 5) Quisay Diego; 6) H. Miqui Pablo; 7) Ibaraqui Pablo; 8)H. Juan; 9) Luis; 10) Antonio; 11) Fr. Pedro Bautista Comisario; 12) Fr. Martín; 13) Fr. Felipe; 14) Fr. Gonzalo; 15) Fr. Francisco Blanco; 16) Fr. Francisco; 17) Matias; 18) Corasumaru León; 19) Ventura; 20) Tomás; 21) Sacaquibara Joaquin; 22) Francisco; 23) Tomás; 24) Quimiya Juan; 25) Gabriel; 26) Funzuqui Pablo.

(41) Mâle, *Après Trente*, 118–119.

(42) T・インモース著・尾崎賢治編訳『変わらざる民族／演劇・東と西』，南窓社，1972年，46–80頁(「スイスのバロック演劇にあらわれる日本のテーマ」)，81–88頁(「高山右近とハイドン—宝さがし奇譚」)；トーマス・インモース「ドイツのバロック舞台における日本劇」，『本の手帖』1963年12月号，26–35頁；トーマス・インモース「豊後のティトゥス——ヨーロッパのバロック劇の大立物」，『キリシタン文化研究会会報』第15年第3号(昭和47年12月)，234–243頁；Th. Immoos, Japanese Themes in Swiss Baroque Drama, *Studies in Japanese Culture*. Sophia University. Tokyo, 1963, 79–98; Idem, Japanese themes in the European Baroque Drama, *Transaction of the International Conference of Orientalists in Japan*, No. VIII, 1963, (The Tōhō Gakkai), 26-33; Idem, A Treasure Hunter's Adventure, *KBS (Kokusai Bunka Shinko-kai) Bulletin On Japanese Culture*, June/Juli 1969, 96, 10-13.

(43) J. Müller (*Das Jesuitendrama in den Ländern*

deutscher Zunge vom Anfang (1555) bis zum Hochbarock (1665), Augsburg 1930, II, 111 ff.) も，17世紀に日本の殉教者劇が少なくとも42回，1700–67年に25回ヨーロッパで上演されたことを指摘している。J. Müller hat darauf hingewiesen, daß Dramen mit dem Thema der japanischen Märtyrer mindestens 42 mal im 17. Jahrhundert und 25 mal zwischen 1700 und 1767 in Europa gespielt wurden.

(44) Pigler, *Barockthemen*, Bd. I, 434.

(45) Réau, *Iconographie III*, 921.

(45) パチェコ「エスパニアの日本殉教者像」；パチェコ「リマ植民時代の美術に現われた日本の殉教者」。Die beiden Artikel von D. Pacheco erschienen 1963 auf Japanisch.

(46) ただし17世紀に刊行された次の2書には扉絵・挿図はない。Folgende zwei Bücher, die im 17. Jahrhundert veröffentlicht wurden, haben weder Titelbild noch Illustration. Vita E Martirio De'Beati Paolo Michi, Gio. Soan, e Jacopo Ghisai della Comagnia di Gesù, martirizzati nel Giappone ... Da Un Sacerdote della medesima Compagnia. In Venezia MDCCXXIV. [*Laures 589 (401a)*].—— Vita E Martirio De'Santi Giapponesi Paolo Michi, Gio. Soan di Goto, e Jacopo Ghisai della Compagnia di Giesù, martirizzati nel Giappone ... In Ferrara ... 1725. (Pietro Bresciani, S. J.). [*Laures 590 (402)*].

(47) ヒロンの『日本王国記』によれば「宣告文を書いた掲示板は，空ざまにさし立てられ，一人の日本人の両手に掲げられて，検視役の前にあった…」(佐久間・会田訳，第8章，261頁）という。殉教者の血を受ける目撃者に関しては，ヒロンは「ポルトガル人たちと，いく人かの日本人とは散々に棒でたたかれたかわりに，死刑執行者との間にたち混って，この血潮の流れを手に受けた」(同，262頁）と記している。Hiezu vgl. auch „Relación del Reino de Nippon ..." (Kap. 8) von Avilla Giron (Siehe Anm. 10).

(48) 1597年2月22日付長崎発のローマ教皇宛書翰で日本司教ペドロ・マルティネスは「…私は群衆の前でそれに立ち合うことが許されませんでしたので，十字架の場所から少しばかり離れた或る家の窓からこの光景を眺めておりました。…」(チースリク訳，118頁）と書き，また，ジェロニモ・デ・ジェススの殉教録にも「彼等が十字架へ到着するとこの状景を，司教と彼の宗教判事及びその他のジェスス会のパードレ達は自分の教館及び天主堂から見ていた。」(佐久間訳，第11章，163頁）と記されているが，しかし，ヒロンの『日本王国記』(第8章）によれば，司教は諸聖人天主堂にあって殉教が終ったことを知らなかったという。Hiezu vgl. auch den Bericht (Kap. 11) von Jerónimo de Jesús (siehe Anm. 12) und „Historia de las Islas ..." (Kap. 8) von Avilla Giron (Siehe Anm. 9).

(49) それらについては *Laures*: 741 (512), 743 (513), 744 (514), 745 (516), 746 (517), 747 (518), 748 (519), 749 (520), 750 (521), 751 (522), 752 (523), 753 (523a), 754 (523b), 755 (523c,) 756 (523d), 757 (524), 758 を参照。

(50) 『カトリック新聞』1975年2月2日，挿図。

謝辞　Danksagung

〈西洋美術における日本の殉教者〉という研究テーマへ筆者を導いて下さったのは，ウィーン大学の Alexander Slawik 先生（日本学）である。ここに心からなる感謝を捧げたい。

本稿を草するに当り，御教示頂いた方々，とりわけ，Diego Pacheco 師（長崎・26聖人記念館），Hubert Cieslik 師（上智大学），Thomas Immoos 師（上智大学），片岡弥吉氏（長崎・純心女子短期大学），菅野陽氏，坂本満氏（お茶の水女子大学），福永重樹氏(サントリー美術館），また，図版の入手に関して御協力下された方々，特に，Erich und Hertha Nürnberger（オーストリア・トラウンキルヘン），Jaime Coelho 師（上智大学），酒井善孝氏（上智大学），神吉敬三氏（上智大学），北村芳郎氏（大阪・南蛮文化館），富沢孝彦師（カトリック札幌司教館），谷津良勝師（札幌・フランシスコ修道院），下山正義師（東京・本所教会），高草茂氏（岩波書店），田中千禾夫氏（桐朋学園大学），並びに，Museo Provincial de Bellas Artes / Sevilla, Kunsthistorisches Institut der Universität Wien, 上智大学吉利支丹文庫，上智大学聖三木図書館，長崎・日本26聖人記念館，長崎県立図書館，天理大学付属天理図書館，国立国会図書館，東洋文庫，東京大学付属図書館，カトリック新聞社に衷心より謝意を表する次第である。

Resümee:

DIE 26 MÄRTYRER VON JAPAN IN DER KUNST: EIN WERKKATALOG

Koichi KOSHI

Die Geschichte des Christentums in Japan beginnt mit dem Zeitpunkt, da Franz Xaver aus der Gesellschaft Jesu am 15. August 1549 in Kagoshima (Südjapan) an Land ging. Seitdem dauert das sogenannte christliche Jahrhundert[1] bis zur Abschließung des Landes gegen die Außenwelt im Jahre 1639, die es fast 250 Jahre unmöglich machte, daß ein christlicher Missionar japanischen Boden betritt. In der ersten Hälfte beschäftigten sich die Jesuitenmissionare, die faktisch unter portugiesischem Patronat standen, mit der Ausbreitung des Christentums von der Insel Kyushu (Südjapan) bis zu den Gegenden um Kyoto, die damalige Hauptstadt des Landes. Im Jahre 1584 traten auch die Franziskaner, die unter dem Patronat des spanischen Königs standen, in die Japanmission ein, jedoch wurde schon im folgenden Jahr auf Ersuchen des Visitators der Gesellschaft Jesu, Alexander Valignano, das Breve, in dem die Missionierung Japans auf diesen Orden beschränkt wurde, von Papst Gregor XIII. verkündigt. Zwei Jahre später, 1587, erteilte Hideyoshi Toyotomi, der damals die höchste Macht des Landes in Händen hatte, das Verfolgungsedikt, durch das die Jesuiten auch nicht mehr öffentlich Mission betreiben konnten.

1593 kam der Guardian des Franziskanerklosters St. Georg zu Manila, Pedro Baptista, als das Haupt der zweiten Gesandschaft, die der Statthalter der spanischen Philippinen an Hideyoshi schickte, nach Japan. Pedro Baptista und seine Mitarbeiter begannen bald nach der offiziellen Audienz bei Hideyoshi eine überaus rührige Missionstätigkeit bei den armen Einwohnern zuerst in Kyoto, und dann anch in Osaka, Sakai und Nagasaki. Darüber machten sich freilich die Jesuiten große Sorge, im September 1596 befahl der Bischof von Japan, Pedro Martinez, ein portugiesischer Jesuit, die Ausweisung der Franziskaner. Im Oktober desselben Jahres wurde in der Nähe von Urado in der Provinz Tosa (Insel Shikoku) ein großer spanischer Dreimaster „San Felipe" gesichtet, dessen Pilot, zornig auf die Beschlagnahme der Schiffsladung, den berühmten Ausspruch getan haben soll, die Missionare seien die Wegbereiter für die Soldaten des spanischen Königs. Im Dezember 1596 wurde dann von Hideyoshi, den jener Kraftausdruck zum Zorn reizte, unter dem Vorwand des Verfolgungsedikts von 1587 der Befehl erteilt, die Häuser der Missionare in Kyoto und Osaka zu bewachen und ein Namenverzeichnis der Christen anzufertigen. Folglich wurden in der Tat sechs ausländische Franziskanermissionare, darunter auch der Kommissär Pedro Baptista, und 18 japanische Christen verhaftet. Am 3. Jänner des folgenden Jahres wurden in Kyoto diesen 24 Auserwählten zum Zeichen der Schmach die linken Ohrläppchen abgeschnitten, die Gefangenen wurden auf die Ochsenkarren gesetzt und durch die Straßen der Hauptstadt, am nächsten Tag auch von Fushimi und Osaka, gefahren. Am 9. Jänner führte man dann die Verurteilten aus der Stadt Sakai auf die lange Reise nach Nagasaki (Südjapan), wo das Christentum die meisten Anhänger zählte[4]. Während der Reise traten noch zwei christliche Laien der Schar der 24 Gefangenen bei, so daß sich die Zahl schließlich auf 26 belief. Am Morgen des 5. Februars kamen die 26 in der Hafenstadt Nagasaki an, und an demselben Tag vergossen die Glaubenshelden auf dem Hügel von Nishizaka ihr Blut am Kreuze. Sechs ausländische Missionare, je drei Patres und Fratres, gehörten dem Franziskanerorden an, drei von den 20 Japanern waren Jesuiten, und die übrigen 14 christliche Laien, die entweder Franziskanerterziaren oder nächste Mitarbeiter dieses Ordens waren[6].

Dieses furchtbare Ereignis des ersten großen Martyriums in Japan wurde in der Hauptsache von vielen Ausländern, die sich damals in Nagasaki, dem Ort des Martyriums, aufhielten, wie z. B. Luis Frois[8] aus der Gesellschaft Jesu, Marcello de Ribadeneyra[9] aus

dem Franziskanerorden, von dem spanischen Kaufmann Bernardino de Avila Giron[10], Juan Pobre de Zamora[11] aus dem Franziskanerorden und von Bischof Pedro Martinez aus der Gesellschaft Jesu, sowie von dem Franziskaner Jerónimo de Jesús[13], der zu der Zeit des Martyriums in Japan war, in Briefen und Berichten dokumentiert[14]. Davon gehört der Märtyrerbericht (Archivum Romanum Societatis Iesu, Jap. Sin. 53 ff. 1–77) des unvergleichlichen Japan-Kenners Luis Frois, den er am 15. März 1597 in Nagasaki unterzeichnete, zu den umfangreichsten und wertvollsten Schriftstücken über die Verfolgung und das Martyrium. Der Bericht dieses Jesuitenpaters, der zwar erst 1935 von R. Galdos S. J. veröffentlicht wurde, wurde aber, wenn auch in verkürzter Form, schon 1599 in Rom[15], Mailand[16] und Mainz[17], ferner 1628 in Mailand[18], in verschiedenen Sprachen gedruckt. Zu den frühesten Drucklegungen über den Märtyrertod vom Jahre 1597 gehört aber der 1598 in Rom/Perugia[19] und Sevilla[20] erschienene Bericht[21] des Gouverneurs auf den Philippinen Francisco Tello über das Martyrium der sechs Franziskaner[22]. 1600 und 1601 wurde dann in Neapel[23] und Madrid[24] das Buch des Franziskaners Iuan de Sancta Maria über das Martyrium der sechs Franziskaner, der drei Jesuiten und der 17 japanischen Christen publiziert[25].

Im Jahre 1627, als die sechs Missionare des Franziskanerordens und die 17 japanischen Laien, die mit diesem Orden zu tun hatten, von Papst Urban VIII. seliggesprochen wurden, wurde das Verlagswerk über die japanischen Märtyrer wieder aktiv: in Madrid[26] und Mailand[27] erschienen die beiden Berichte über diese 23 Seliggesprochenen. Im folgenden Jahr wurden, gleichsam in Erwiderung darauf, von Seiten der Jesuiten, drei Arten von Berichten über den Märtyrertod der drei Jesuiten, die ihrerseits erst 1629 ebenfalls seliggesprochen wurden, in Modena[28] und Mailand[29] publiziert. Außerdem erschienen im gleichen Jahr, 1628, in Mailand[31], Sevilla[32] und Douai[33] Berichte über das Martyrium der 26, ferner in Montilla[30] ein solcher über die 23 Märtyrer.

Von diesen zahlreichen, genannten Publikationen über das große Martyrium von Nagasaki im Jahre 1597 sind nun aber nur drei Bücher, die 1628 in Mailand, Modena und Douai erschienen, mit einem Titelbild versehen: Kat. Nr. 4, 19 und 2. Diese drei Titelbilder mit der Szene der Kreuzigung der japanischen Märtyrer (eines davon, Kat. Nr. 2, trägt sogar das Datum vom Jahre 1627) gehören zu den frühesten fest datierten Beispielen der Darstellung des Martyriums vom Jahre 1597, die uns erhalten sind[34].

Die Radierung von Jacques Callot (Kat. Nr. 3), die für die Franziskaner von Nancy geschaffen wurde und daher die Kreuzigung bloß der 23 von den 26 Märtyrern darstellt, kann auch zu den frühesten Beispielen gezählt werden, sie dürfte anläßlich der Beatifikation vom Jahre 1627 entstanden sein, weil die Märtyrer hier mit Nimbus dargestellt sind. Für diese Radierung, die zweifellos eines der künstlerisch hervorragendsten Beispiele von den zahlreich vorhandenen Darstellungen des Martyriums von Nagasaki im Jahre 1597 ist und sich damals verbreitet haben dürfte, ist es charakteristisch, daß die 23 Kreuze nicht quer in einer Reihe, wie in anderen Beispielen (Kat. Nr. 8, 12, 38, 39, 44 usw.), sondern perspektivisch in zwei Reihen aufgestellt sind. Eine ähnliche Aufstellung der Kreuze findet sich auch in dem Titelkupfer (Kat. Nr. 4), das Giovanni Pietro Bianchi für die mailändische Ausgabe des Märtyrerberichtes von Luis Frois schuf, und in dem Ölgemälde (Kat. Nr. 5) von Tanzio da Varallo (gest. 1635). Das letztere von diesen beiden oberitalienischen Werken, das in der Mitte der beiden Reihen von Kreuzen das Haupt der Erstlingsmärtyrer, den Franziskaner Pedro Baptista, zeigt, ist besonders eng mit der Radierung von Callot verwandt, was uns mit

É. Mâle einen Einfluß von ihm vermuten läßt[35].
Das Martyriumsbild von Callot stimmt zwar nicht immer mit den Schilderungen der Berichterstatter, die sich zur Zeit des Martyriums in Nagasaki aufhielten, überein, aber man könnte sagen, daß es gerade darum einen künstlerischen Reiz hat. Nach dem Märtyrerbericht (Kap. 16) von Luis Frois z. B. sollen nämlich viele Soldaten, mit Lanzen bewaffnet, den Richtplatz rundum abgesperrt haben, und außer den beiden Jesuitenpatres, João Rodrigues und Francisco Pasio, soll jedem das Betreten des Richtplatzes verboten gewesen sein[36]; Die 26 Kreuze sollen in je drei oder vier Schritten Abstand in einer Reihe, und zwar in deren Mitte die sechs Kreuze für die ausländischen Franziskaner, aufgestellt worden sein[37]. Im Vergleich mit der Radierung Callots stellt das Titelkupfer Bianchis, in dem, wie die Inschrift unten am Rande zeigt, die Kreuze für die sechs Franziskanermissionare in der Mitte aufgestellt sind und die beiden Jesuiten, die die Märtyrer ermutigten, zu sehen sind, den historischen Tatsachen getreuer die Kreuzigungsszene dar, weil dieses eben für den Märtyrerbericht von Frois gemacht wurde. Das Titelbild stimmt ferner in der Art der Hinrichtung mit der Beschreibung von Frois überein, daß sich vier mit Lanzen bewaffnete Schergen zu je zweit vor ein Kreuz stellten, indem sie ihre Lanzen vor der Brust des Opfers kreuzten[39]. In dem für das Buch des Jesuiten Frois bestimmten Bild von Bianchi sind jedoch interessanterweise die Märtyrer nicht zu finden, die sich mit dem Kostüm des Franziskanerordens, wie in der Radierung von Callot, bekleiden.
Es war schon von der Rivalität der Gesellschaft Jesu mit dem Franziskanerorden in der Missionszeit in Japan die Rede. Diese zeigt sich ebenso in dem Fall der Druckschriften über das Martyrium von Nagasaki im Jahre 1597, was wir schon gesehen haben. Wie schon É. Mâle in seinem Buch *L'art religieux après le concile de Trente* (1932)[41], wo allerdings nur acht Beispiele der Darstellung des japanischen Martyriums im Jahre 1597 angeführt sind, hingewiesen hat, ist dieses Gegenüberstehen der beiden Orden tatsächlich auch in der Kunst zu beobachten. Bis zur Heiligsprechung von allen 26 Märtyrern im Jahre 1862 sind sie nämlich ausnahmsweise vollzählig zusammen dargestellt worden. Die Ausnahmen vor der Kanonisation bilden: das schon erwähnte Titelbild (1628) von Bianchi (Kat. Nr. 4), eine Kupferstichillustration zu dem 1634 in Antwerpen erschienenen Buch von Petro Biverius (Kat. Nr. 6) und das Fresko, wahrscheinlich aus der ersten Hälfte des 17. Jahrhunderts, in der Kathedrale von Cuernavaca in Mexiko (Kat. Nr. 8).

In Japan kam im 17. Jahrhundert die grauenhafte Verfolgung der Christen unter den drei Shogunen (Herrscher) aus dem Hause Tokugawa. Die Tragödien der japanischen Märtyrer wurden eine nach der anderen dem Abendlande berichtet und erweckten eine starke Rührung der Katholiken. Die heldenhaften Taten der japanischen Christen, die sich der greulichen Verfolgung gegenüber sahen, stellen die Verkörperung jenes christlichen Paradoxons „Victor quia victima" dar und fesselten daher die Christen der Barockzeit mit exotischen Reizen. Man könnte vielleicht ruhig sagen, daß Japan durch das Märtyrertum doch den Europäern näher bekannt wurde. Es ist schon von J. Müller[43] und in letzter Zeit auch von Th. Immoos[42] hingewiesen worden, daß das Thema Japan im Barocktheater, besonders im Theater der Jesuiten, die mit Vorliebe die Märtyrer ihrer Missionasländer auf die Bühne brachten, eine nicht geringere Rolle spilete. Nach den Studien von Th. Immoos wurden Dramen, die Japan, vor allem japanische Märtyrer, wie z. B. „Christianomachia Japonensis", „Protasius Rex Arimae", „Justus Ucondonus" und „Sieben japanische Märtyrer", zum

Thema haben, zwischen 1605 und 1836 in ganz Europa 164 mal gespielt. Was die Märtyrer von Nagasaki im Jahre 1597 betrifft, haben wir auch Dokumente, daß 1628 in Duinkerken (Nordfrankreich) und 1630 in Tournai Dramen über das Martyrium der drei Jesuiten—„Het Christen-Saet van Japonien oft de Martelie van Paulus Michi, Johannes de Goto, ende Didacus Guizai, Japonosisen" und „Martyrium trium e Societate Japonensium"—gespilet wurden.

Nicht nur in der Publikation des 17. Jahrhunderts und im Barocktheater, sondern auch in der Kunst des Barocks wurde das Thema Japan, vor allem das von den japanischen Märtyrern, oft aufgenommen. In Italien wurden, wie schon É. Mâle, A. Pigler (*Barockthemen*, 1956/1974) und L. Réau (*Iconographie de l'art chrétien*, III, 1958) aufmerksam gemacht haben, das Martyrium der 23 von Camillo Rama (gest. nach 1622, Kat. Nr. 1), Tanzio da Varallo (gest. 1635, Kat. Nr. 5) und Francesco Maffei (gest. 1660, Kat. Nr. 53) dargestellt, während Giovanni Lanfranco (gest. 1647, Kat. Nr. 20), Cavaliere d'Arpino (gest. 1640, Kat. Nr. 21), Cagnacci (gest. 1681, Kat. Nr. 24 und 25) und Lorenzo Pasinelli (gest. 1700, Kat. Nr. 26) die Kreuzigung der drei Jesuiten malten.
Die Beispiele in Spanien und in seiner Kolonie Peru sind teilweise schon von D. Pacheco[45] bekannt gemacht. In Spanien wurden vor allem viele Holzstatuen der drei Jesuitenmärtyrer geschnitzt, von denen die von Francisco Diaz del Rivero (um 1630, Kat. Nr. 58), Alonso de Saavedra (1670, Kat. Nr. 59), Marcelino Roldán (1732, 82) und Pedro Duque Cornejo (gest. 1757, Kat. Nr. 83), sowie die Juan de Mesa (gest. 1627) zugeschriebenen schönen Statuen aus Holz (Kat. Nr. 81) besonders bemerkenswert sind. Auch In Peru wurden schon 1630 zwei Gemälde (Kat. Nr. 9 und 10), die die 23 Märtyrer darstellen, von einem Maler namens Lázaro Pardo de Lagos gemalt. In Peru gibt es vor allem in Lima viele Beispiele. Z. B. finden sich unter den insgesamt 40 Märtyrern des Franziskanerordens, die im Kreuzgang des Franziskanerklosters, je einer auf jedem Pfeiler in Kachelnbildern (Sevillianer Kacheln aus der ersten Hälfte des 17. Jahrhunderts) zu sehen sind, die 23 Märtyrer von Nagasaki (Kat. Nr. 11) den historischen Tatsachen getreu dargestellt: die Hände und Füße der Märtyrer z. B. sind hier mit eisernen Fesseln ans Kreuz geheftet, wie Frois uns berichtet (Kap. 16).
Von den Titelbildern der während des 17. Jahrhunderts erschienenen Büchern über die Märtyrer von Nagasaki im Jahre 1597 (Kat. Nr. 22, 29 usw.) sei hier, außer den bereits erwähnten Beispielen (Kat. Nr. 2 und 4), nur eines erwähnt: das Titelkupfer zu dem 1674 in München publizierte Büchlein über die drei Jesuitenmärtyrer (Kat. Nr. 28). Dieses Titelbild ist nichts anders als eine Kopie nach dem Kupferstich von Schelte Adams Bolswert (gest. 1659, Kat. Nr. 27), das sich damals verbreitet haben dürfte. Das Werk dieses flandrischen Kupferstechers kann neben dem von Callot (Kat. Nr. 3) ohne Zweifel zu den besten graphischen Werken gezählt werden, die die japanischen Märtyrer darstellen.
Im 18. Jahrhundert machte man nicht so viele Kunstwerke wie im 17. Jahrhundert, die die Märtyrer von Nagasaki im Jahre 1597 zum Gegenstand haben. Als Beispiele hiefür seien hier nur das Gemälde mit der Szene des Martyriums von den drei Jesuiten (Kat. Nr. 31), das von H. Voss als Frühwerk von François Boucher anerkannt wurde, und dessen Kupferstichkopie von Laurent Cars (gest. 1771, Kat. Nr. 32), sowie das Titelbild (Kat. Nr. 13) und die Illustration (Kat. Nr. 14) zu dem dritten Band der 1744 in Manila veröffentlichten Chronik des Franziskanerordens angeführt. Diese beiden graphischen Werke, die die Kreuzigung der 23 Märtyrer wiedergeben, können zu den Beispielen gezählt werden, die die Szene des Martyriums

vom Jahre 1597 am ausführlichsten darzustellen versuchen. Wie Frois schildert, sind hier die Augenzeugen des Martyriums zu sehen, die nicht vor dem Schlag der Schergen zurückweichen und die Tücher in das Blut der Märtyrer, das in Strömen floß, tauchen; in der Mitte des Richtplatzes ist das Schild zu finden, auf dem das Verurteilungsdekret geschrieben stand[47]. Urigens ist in den beiden Werken rechts unten der Bischof von Japan, Pedro Martinez, dargestellt, der nach seinem Brief vom 22. Feberuar 1597 von dem Fenster eines Hauses die Martyriumsszene gesehen haben soll.

Im Jahre 1862 erfolgte am Pfingstfest die feierliche Heiligsprechung aller 26 Märtyrer in St. Peter zu Rom: sie wurden zum ersten Mal in der Geschichte des japanischen Chistentums von Papst Pius IX. kanonisiert. Anläßlich dieser Heiligsprechung wurde die Publikation der Bücher über diese japanischen Heiligen wieder aktiv, allein im Jahre 1862 wurden in Rom, Breda, Paris, Lille, Luzern, Madrid, Valencia, Mainz, Toulouse, Dublin usw. mehr als 17 Arten Bücher über alle 26 oder über die 23 oder die drei Jesuiten oder über Pedro Baptista veröffentlicht[49], von denen mindestens sieben mit einem Titelbild versehen sind: Kat. Nr. 15, 66, 67, 37/38, 39, 40 und 41. Von den Titelbildern dieser Bücher sind das Titelkupfer zu dem in Breda erschienenen Buch von N. A A. Aussems (Kat. Nr. 39) und der Holzstich von dem Pariser reproduzierenden Holzschneider Auguste Pontenier (Kat. Nr. 40) zu dem Buch von D. Bouïx in der Hinsicht interessant, daß eines von diesen Titelbildern, die die Kreuzigung der 26 Märtyrer darstellen, in Japan von einem japanischen Kupferstecher namens Aritoshi Ishida in einem Titelbild (Kat. Nr. 42) zu dem 1887 in Osaka publizierten Buch über das Martyrium der 26 Heiligen kopiert wurde.
Im 19. Jahrhundert wurden die 26 Märtyrer, wenn sie auch kanonisiert wurden, zum Unterschied von dem 17. Jahrhundert nicht mehr von dem mehr oder weniger großen maler der Zeit gemalt, und in diesem Jahrhundert hat das Thema der 26 Japanischen Heiligen Märtyrer zwar japanische (Kat. Nr. 91, 47/48/93, 50/51/94, 92 und 95), jedoch nicht so sehr ausländische Künstler interessiert.

Die vorliegende Arbeit hat sich zur Hauptaufgabe gemacht, Kunstwerke, die die Szene des Martyriums von Nagasaki im Jahre 1597 zum Thema haben, zu katalogisieren, wobei allerdings Werke, die einzeln jeden Märtyrer wiedergeben, ausgenommen sind.

日本26殉教者作品カタログ

I. 1597年の長崎における殉教場面を表わす作品
  i. フランシスコ会関係23人（フランシスコ会士6名および日本人平信徒17名）の磔刑図，および，列聖式（1862年）以前の26人全員の磔刑図
  ii. 3イエズス会士の磔刑図
  iii. 列聖式（1862年）以後の26聖人全員の磔刑図
  iv. 殉教場面を表わすその他の作品
II. 1597年の長崎における殉教者を表わす作品
  v. 十字架を持つ3イエズス会士
  vi. 3イエズス会士を表わすその他の作品
  vii. フランシスコ会士6人，フランシスコ会関係23人，および，26聖人全員を表わす作品

Katalog von Darstellungen der 26 japanischen Märtyrer

I. Werke, die die Szene des Martyriums von Nagasaki im Jahre 1597 darstellen
  i. Die Kreuzigung der 23 Märtyrer (sechs Franziskaner und 17 japanische Laien), und Beispiele der Kreuzigung von allen 26 Märtyrern, die vor der Kanonisation (1862) entstanden
  ii. Die Kreuzigung der drei Jesuiten
  iii. Die Kreuzigung von allen 26 Heiligen (Beispiele nach der Kanonisation im Jahre 1862)
  iv. Andere Beispiele der Martyriumszene
II. Werke, die die Märtyrer von Nagasaki im Jahre 1597 darstellen
  v. Die drei Jesuiten, die das Kreuz halten
  vi. Andere Werke, die die drei Jesuiten darstellen
  vii. Werke, die die sechs Franziskaner, die 23 Märtyrer, und alle 26 Heilige darstellen

---

文献略号　Abgekürzt zitierte Literatur

Frois—Galdos, Relación del Martirio = Relación del Martirio de los 26 cristianos crucificados en Nangasaqui el 5 Febrero de 1597. P. Luis Frois S. J. Autor. P. Romualdo Galdos S. J. Editor. Roma 1935.

Mâle, Après Trente = É. Mâle, *L'art religieux de la fin du XVIe siècle, du XVIIe siècle et du XVIIIe siècle. Étude sur l'iconographie après le concile de Trente. Italie—France—Espagne—Flandres,* Paris 1951 (Deuxième édition).

Laures = J. Laures, *Kirishitan Bunko. A Manuel of Books and Documents on the early christian Mission in Japan with special reference to the principal Libraries in Japan and more particularly to the collection at Sophia University,* Tōkyō, third, revised and enlarged, Edition, Tōkyō 1957.

Pigler, Barockthemen = A. Pigler, *Barockthemen. Eine Auswahl von Verzeichnissen zur Ikonographie des 17. und 18. Jahrhunderts,* 2. erweiterte Auflage, Budapest 1974, Bd. I–II, Tafelband.

Réau, Iconographie III = L. Réau, *Iconographie de l'art chrétien,*Tome III, Paris 1958.

Thieme-Becker = Allgemeines Lexikon der bildenden Künstler von der Antike bis zur Gegenwart, hrg. von U. Thieme und F. Becker (und von H. Vollmer), Bd. I–XXXVII, Leipzig 1907–1950.

『日本二十六聖人・長崎』＝『日本二十六聖人・長崎』，二十六聖人資料館，1962年.

パチェコ「エスパニアの日本殉教者像」＝ Diego Pacheco「エスパニアの日本殉教者像」，『キリシタン研究』第8輯，吉川弘文館，1963年，202–205頁.

パチェコ「リマ植民時代の美術に現われた日本の殉教者」＝ ディエゴ・パチェコ（岩谷十二郎訳）「リマ（ペルー）植民時代の美術に現われた日本の殉教者」，『キリシタン研究』第8輯，吉川弘文館，1963年，179–184頁.

I. 1597年の長崎における殉教場面を表わす作品
Werke, die die Szene des Martyriums von Nagasaki im Jahre 1597 darstellen

i. フランシスコ会関係23人の磔刑図，および，列聖式（1862年）以前の26人全員の磔刑図
Die Kreuzigung der 23 Märtyrer und Beispiele der Kreuzigung von allen 26 Märtyrern, die vor der Kanonisation (1862) entstanden

1

カミロ・ラーマ（ブレッシァの画家，1622年以後歿）
Camillo Rama (Maler von Brescia, gest. nach 1622; Thieme-Becker, XXVII, 584)

ブレッシァ，サン・ジュゼッペ聖堂：油彩画
Brescia, Chiesa di S. Giuseppe: Ölgemälde

フランシスコ会関係23人の磔刑
Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

文献 Lit.: G. B. Carboni, *Le pitture e sculture di Brescia*, 1760, 21; *Cat. della Mostra della pittura a Brescia nel 600 e 700*, Brescia 1935, 63; *Thieme-Becker*, XXVII (1933), 584; *Pigler*, *Barockthemen*, Bd. I, 434

2

ドゥエ（フランス）・1628年刊『フランシスコ会23殉教者および3イエズス会士の生涯と死』の銅版扉絵（1627年の年記）
Titelkupfer (datiert: 1627) zu: La vie et la mort de vingt-trois martyrs de l'ordre de Saint-François et de trois jésuites, tous crucifiez et transpercez de lance au Japon. Ensemble les prodiges et miracles arrivés devant et après leur martyr recognu par N.S.P. Urban VIII, en Juillet de l'an | 628 ... Douai, imp. de Pierre Auroy, 1628

フラシンスコ会関係23人（？）の磔刑
Die Kreuzigung der 23 (?) Märtyrer

この銅版扉絵とジャック・カロの銅版画（本カタログ3参照）との関連は，J. リウールにより指摘されている。
J. Lieure hat auf die Beziehung dieses Titelkupfers zu der Radierung von Jaques Callot (siehe Kat. Nr. 3) hingewiesen.

文献 Lit.: J. Lieure, *Jacques Callot*, Paris 1927, I, 100, note 2

3

ジャック・カロ
Jacques Callot (Nancy 1592—1635 Nancy; Thieme-Becker, V, 406–408)

エッチング（16.7×11.3 cm），1627年以後
Radierung (16.7×11.3 cm), nach 1627
第1ステート 1. Zustand
左下に署名 Signiert links unten: Callot fec.
下部余白に銘 Inschrift unten am Rande: Le Pourtraict des premier 23 Martire mis en Croix par la predicaon. de la S. foy au Giappon / soubs l'Empe Taicosam en la Cité de Mongasachi, de lordre des freres mineurs Observantin de S. Francois.

国立西洋美術館蔵（G・1971-5；昭和45年度購入作品）
Tokyo, Nationalmuseum für Westliche Kunst (Inv. Nr. G・1971-5)

フランシスコ会関係23人の磔刑
Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

このエッチングは，ロレーヌ（ナンシー）のフランシスコ会のために制作されたもの（この修道会とカロとの関係については，E. Martin, J. Callot et l'ordre de Saint François, *Semaine religieuse du diocèse de Nancy*, 1929 を参照）で，É. マールのいうように1627年の列福式後間もない頃の作品と考えられる。J. リウールは1628年の初め，Th. シュレーダーは1629年頃の制作としている。レニングラード（エルミタージュ美術館）には，このエッチングのための部分習作のデッサンが4点残っている（D. Ternois, *Catalogue des dessins de Jacques Callot*, Paris 1962, 1102–1105; Th. Schröder, *Jacques Callot*, München 1971, Bd. 1, 651 を参照）。本図と関連する諸作例（本カタログ 2, 4, 5）については本文18-19頁を参照。なお，本図は後に，アントニオ・フランシスコ・カルディム著『日本殉教精華』（ローマ・1646年刊，本カタログ22）の挿図としても使われたらしい（これについては J. Lieure, *Jacques Callot*, Paris 1927, V, 89 参照）。
Diese Radierung, die J. Callot für die Franziskaner von Lorraine schuf, scheint bald nach der Beatifikation der 23 japanischen Märtyrer (1627) entstanden zu sein, wie É. Mâle meint. J. Lieure datiert dieses Werk um den Anfang des Jahres 1628, Th. Schröder um 1629.—In Leningrad (Eermitage) gibt es vier Vorzeichnungen dazu (Ternois 1102–1105).—Später scheint diese Radierung Callots auch als Illustration zu *Fasciculus e iapponicis floribus*... von Antonio Francisco Cardim (Rom 1646, siehe auch Kat. Nr. 22) verwendet worden zu sein (vgl. darüber J. Lieure, V, 89).—Siehe auch den Text S. 29-30.

文献 Lit.: É. Meaume, *Recherches sur la vie et les ouvrages de Jacques Callot*, Nancy 1853, No. 155; J. Lieure, *Jacques Callot, Catalog of the Graphic Works*, New York 1969 (Reprint: Paris 1927), Vol. V, 88–89 (No. 594), Vol. I, 100; *Mâle, Après Trente*, 118–119, Fig. 63; *Réau, Iconographie III*, 921; D. Ternois, *L'art de Jacques Callot*, Paris 1962, p. 176, pl. 60b; Th. Schröder, *Jacques Callot. Das gesamte Werk*, Münden 1971, Bd. 1, 627–628, Bd. 2, 1481; 『国立西洋美術館年報』No. 5／1971, 58–59（新収作品目録），挿図

4

ジョヴァンニ・ピエトロ・ビアンキ（1625年頃ミラノで活躍した銅版画家）

Giovanni Pietro Bianchi (Kupferstecher, tätig in Mailand um 1625; Thieme-Becker, III, 583)

ルイス・フロイス著『26殉教者録』（ミラノ・1628年刊）の銅版扉絵（12×9 cm）

Titelkupfer (12×9 cm) zu: Relatione/Della gloriosa morte/Di XXVI. Posti In Croce/Per commandamento del Rè di Giappone, alli 5. di Febraio/1597., de quali sei furno (sic!) Religiosi di San Francesco, tre della Compagnia di Giesù, e diecisette Chri-/stiani secolari Giapponesi, posti nel numero/de SS. Martiri da N. S. Papa Vrb. VIII./alli 15. di Settembre l'anno 1627./Mandata dal Padre Luigi Frois alli 15 di Marzo l'istesso/anno 1597. al R. P. Claudio Aquauiua Generale/di detta Compagnia./Tradotta in Italiano dal P. Gasparo Spitilli/di Campli della medesima Compagnia./In Milano./Per Gio: Battista Bidelli. M. DC. XXVIII. [*Laures 386* (*257*)].

下部余白右に署名 Signiert rechts unten am Rande: G. P. Bianchi F. in Mil.

下部余白の銘 Inschrift unten am Rande: Vintisei Santi Martiri posti in Croce nel Giappone a 5 di Febraro l'anno 1597/A. Li 6. Frati Franciscani Scalzi, B. i tre Religiosi della Comp^a. di Giesù Giapponesi/Compagni di 120 della medesima Compagia di Varie nationi che stauano in quel/tempo Sparsi nel Giappone; nel quale Regno i detti Padri prima di tutti, e longo tempo soli hanno piantato la nostra. S^a. Fede, et al presente la conseruano tra/Mille trauagli, pene, e morti, C. li 17 Christiani secolari Giapponesi, 9 de quali fuxo=/no conuertiti alla Fede dai Padre di S. Francesco, et 8 da quelli della Comp^a. che con 300 milla altri stauano all'hora sotto la cura dell'istessa Compagnia/di Giesù, D. Li 2 Padri della med^a. Comp^a. che essortuuano i Santi Martri alla ...stanza nella Fede di Christo, E. Guadia Moscheltieri

銘帯 Auf der Banderole: Christo confixi sumus Cruci, ad Gal: 2

東京大学付属図書館 (A100/826) 蔵

Bibliothek der Universität Tokyo

26人全員の磔刑

Die Kreuzigung aller 26 Märtyrer

本図は，26人全員がそろった殉教図の最も早い作例のひとつであり，J. カロのエッチング（3）と，十字架の遠近法的配列法および，棕櫚の枝と月桂冠を殉教者に用意する天使ケルビムのモチーフなどの点で密接な関係にある（これについては本文29-30頁参照）。

Dieses Titelkupfer von G. P. Bianchi, das eines der frühesten Beispiele von der Darstellung der Kreuzigung aller 26 Märtyrer ist, hat enge Beziehungen zu der Radierung von Callot (Kat. Nr. 3): in der perspektivischen Aufstellung der Kreuze und in dem Motiv der Cherubinen, die den Märtyrern Palmzweig und Lorbeerkranz reichen. Vgl. auch den Text S. 29-30.

5

タンツィオ・ダ・ヴァラロ，本名アントニオ・デンリコ

Tanzio da Varallo, eigentlich Antonio d'Enrico (Alagna um 1575—1635 Varallo?; Thieme-Becker, XXXII, 436–437)

ミラノ，ブレラ美術館．油彩，カンヴァス，115×80 cm

Milano, Pinacoteca di Brera, Nr. 385: Öl auf Leinwand, 115×80 cm

フランシスコ会関係23人の磔刑
Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

この油彩画は，1811年，ヴァラロの修道院からブレラ美術館に入ったものであるが，タンツィオはヴァラロで1628年以後まで仕事をしている。カロのエッチング(3)を思わせるこの作品についてÉ・マールは，タンツィオはカロの版画を知っていたのであろうと推定している。本文18頁参照。

Dieses Ölgemälde erwarb die Pinakothek Brera 1811 aus dem Convento delle Grazie in Varallo, wo Tanzio bis nach 1628 arbeitete.—É. Mâle vermutet, daß Tanzio wahrscheinlich die Radierung von Callot (Kat. Nr. 3) kannte.—Siehe auch den Text S. 29.

文献 Lit.: *Thieme-Becker*, XXXII (1938), 437; *Mâle, Après Trente*, 119; *Pigler, Barockthemen*, Bd. I, 434, Tafelband, Taf. 142; E. Modigliani, *Catalogo della Pinacoteca di Brera in Milano*, Milano 1966, 77 (Nr. 385); 坂本満「日本キリスト教徒殉教図の二，三について」，『美術史』74, Vol. XIX/No. 2, 1969年，68–69頁（第二十三回総会研究発表要旨）；坂本満「三人たりない殉教者」，『芸術新潮』1969年11月号，108頁，挿図；坂本満・吉村元雄『南蛮美術』，小学館（日本の美術34）1974，94頁，挿図3

6

ペトロ・ビヴェリウス（イエズス会士）著『十字架の聖所並びに十字架にかけられた人及び十字架を負った人の忍耐』（アントワープ・1634年刊）の銅版挿絵

Illustration (Kupferstich) zu: Petro Biverius (S. J.): Sanctuarium Crucis et Patientiae Crucifixorum et Cruciferorum, Antverpiae 1634

下部余白の銘 Inschrift unten am Rande: Cedite nunc Fotoqui, Christi vicere tropaea. Germinat ex nostro Sanguine diva fides.

パリ，国立図書館蔵 Paris, Bibliothèque Nationale

（図版提供：坂本満氏）

26人全員の磔刑
Die Kreuzigung aller 26 Märtyrer

本文19頁参照。Siehe den Text S. 30.

文献 Lit.: J. B. Knipping, *Iconography of the Counter Reformation in the Netherlands—Heaven on earth*, Nieuwkoop—Leiden 1974, Vol. I, 137; 坂本満「日本キリスト教徒殉教図の二，三について」，『美術史』74, Vol. XIX/No. 2, 1969年，69頁

7

パリ国立図書館蔵の銅版画（1684年）

Kupferstich aus dem Jahr 1684 (Paris, Bibliothèque Nationale)

データ不明　Genaueres unbekannt

（図版提供：坂本満氏）

下部余白の銘　Inschrift unten am Rande: Il'Glorioso Pre: F. PIETRO Batta: della Prousa: di S. Gioseppe fondata da S. Pietro d'Alcantara in Spagna/della piu stretta Ossza del P. S. Fran^co: Ando Comiss^o: alla Proua di S: Gregorio dell' isole Filippine, Poi Am:/basatore pil Re; Cattco a 'Taicozama quabacondono Imperatore del Giappon, riceuuto con grand'hono/re, e'di suo consenso predicaua pubblicam^te: la fede di Xpto: à quegli Idolatri, oue edifico'molte chiese, e Monasterÿ: Poi carcerato con suoi compagni tre P. P. sacerdoti, FRAN^co: FILIPPO, e MARTINO, et GON:/ZALO, e FRAN^co: laici, con 17 del 3°: ordine del P. S. Fran^co: suoi discepoli, e doppo lungo Martirio furono,/crocifissi, e con colpi di lancia ne fianchi fatti uolar al Cielo li 5 Febraro 1597, e furono li seoni:/martiri della Riforma, e da Vrbano VIII l'anno 1726 dichiarati Martiri.

フランシスコ会関係23人の磔刑

Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

8

クエルナバカ（メキシコ），司教座大聖堂：フレスコ壁画，17世紀前半（1627年以後？）

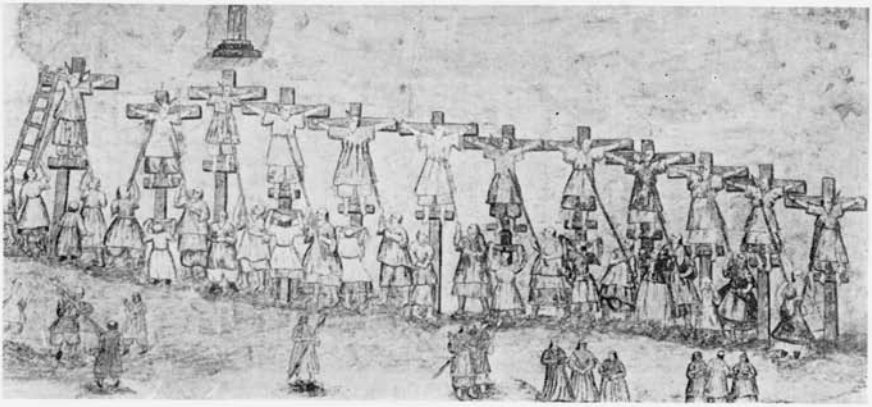
Cuernavaca (Mexico), Catedral: Fresken aus der ersten Hälfte des 17. Jh. (nach 1627?)

日本26殉教者物語（26人の磔刑図を含む）

Die Geschichte der 26 Japanischen Märtyrer (mit der Kreuzigung der 26 Märtyrer)

クエルナバカ司教座大聖堂は，16世紀にフランシスコ会の教会（アスンシオン）として建てられ，1891年司教座聖堂となった。クエルナバカは，1613年伊達正宗によりローマへ派遣された支倉常長が，アカプルコからこの地を通ってベラクルスの港に達し，ローマに出発したところで，また，東洋へ布教に行く宣教師たちの一大根拠地でもあった。1959年の改築工事中に18世紀の壁画層の下から発見された日本26殉教者物語の諸場面は，単廊式聖堂の左右両壁（高さ8m）にそれぞれ30mにわたって描かれ，荷車に乗せられて引き廻わされる場面，馬で護送される場面，大村湾を船で渡る場面，時津に上陸する場面，磔刑の場面が残存する。南壁の銘帯に銘の一部が残っている（……RESIVENEN・JAPON……EMPERADOR・TAYCOSAMA・MANDO・MARIIZAR・POR…）。北壁に描れた処刑の場面では，合計13人がはりつけにされているところが残っており，あとは剝落してしまっている。上陸する場面（北壁）で，ニンブスのある殉教者が26人数えられる（ただし，船の場面では28人）ので，26人全員の殉教図と考えられる。はりつけの場面の下の方に，十字架が幾つか見られるが，これは，処刑後の模様と推定されている（本間正義氏論文参照）。十字架の下には布を掲げた人が一人ずつつき，殉教者の血を受けている。壁画を描いた画家については何も知られていない。ルイス・イスラス・ガルーシアは，この壁画全体の構図やディテールにおける，鎖国前後のキリシタン絵画との類似を指摘し，一方，本間正義氏は，〈欧風とインデオ風のまじったメキシカン・スタイルに，さらに日本の要素が加わって出来たもの〉とし，制作時期を〈実際に日本人が参加し得た支倉使節団の滞留時期の1615/16年を中心とする頃〉に置いている。これに対して，〈聖フェリペと共にフェリペ号に乗り合わせ，あるいは，殉教にも居あわせたかもしれないフィリッピン人によって画かれた〉とする説（『キリシタン研究』VIII）もある。なお，壁画の制作の時期については，上陸する場面で殉教者たちがニンブスをつけて表わされていることからも，1627年の列福式以後と考える方が適当であろう。

Die Geschichte der Japanischen Märtyrer ist auf den südlichen und nördlichen Wänden der einschiffigen Kirche, die im 16. Jahrhundert gebaut wurde und seit 1891 Kathedrale ist, jede 30m lang (8m hoch),



gemalt. Die Fresken, die 1959 während des Umbaues unter den Malschichten des 18. Jahrhunderts entdeckt Wurden, sind nicht vollständig auf uns gekommen. Erhalten sind: die Städtefahrt der Ochsenkarren; der Ritt zu Pferd der Gefangenen nach Nagasaki; die Schiffahrt in der Bucht von Omura; die Landung in Tokitsu; die Kreuzigung. Die Szene der Hinrichtung ist an der Nordwand placiert: heute sind nur 13 Gekreuzigte erhalten.

文献 Lit.: Luis Islas Garcia, „Excelsior" (Zeitung von Mexico), 11. Feb. 1962; Manuel Quesada Brandi, San Felipe de Jesús, Mexico 1962, Abb.; パチェコ・ディエゴ「メキシコの聖者フェリペ・デ・ヘスス」,『長崎談叢』第40輯（1962年），20頁；「メキシコの日本二十六聖殉教者壁画」,『キリシタン研究』VIII, 1963年，176–177頁，図版；本間正義「クエルナバカ寺院での新発見・海をわたった長崎殉教者の図——中世における日本とメキシコの交流について」,『三彩』No. 183, 1965/3, 9–24頁，図版・挿図；伊藤静江「日本殉教者縁りの国——メキシコ便り」,『カトリック新聞』1967年10月22日号；松田毅一『江戸・南蛮・東京』，読売新聞社，1971年，39–45頁，カラー図版；高山智博『マヤとインカの美術』，講談社（グランド世界美術 7），1975年，図版91

9, 10

ラザロ・パルド・デ・ラゴス（1628–1669年活動）

Lázaro Pardo de Lagos (tätig 1628–1669)

クスコ（ペルー），レコレータ（フランシスコ会聖堂）：2点の絵画（油彩・テンペラ），1630年，署名入り

Cuzco (Peru), Recoleta (Franziskaner-Kirche): zwei Gemälde (in Öl und Tempera), 1630 datiert, signiert

フランシスコ会関係23人の磔刑

Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

M. ソリアは，これら2点の作品が日本人を忠実に写していると指摘し，それは多分銅版画を通じてであろうと推定している。

M. Soria weist darauf hin, daß die getreue Wiedergabe der Japaner in diesen beiden Gemälden auf den Kupferstich zurückgeht.

文献 Lit.: G. Kubler—M. Soria, *Art and Architecture in Spain and Portugal and their american dominions 1500 to 1800*, Harmondsworth 1959, 323; パチェコ「リマ植民時代の美術に現れた日本の殉教者」，184頁

11 (a—w)

リマ（ペルー），聖フランシスコ修道院廻廊：庭園側のアーチを支える柱の陶板（セビリア製），17世紀前半

Lima (Peru), Convento de San Francisco, Kreuzgang: Sevillianer Kacheln (Azulejos) aus der ersten Hälfte des 17. Jh.

（図版提供：ティエゴ・パチェコ師）

フランシスコ会関係の殉教者23人の磔刑（23点）

Die Kreuzigung der 23 Märtyrer (23 Kachelbilder)

この修道院の廻廊の柱には合計40人のフランシスコ会関係の殉教者像が各柱一人ずつ陶板に表されているが（183×60 cm），そのうちの23人が1597年長崎における殉教者である。これらの陶板は1638—39年にセビリアから舶来された。

Im Kreuzgang des Franziskaner-Klosters in Lima sind insgesamt 40 Märtyrer des Franziskanerordens, je einer auf jedem Pfeiler, in Kachelbildern (Sevillianer Kacheln) dargestellt, davon sind 23 die Märtyrer von Nagasaki im Jahr 1597. Diese Kacheln wurde 1638–39 von Sevilla importiert.

文献：パチェコ「リマ植民時代の美術に現われた日本の殉教者」，170–181頁，図版（聖トマス談義者，聖ガブリエル）

鈴木パウロ
Paulus Suzuki

たけ屋コスメ
Takeya Kosme

12
マテウス・ファン？
Mateus Van?
マカオ，賈梅士（カモンイシ）博物院：油彩画，176×254cm，1644年？
Makao, Museu Luis de Camões: Ölgemälde, 176×254 cm, 1644?

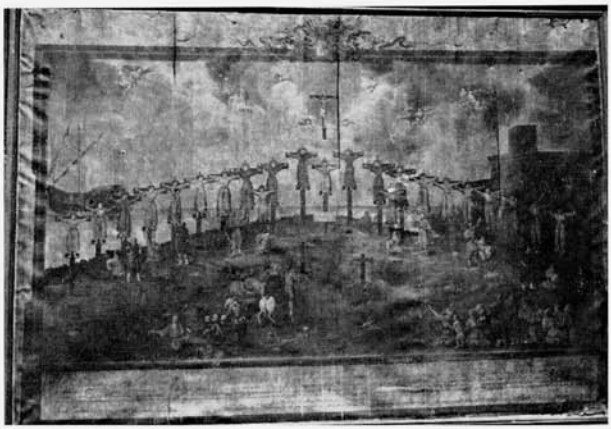
下部に六行にわるポルトガル語銘　Unten portugiesische Inschrift in 6 Zeilen: Glorioso Martirio dos 23 Santos Proto-Martires do Japão da Ordem Serafica das Filipinas, Martirizados por Mandado do Imperador Taycozama em Nangazaqui aos 5 de Fevereiro de 1597. E canonizados pelo S.^{mo} P. Urbano 8° no Anno de 1627. ..... Tenho condenado estes prezos a Morte porq. viérão das Filipinas ao Japão com o fingido titulo de Embaixdr.^{a}, e p.^{r} q. têm presist.^{o} nas M.^{as} terras se' M.^{a} licença e prégado a Lei dos Christaons contra o meu Decreto. Mando, e quero que sejão crucificados na Minha cidade de Nangazaqui.

（図版提供：ジャイメ・コエリョ師）

フランシスコ会関係23人の磔刑
Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

ポルトガル語銘文中には23人のうちの4名の名前が欠けている。画面中央部の下よりに3本の十字架のみがみえるが，これはイエズス会の3人のためのものである。
Unten in der Mitte des Bildes sind drei leere Kreuze für die drei Jesuiten zu sehen.

文献 Lit.: Gloriozo Martirio dos 23 Santos Proto-Martires do Japaõ〔da Ordem Serafica das Filipinas, Martirizados por mandado do Imperador Taycozama em〕Nangazaqui aos 5 de Fevereiro de 1597. 〔E canonizados pelo S.^{mo} P. Urbano 8°. mo Anno de 1627,〕 *Arquivos de Macau*, Vol. III, No. 1, 1930, p. 21–22, plate; 中山省三郎「澳門紀行」，『『世界紀行文学全集，第十一巻，中国篇 II』，修道社，1971年；可児弘明「マカオ賈梅士博物院にある一五九七年長崎殉教者図」，『史学』第39巻第3号，115～119頁，挿図



13

ラウレンチウス・デ・アトラス

Lawrentius de Atlas

フアン・フランシスコ・デ・サン・アントニオ著『フィリピン諸島・シナ・日本・其の他におけるサン・フランシスコ会のサン・グレゴリオ管区年代記』第III巻（マニラ・1744年刊）の銅版扉絵

Titelkupfer zu: Chronicas/De La/Apostolica Provincia/De San Gregorio, De Religiosos Descalzos De N. S. P./S. Francisco,/En Las Islas Philipinas,/China, Japan, & C./Parte Tercera, De La Celeberrima Seraphica Mission De Japon: Con/La Descripcion De Aqvel Imperio:/Glorioso Trivumpho De Nvestros/Protho-Martyres Invictos,/S. Pedro Bautista,/Y Svs Compañero, Svs Vidas, Sv Beatificacion, Y Cvltos./A Qvienes/La Consagra Sv Avtor, El P. Fr. Jvan Francisco De San Antonio,/Matritense, Lector de Artes, y Theologia Escholastica, y Moral, Calificador del Santo Oficio, Ex-Difinidor, y Chronista/General de ladicha Provincia. /Impressa en la Imprenta, de el vso de ella, sita en el Convento de Nuestra/Señora de Loreto, en el Pueblo de Sampaloc, Extra-muros de la Ciudad/de Manila: Por Juan del Sotillo. Año de 1744. [*Laures 614* (*418*)].

下部の銘帯に署名年記　Auf der unteren Banderole signiert und datiert: Laur.^{us} Atlas. Sculp. Manilae a.^{o} 1744

下部の銘帯の銘　Inschrift auf der unteren Banderole: GLORIOSO MARTYRIO/De los veinte, y tres SS. Protho Martyres ã Japõ. S. Pedro Bap-/tista y sus Compañeros, perteneciẽtes à la Ordẽ Seraphica, y Provincia/de Descalzos de San Gregorio de Philipinas

長崎，26聖人記念館；天理大学付属図書館蔵

Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer; Tenri, Bibliothek der Universität

フランシスコ会関係23人の磔刑

Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

十字架の脚にそれぞれ殉教者の名が記されている。左端には，長崎港に湾泊するルイ・メンデス・デ・フィグエイレドのガレオン船が見え，船上に追放された4人のフランシスコ会士が描れている。本文21頁参照。

In der unteren linken Ecke ist die Galeone des Rui Mendes de Figueiredo dargestellt, auf deren Bord die vier des Landes verwiesenen Franziskaner zu sehen sind. Siehe auch den Test S. 31-32.

文献（図版掲載）Lit. (abgebildet bei): *Bibliotheca Asiatica et Africana*, London 1929, V, 56–57 (Kat. Nr. 521); 木村太郎訳・松崎実注『日本廿六聖人殉教記』，岩波書店，1931年，口絵 1，(375頁)：*Frois—Galdos, Relación del Martirio*, (133); A. M. Carlo—J. Calvo, *Testimonios Aurenticos Acerca de los Protomartires del Japon*, Mexico 1954; M. Cooper—A. Ebisawa—F. G. Guitérrez—D. Pacheco, *The Southern Barbarians. The First Europeans*, Tokyo（講談社）1971, Pl. 33; M. Cooper, *Rodrigues The Interpreter. An Early Jesuit in Japan and China*, New York—Tokyo 1974, Fig. 7

14

マニラのフィリピン図書館所蔵本：フアン・フランシスコ・デ・サン・アントニオ著『年代記』（本カタログ 13 参照），第 III 巻（マニラ・1744年刊）の木版挿絵

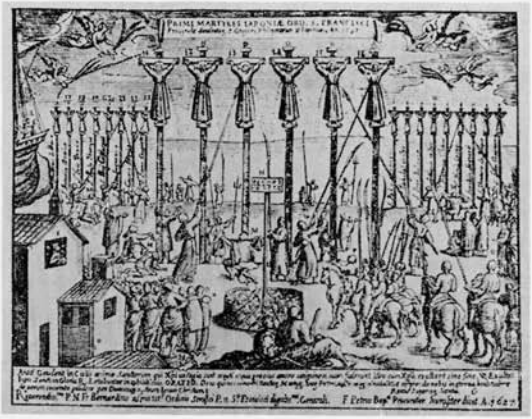
Buchillustration (Holzschnitt) in dem in der Philippinischen Bibliothek zu Manila befindlichen Exemplar des dritten Bandes von: Juan Francisco de San Antonio, Chronicas de la Apostolica Provincia de San Gregorio ....., Vol. III, Manila 1744 (Siehe Kat. Nr. 13). [*Laures 614 (418)*]

フランシスコ会関係23人の磔刑

Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

本文21頁参照。Siehe den Text S.31-32.

図版掲載：アビラ・ヒロン『日本王国記』，岩波書店・大航海時代叢書 XI，1965年，260 頁の挿図



15

ニコラ・モネータ（19世紀後半・ローマの銅版画家）

Nicola Moneta (Kupferstecher in Rom, zweite Hälfte des 19. Jh.; Thieme-Becker, XXV, 63)

ルイジ・グレゴリ（ボローニヤの画家，1883年頃歿）の原画による，アゴスティーノ・ダ・オシモ著『日本フランシスコ会23殉教者伝』（ローマ・1862年刊）の銅版扉絵（18.4×9.5 cm）

Titelkupfer (18.4×9.5 cm) nach Luigi Gregori (Maler von Bologna, gest. um 1883; Thieme-Becker, XIV, 578) zu: Storia dei Ventitre Martiri Giapponesi dell'Ordine dei Minori Osservanti detti Scalzi di S. Francesco.....scritta per la circonstanza della solenne canonizzazione dal P. Agostino da Osimo.....dedicata alla Santità di nostro Signore Pio Papa IX. Roma, Tipografia Tiberina. 1862. *L[aures 741 (512)]*.

署名　Signiert: L. Gregori dis.; N. Moneta inc.

下部余白に銘　Inschrift unten am Rande: I SS. MARTIRI FRANCESCANI PIERBATTISTA COMMISSARIO, MARTINO D'AQUIRRE, FRANCESCO BLANCO, FILIPPO LAS CASAS, GONZALVO GARZIA, FRANCESCO DALLA PARIGLIA, LEONE GARASUMA, PAOLO SUZUQUI, MICHELE COSAQUI, PAOLO IBARCHI, TOMMASO IDANQUI, FRANCESCO MEDICO, GABRIELE DUIZCO, BONAVENTURA DI MEACO, TOMMASO COSAQUI, GIOVANNI QUIZUJA, COSIMO TAQUIA, ANTONIO DI NAGASACHI, LODOVICO IBARCHI, GIOACCHINO SAQUIYE, MATTIA DI MEACO, PEITRO SUQUEZICO, E FRANCESCO PAHELANTE, SCALZI. Per la fede di Gesù Cristo crocifissi l'anno 1597, nel Giappone, e Canonizzati dalla Sta. di N^ro^. Signore PIO IX. P. M. nella Basilica Vaticana li 8. di Giugno 1862.

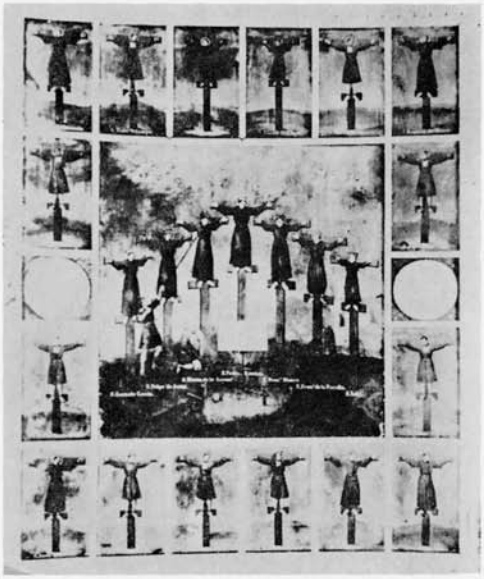
上智大学吉利支丹文庫（KB535/43/41–330）；長崎，純心女子短期大学；九州大学蔵
Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko; Nagasaki, Junshin zweijährige Hochschule; Fukuoka, Universität Kyushu
フランシスコ会関係23人の磔刑
Die Kreuzigung der 23 Märtyrer

16
ローマ，サン・フランチェスコ・ア・リーパのフランシスコ会修道院：油彩画，74×100 cm，1862年頃
Roma, Kloster S. Francesco a Ripa: Ölgemälde (74×100 cm) um 1862
フランシコ会関係23人の磔刑
Die Kreuzigung der 23 Märtyrer
文献：『聲』1942年 2 月号（792 号），挿図

17
札幌，聖フランシスコ会修道院：油彩画，98×135 cm
Sapporo (Japan), Franziskaner-Kloster, Ölgemälde (98×135 cm)
フランシスコ会関係23人の磔刑
Die Kreuzigung der 23 Märtyrer
ローマのフランシスコ会修道院所蔵のもの（本カタログ16参照）のコピーと思われる。1910年ローマから札幌に贈物としてもたらされたという。
Dieses Ölgemälde, das 1910 von Rom nach Sapporo als Geschenk gebracht wurde, scheint eine Kopie nach dem Gemälde im Kloster S. Francesco a Ripa in Rom (Kat. Nr. 16) zu sein.

文献：『キリシタン研究』VIII，1963年，図版および図版解説

18
データ不明　Genaueres unbekannt
（図版提供：片岡弥吉氏）
フランシスコ会関係23人の磔刑
Die Kreuzigung der 23 Märtyrer



ii. 3イエズス会士の磔刑図
Die Kreuzigung der drei Jesuiten

19

モデナ（イタリア）・1628年刊『3イエズス会士の輝ける死の小報告』の木版扉絵（13.6×10.7 cm）

Titelblatt (Holszchnitt: 13.6×10.7 cm) zu: Breve Relatione Della Gloriosa Morte. E Martirio di tre Religiosi della Compagnia di Giesù Paolo, Giovanni, E Giacomo... In Modona (sic!)... MDCXXVIII. [*Laures 380 (252)*].

東洋文庫（O-17-C/61）；天理大学付属図書館蔵

Tokyo, Toyo Bunko; Tenri, Bibliothek der Universität

3イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

文献：木村太郎訳・松崎實校註『日本廿六聖人殉教記』，岩波書店，1931年，口絵2，375–376頁

20

ジョヴァンニ・ランフランコ

Giovanni Lanfranco (Parma 1582—1647 Roma; Thieme-Becker, XXII, 309–311)

ナポリ，イル・ジェズー・ヌオヴォー聖堂：フレスコ

Napoli, Chiesa del Gesù Nuovo: Fresco

3イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

ランフラシコは1633年ないし1634年にナポリに行き，ジエスー・ヌオーヴォー聖堂のフレスコ壁画の制作にたずさわった。

Lanfranco ging 1633/1634 nach Neapel, wo er bei der Ausschmückung des Gesù Nuovo tätig war.

文献 Lit.: *Mâle, Après Trente*, 118; *Léau, Iconographie III*, 291

21

カヴァリエーレ・ダルピーノ，本名ジュゼッペ・チエーザリ

Cavaliere d'Arpino, eigentlich Giuseppe Cesari (Roma 1568—1640 Roma; Thieme-Becker, VI, 309–312)

ローマ，イル・ジェズー聖堂：油彩画

Roma, Chiesa del Gesù: Ölgemälde

3イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

文献 Lit.: G. Baglione, *Le vite de' pittori* .., 1642 (ed. 1733, 257); *Pigler, Barockthemen*, Bd. 1, 434

22 (a, b, c)

ピエール・ミヨット（17世紀中葉のブルゴーニュの銅版画家）

Pierre Miotte (burgundischer Kupferstecher um Mitte des 17. h.: Thieme-Becker, XXIV, 584)

アントニオ・フランシスコ・カルディム著『日本殉教精華』（ローマ・1646年刊）の銅版挿絵（3点）

Buchillustrationen (drei Kupferstiche) zu: Fascicvlvs /E Iapponicis Floribvs,/Svo Adhvc Madentibvs Sangvine, /Compositvs/A. P. Antonio Francisco Cardim/è Societate Iesv/Prouinciae Iapponiae ad Urbem/Procuratore./Qvi Legitis Flores./Hos Legite, /Sic Qvoniam Postiti Svaves/Miscentvr Odores./ Romae, Typis Heredum Corbelletti. 1646/Svperiorvm Permissv. [*Laures 444 (303)*].

各葉下部余白の銘 Inschriften unten am Rande jedes Blattes: S. Paulus Michi Iappon, Societ. IESV, crucifixus, & lanceis trānsfixus propter. Fidē Nangasachi. 5. Febr. 1597.—S. Iacobus Kisai Iappon,

Societ. IESV, crucifixus & lanceis transfixus propter Fidē, Nāgasachi. 5. Febr. 1597.—S. Ioannes Gotò Iappon, Societ. IESV, crucifixus, & lanceis transfixus propter Fidē, Nangasachis, S. Febr. 1597.

長崎県立図書館（316/2/329）；上智大学吉利支丹文庫；東京大学付属図書館；東洋文庫；京都大学；天理大学付属図書館；国立国会図書館；慶応大学；大阪，南蛮文化館蔵

Nagasaki, Präfekturbibliothek; Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko; Bibliothek der Universität Tokyo; Tokyo, Toyo Bunko; Universität Kyoto; Tenri, Bibliothek der Universität; Tokyo, Saatliche Parlamentsbibliothek; Tokyo, Keio Universität; Osaka, Nanban Bunka Kan

a）三木パウロの磔刑，b）五島ジョアンの磔刑，c）き斎ディオゴの磔刑

a) Die Kreuzigung von Paulus Michi; b) die von Joannes Goto; c) die von Jacobus Kisai

これら3点の銅版画には署名がないが，カルディムの『日本殉教精華』に挿入された版画の多くには，ピエール・ミヨットの署名（Petrus Miotte Burgundus Sculp.）が入っているので，3イエズス会士を表わしたこれらの図も彼の手になるものと思われる。

Diese drei Kupferstiche tragen zwar keine Signatur von Pierre Miotte, aber sie scheinen von ihm zu stammen, weil viele der Illustrationen in diesem Buch von diesem Kupferstecher signiert sind: Petrus Miotte Burgundus Sculp.

a)

b)

c)

23

東京，個人蔵：油彩画（89×117.5 cm）

Tokyo, Privatbesitz: Ölgemälde (89×117.5 cm)

枠の上下の縁に銘 Inschrift oben und unten auf dem Rahmen: Drij ghekruijste Japonoisen, Wt de Soci[t]. Jesu, den 5. Febr. 1597. S. Paulus Michi. oudt 33. S. Jacobus Khisai. oudt 64. S. Joannes Goto. oudt. 19.

3イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

（図版提供：福永重樹氏）

文献：岡田章雄篇『図説　日本の歴史　第10巻　キリシタンの世紀』，集英社 1975，図版 204（解説：福永重樹）

24

カニャッチ，本名グゥイド・カンラッシ

Cagnacci, eigentlich Guido Canlassi (S. Arcangelo di Romagna 1601—1681 Wien; Thieme-Becker, V, 505–506)

リミニ，サン・フランチェスコ・サヴェリオ聖堂，内陣右壁・油彩画

Rimini, Chiesa di S. Francesco Saverio, Presbysterium (rechte Seite): Ölgemälde

3イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

文献 Lit.: Fr. Noack, in: Thieme-Becker, V (1911), 505; *Guida d'Italia del Touring-Club Italiano, Emilia e Ramagna*, Milano 1957, 569; 吉浦盛純「耶蘇會日本三聖人殉教圖—リミニ市所在—」,『日本カトリック新聞』第826号（1941年9月14日），16頁

25

カニャッチ（本カタログ24参照）

Cagnacci (Siehe Kat. Nr. 24)

リミニ，絵画館：油彩画（120×190 cm）

Rimini, Pinacoteca: Ölgemälde (120×190 cm)

3イエズス会士の碑刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

本図は，リミニのサン・フランチェスコ・サヴェリオ聖堂内にある油彩画（本カタログ24参照）と大きさ・構図・色彩において極めて類似している。恐らくそのレプリカであろう。

Dieses Werk ist in der Größe, der Komposition und der Farbgebung mit dem Ölgemälde in der Kirche S. Francesco Saverio in Rimini (siehe Kat. Nr. 24) sehr eng verwandt, was an eine Replik denken läßt.

文献 Lit.: 吉浦盛純「耶蘇會日本三聖人殉教圖—リミニ市所在—」,『日本カトリック新聞』第826号（1941年9月14日），16頁，挿図；*Léau, Iconographie III, 921*

26

ロレンツォ・パシネリ

Lorenzo Pasinelli (Bologna 1629—1700 Bologna; Thieme-Becker, XXVI, 269–270)

ボローニャ，サンタ・ルチア聖堂：油彩画

Bologna, Chiesa di S. Lucia: Gemälde

三イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

文献 Lit.: L. Crespi, *Vite de' pittori bolognesi non descr. etc.*, 1769, 134; *Pilger, Barockthemen*, Bd. I, 434

27

スヘルテ・アダムス・ボルスウェルト

Schelte Adams Bolswert (Bolsward um 1581—1659 Antwerpen; Theime-Becker, IV, 255)

アブラハム・ファン・ディーベンベークの原画によるエングレーヴィング（43×26.8cm）

Kupferstich (43×26.8cm) nach Abraham (Jansz.) van Diepenbeeck (Hertogenbosch 1596—1675 Antwerpen; Thieme-Becker, IX, 243–254)

下部余白に銘 Inschrift unten am Rande: PRIMITIAE MARTYRUM SOCIETATIS IESU IN ECCLESIA IAPONICA / B. IACOBUS GHISAI LXIV. annorum: Meditationi Passionis Crucis D. N. IESU Christi singulariter addictus,/B. PAULUS MICHI XXXIII. annorum: Ardens Zelo animarum Iaponiae ad fidem Crucis Christi conuertendarum, /B. IOANNES GOTHO XIX. annorum: Ab vtero Christianus, in flore Innocentiae et Adolescentiae religiosam Christi crucem portans/TRIGEMINI IAPONES./Anno Salutis MDXCVII. regnante mandante Taicosamâ prope Nangasacum, pro nomine Domini IESU,/in CRUCEM acti, lanceis per latera transverati, gloriose, profuso sanguine, occubuerunt:/nunc MIRACULIS clari, Pontifice Opt: Max: URBANO VIII. Iubente ac volente, sacris honoribus donati,/anno MDCXXVIII. natali

die, V̄. FEBRUARII, toto orbe, celebrantur. RELIGIOSIS SOCIETATIS. IESU COADIUTORIBUS S. A BOLSWERT SCULPTOR D.D.C.Q. Cum priuliegio.

右下に署名 Signiert rechts unten: Abr. à Diepenbeke delin.

国立西洋美術館（G·1971-11；1971年ロジャー・キース氏寄贈）；ミュンヘン，国立版画素描コレクション（Inv.-Nr. 548）蔵

Tokyo, Nationalmuseum für Westilche Kunst (Inv.-Nr. P-G·1971-11); München, Staatliche Graphische Sammlung (Inv.-Nr. 548)

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

J.B. クニッピングは本図の制作年代を 1650年頃としている。本図のコピーについては，本カタログ28を参照。

なお，S.A. ボルスウェルトは，この他にも，Johan de Goto (12.8×8.8cm) および Paul Michi (12.8×9cm) を単独に表わした銅版画を残している (F.W. Hollstein, Dutch and flemish etchings, engravings and woodcuts, Vol. III, 91: Nr. 336 und 339)。

Bei J. B. Knipping ist als Entstehungsdatum dieses Kupferstichs die Zeit um 1650 angegeben.—Für die Kopie dieses Werkes siehe Kat. Nr. 28.—Es gibt außerdem Kupferstiche von S. A. Bolswert, die einzeln *Johan de Goto* und *Paul Michi* darstellen (vgl. Hollstein, III, S. 91).

文献 Lit.: Ch. le Blanc, *Manuel de l'Amateur d'Estampes*, 181; A. v. Wurzbach, *Niederländisches Künstler-Lexikon*, 6; *Mâle*, *Après Trente*, 118; *Réau*, *Iconographie III*, 921; F. W. H. Hollstein, *Dutch and flemish etchings, engravings and woodcuts ca. 1450–1700*, Vol. III, 83 (Nr. 255), Vol. V, 242;『国立西洋美術館年報』No. 6/1972, 14 頁 (新収作品目録), 挿図; *Lexikon der christlichen Ikonographie*, Bd. 7, Rom—Freiburg—Basel—Wien 1974, 44–45 (Abb.); J. B. Knipping, *Iconography of the Counter Reformation in the Netherlands—Heaven on earth*, Nieuwkoop—Leiden 1974, Vol. I, 137, Abb.

28

ミュンヘン・1674年刊『イエズス会の聖列教者パウロ，イオアネおよびヤコボの聖務日課』の銅版扉絵 (5.3×4cm)

Titelkupfer (5.3×4cm) zu: Tag-Zeiten/oder Siebenstündige Gemüts-Erhebungen/von den H. H. Martyrern Paulo, Ioanne,/vnd Jacobo./Der Gesellschaft Jesu/Religiosen./Welche in Japan/samt/anderen 23 Martyrern den 5./Feb. dess 1597. Jahrs/am Creutz/wegen dess Christlich Catholi-/schen Glaubens gemartert/worden./Gedruckt zu München/Sebastian Rauch/1674. [*Laures 512 (355a)*].

国立国会図書館 (貴—6421) 蔵

Tokyo, Staatliche Parlamentsbibliothek

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

S.A. ボルスウェルトの銅版画 (本カタログ 27) によるコピー.

Kopie nach dem Kupferstich von S. A. Bolswert (Kat. Nr. 27)

29

メルヒオール・キュセル (アウグスブルクの銅版画家)

Melchior Küsel (Mitglied der Augsburger Kupferstecherfamilie, 1626—um 1683; Thieme-Becker, XXII, 73–74)

カレル・シュトノヴスキー・スクレータの原画による，マティアス・タンナー著『イエズス会列教者伝』(プラハ・1676年刊) の銅版挿絵

Buchillustration (Kupferstich) nach Karel Šotnovský Skreta (Prag 1610—1674 Prag; Thieme-Becker, XXXI, 125) zu: Societas/Jesu/Usque/Ad Sanguinis/Et Vitae Profusionem Militans,/In Europa, Africa, Asia, Et America,/Contra Gentiles, Mahometanos, Judaeos, Haereticos,/Impios, Pro/Deo, Fide,/Ecclesia, Pietate./Sive/Vita, Et Mors/Eorum, Qui/Ex Societate Jesu in causa Fidei, & Vir-/tutis progugnatae, violentâ morte toto Orbe/sublati sunt./

Auctore R. Patre Mathia Tanner è Societate Jesu,/ SS. Theologiae Doctore./Pragae, Typis Universitatis Carolo-Ferdinandeae, in Signiert Collegio Societatis/ Jesu adS. Clementem, per Joannem Nicolaum Hampel Factorem./Anno M. DC. LXXV. [*Laures 513*(*356*)].

余白右下に署名 Signiert rechts unten am Rande: M. K. f.

下部余白の銘 Inschrift unten am Rande: S. Paulus Miki, S. Ioannes de Goto, S. Iacobus Gisai, Iapones Soc. IESV, pro Fide Christi Crucifixi Nangasaki in Iaponia. A. 1597. 5. Februarÿ.

長崎，26列教者記念館；上智大学吉利支丹文庫；天理大学付属図書館蔵

Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer; Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko; Tenri, Bibliothek

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

本図にスクレータの署名はないが，この『イエズス会列教者伝』に挿入された数多くの列教場面の銅版画の原画は彼の手になるもので，しばしば Carlo Screta deli という署名がある。

Diese Illustration trägt keine Signatur von K. S. Skreta, aber nach seinen Zeichnungen sind viele Märtyrerszenen in diesem Buch graviert, die oft signiert sind: Carlo Screta deli.

文献 Lit.: *Thieme-Becker*, XXII (1928), 74; *Thieme-Becker*, XXXI (1937), 126;『日本二十六聖人　長崎』，24頁（挿図）

30

リマ，聖ペドロ聖堂，香部屋の前部屋：油彩画，17世紀末？

Lima, Iglesia de San Pedro, Zimmer vor der Sakristei; Ölgemälde, Ende des 17. Jh.?

下部の銘 Inschrift unten am Rande: San Pablo Miqui, San Juan Goto y San Diego Quisai de la Compañia de Jesus primicias de los martires del Japon que despues de muchas molestias y afrentas fueron crucificados y alanceados.

（図版提供：ディエゴ・パチェコ師）

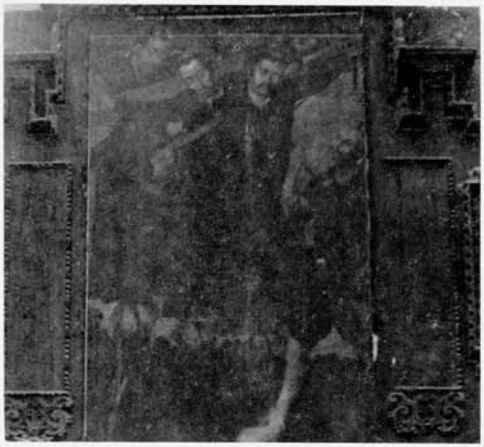
3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten.

3 つの十字架をこのように前後に重ねた3イエズス会士列教図は，この他には見当らない。

Außer diesem Gemälde ist kein Beispiel der Kreuzigung der drei Jesuiten zu finden, in dem die Kreuze, wie in diesem Bild, hintereinander aufgestellt sind.

文献：パチェコ「リマ植民時代の美術に現われた日本の列教者」，183–184 頁



31

フランソワ・ブーシェ

François Boucher (Paris 1703—1770 Paris; Thieme-Becker, IV, 428–432)

ベルリン，フリッツ・コング＝コレクション：油彩画，58×73cm

Berlin, Sammlung Fritz Jung: Ölgemälde, 58×73cm

3イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

この作品は，H. フォスによってブーシェ初期（イタリアから帰国後間もないころ）の作品と認定された。L. レオーは，本図のイエズス会士のまとう衣服がフランシスコ会のものであることを指摘している。

Dieses Gemälde wurde von H. Voss als Frühwerk F. Bouchers (bald nach seiner Rückkehr von Italien) anerkannt.—L. Léau weist darauf hin, daß die Jesuiten in diesem Bild mit dem Habit des Franziskanerordens bekleidet sind.

文献 Lit.: *Réau, Iconographie III, 921*; H. Voss, François Boucher's Early Development, *Burlington Magazine*, 1953, p. 86, Fig. 49, Fig. 41

32

ローラン・カール

Laurent Cars (Lyon 1699—1771 Paris; Thieme-Becker, VI, 82–83)

フランソワ・ブーシェ原画（本カタログ31参照）によるエングレーヴィング

Kupferstich nach François Bucher (siehe Kat. Nr. 31)

3イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

文献 Lit.: H. Voss, Francois Boucher's Early Development, *Burlington Magazine*, 1953, p. 86, Fig. 50

33

エルコーレ・ルスピ（ローマの画家）

Ercole Ruspi (Maler in Rom; Thieme-Becker, XXIX, 226)

1862年の列聖式の時ローマのサン・ピエトロ大聖堂に飾られた絵（現所蔵者不明）

Gemälde, das bei der Kanonsiation (1862) in der Peterskirche zu Rom aufgestellt war: jetziger Besitzer unbekannt

銘 Inschrift: MARTYRUM. CORPORA/FERIS. AVIBUSQUE. DISCERPENDA. RELINQUUNTUR QUAE. INGENITAE. AVIDITATIS. OBLITAE VICTRICES. EXSUVIAS/ATTINGERE. NON. AUDENT

3イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

文献 Lit.: Descrizione Dell'Apparato/Fatto/Nella Basilica Vaticana/Per La Solenne Canonizzazione/Di Ventisette Beati/Celebrata/Dalla Santità Di N. S. Papa Pio IX/Il Di 8 Giugno 1862/Roma/Dalla Tipografia Di Enrico Sinimberghi/1862, p. 38. [*Laures 753 (523a)*]（上智大学吉利支丹文庫蔵 Tokyo, Sophia Universitat, Kirishitan Bunko: KB 539/40/50–4115）

34

ローマ，イエズス会の家，サン・エスタニスラオ礼拝堂（サン・アンドレアス・アル・キリナーレの旧イエズス会修練院）：油彩画（44×34cm）

Roma, Residenza S. J., Capppèlla di San Estanislao (Noviziat der Jesuiten in S. Andreas al Quirinale): Ölgemälde (44×34cm)

下部の銘 Inschrift unten: B. PAVLVS MICHI B. IOANNES DE GOTO B. JACOBUS CHISAI IAPON. SOC. IESU PRO XPI FIDE CRUCIFIXI LANCEISQUE TRANSFXI V FEBR. MCL XXXXVII

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

文献 Lit.: *Frois—Galdos*, *Relación del Martirio*, 134, Abb. (gegenüber S. 129)

35

長崎，26殉教者記念館：メダル（4.3×3.7cm）

Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer: Medaille (4.3×3.7cm)

銘 Inschrift: SS. MM. IAP. S.I

他面にフランシスコ・ザビエル像 Auf der anderen Seite Hl. Franz Xavier: S. FRANC. XAVER. S. I. IND. E. IAP. AP.

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

本カタログ34の作品と比較できる。

Dieses Werk ist mit dem von Kat. Nr. 34 vergleichbar.

36

データ不明　Genaueres unbekannt

（図版提供：ディエゴ・パチェコ師）

3 イエズス会士の磔刑

Die Kreuzigung der drei Jesuiten

iii. 列聖式（1862年）以後の26聖人全員の磔刑図
Die Kreuzigung von allen 26 Heiligen (Beispiele nach der Kanonisation im Jahre 1862)

37

トマス・カルロス・カプス

Tomás Carlos Capúz (Valencia 1834—1899 Madrid; Thieme-Becker, V, 560–561)

エウスタキオ・マリア・デ・ネンクラーレス著『日本殉教者伝』（マドリード・1862年刊）の表紙に使われている木口木版（5.9×9cm）

Holzstich (5.9×9cm), das auf dem Deckel des folgenden Buches zu sehen ist: Vidas/De Los/Mártires Del Japón,/San Pedro Bautista, San Martin De La Ascension,/San Francisco Blanco y San Francisco De San Miguel,/Todos De la Órden De San Francisco, Naturales De España, seguida de una reseña biográfica de los 22 restantes no españoles,/Y La De/San Miguel De Los Santos, Confesor, de la Órden de Trinitarios descalzos, y español igualmente, Redactadas Por D. Eustaquio Maria De Nenclares,/Con Licencia Del Ordinario. /Madrid:/Imprenta De La Esperanza, Á Cargo De D. Antonio Pérez Dubrull, Editor,/calle del Pez, num. 6, cuarto principal./1862. [*Laures 748(519)*].

右下に署名　Signiert rechts unten: CAPVZ

上智大学吉利支丹文庫（KB535/42/41—134）蔵

Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

図版掲載：武内恒次譯「日本殉教者列伝（1862年第2版）——ドン・エウスタキオ・マリーア・デ・ネンクラーレス編」，（二），『日本文化』Ⅲ，197頁，挿図

38

エスカルピーソ

Escarpizo

エウスタキオ・マリア・デ・ネンクラーレス著『日本殉教者伝』（マドリード・1862年刊，本カタログ37参照）の挿絵（16×27cm）：ホアキン・マギストリス（1882年マドリードで歿）の原画による石版画

Buchillustration (16×27cm) zu E. M. de Nenclares, Vida de los Mártires del Japon, Madrid 1862 (Siehe Kat. Nr. 37): Lithographie nach Joaquin Magistris (gest. in Madrid 1882; Thieme-Becker, XXIII, 557–558)

左下の署名　Signiert links unten: Lit^{a} de Escarpizo

右下の署名　Signiert rechts unten: O° Magistris

下部の銘　Inschrift unten: VISTA DEL CALVARIO DE NANGASAKI en el que Eueron crucificados los veintiseis Martires del Japon en 5. de Febrero de 1597. y canonizedos en 8. de Junio de 1862. dibujada con presencia de la relacion del cronista Fr. Juan Pobre testigo del martirio.

上智大学吉利支丹文庫（KB535/42/41—134）；長崎，26聖人記念館蔵

Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko; Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

各殉教者に付された番号はフアン・ポブーレの『教会史』第2部第3巻第2章281頁による。

Für die Nummern, die jedem Märtyrer beigegeben sind, vgl. Juan Pobre, *Historia eclesiastica*, 2. Teil, 3. Kap., 2. Abschnitt, S. 281.

文献 Lit.: Felipe Robles Dégano, *Vida y martirio de San Pedro Bautista*, Madrid 1927; *Frois—Galdos*, *Relación del Martirio*, (133)

39

N. A A. アウセムス著『聖ペドロ・バプチスタ伝』（ブレダ・1862年刊）の銅版扉絵

Titelkupfer zu: De HH. Petrus Bautista en zijne gaezellen eerste martelaers voan Japan, gekruisigd te Nagasaki, den 5 February 1597. Bewerket door. N. A A. Aussems, Priester der Orde van den H. Franciscus. Breda: J. Hermans & Zoon. 1862. [*Laures 743(513)*].

長崎県立図書館蔵　Nagasaki, Präfekturbibliothek.

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

本文22頁参照。Vgl. den Text S. 32.

文献 Lit.: 永山時英『増訂切支丹史料集』，長崎・対外史料寶鑑刊行会，1926年，14図 (Tokihide Nagayama, Collection of Historical Materials, connected with the Roman Catholic Religion in Japan, 1926, pl. 14.)

図版掲載：本間正義「クエルナバカ寺院での新発見・海をわたった長崎殉教の図——中世における日本とメキシコの交流について——」，『三彩』No. 183 (1965/3), 写真 10

40

オーギュスト・ポントゥニエ（パリの複製木版画家）

Auguste Pontenier (reproduz. Holzschneider in Paris, Geb. in Moulin; Thieme-Becker, XXVII, 248)

D. ブィー著『日本26聖人史話』（パリ／リヨン・1862年刊）の扉絵：ジャネット・ラニス原画による木口木版 (9.9×14.8cm)

Titelblatt (9.9×14.8cm, Holzstich nach Janet Lanys) zu: Histoire/Des Vingt-Six/Martyrs Du Japon/Crucifiés A Nagasaqui, Le 5 Février 1957/Avec/Un Aperçu Historique Sur Les Chrétientés Du Japan/Depuis Cette Époque Jusqu' A Nos Jours/Par D. Bouïx/Docteur en Théologie et en Droit canon./Libraire Catholique De Perisse Fréres/Imprimeurs-Libraires De N. S. P. Le Pape. Paris.../Lyon.../1862. [*Laures 745(516)*].

左下および右下に署名 Signiert links unten und rechts unten: *A*PONTENIER. SC.; Janet Lanys

上智大学吉利支丹文庫；千代田図書館；九州大学蔵

Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko; Tokyo, Chiyoda Bibliothek; Fukuoka, Universität Kyushu

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

本文22頁参照。Vgl. den Text S. 32.

41

オーギュスト・ポントゥニエ（本カタログ40参照）

Anguste Pontenier (siehe Kat. Nr. 40)

M. ド・モントロン著『日本聖列教者』（リール／パリ刊）の木口木版扉絵 (11.8×7.3cm)

Titelblatt (Holzstich, 11.8×7.3cm) zu: Les Saints/Martyrs Du Japon/Pelerignage A Rome/En Juin 1862/Par Maxime De Montrond/Chevalier de Saint-Grégoire le Grand/Troisième Édition/Librairie De J. Lefort/Imprimeur Editeur/Lille Paris (n. d.)

左下に署名 Signiert links unten: PONTENIER

国立国会図書館 (A-77) 蔵

Tokyo, Staatliche Parlamentsbibliothek

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

42

石田有年（弘化元年近江水口に生まれ，大正5年歿）

Aritoshi Ishida (1844—1916)

大阪（天主堂）・明治20年刊『日本廿六聖人　致命略伝全』の銅版扉絵 (9.8×14.8cm)

Titelkupfer (9.8×14.8cm) zu dem 1887 in Okaka (Japan) erschienenen Buch über die 26 Japanischen Heiligen

長崎県立図書館蔵　Nagasaki, Prafäkturbibliothek

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

本カタログ39ないし40の作品によるコピー。本文22頁参照。

Kopie nach dem Werk Kat. Nr. 39 bzw. 40. Vgl. den Text S. 32.

文献：西村貞『日本銅版画志』，東京・書物展望社，1941年，419頁，図版

43

石田有年（本カタログ42参照）

Aritoshi Ishida (Siehe Kat. Nr. 42)

ビリヨン閲・加古義一編『日本聖人鮮血遺書』（京都・明治20年刊）の銅版挿絵　(15.2×20.4cm)

Buchillustration (Kupferstich, 15.2×20.4cm) zu dem 1887 in Kyoto erschienenen Buch über die japanischen Märtyrer, das von A. Villion durchgesehen und von Giichi Kako zusammengestellt wurde

銘：「慶長元年二月五日長崎立山に於て日本廿六聖人致命の図」

上智大学吉利支丹文庫蔵

Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

明治44年（1911年）の増訂版では石版刷りとなっている。

文献：西村貞『日本銅版画志』，東京・書物展望社，1941年，418–419頁；

図版掲載：松崎實『考註切支丹鮮血遺書』，改造社，1926年；三木露風『日本カトリック教史』，東京・第一書房，1929年；メイラン師跋・鈴木習之編『日本二十六聖人』，東京・星光社，1932年，表紙；山本秀煌『廿六聖人列教史話』，東京・不二屋書房，1935年，図版

44

長崎，大浦天主堂（日本26聖殉教者聖堂），内陣：油彩画，1869年

Nagasaki, Kirche der 26 Japanischen Heiligen Märtyrer zu Oura: Ölgemälde, 1869

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

1867年横浜を出発してフランス・イタリアへ旅立ったB. プチジャン司教は，1868年ローマで同地の画家（片岡弥吉氏によればトーレスという名の画家）に製作を依頼して日本に戻った。彼は，着物・刀・陣笠などを送って，出来るだけ写実的に描かせたという。

Im Auftrag des französischen Japan-Missionars, Pater B. Petitjean, im Jahre 1868 wurde dieses Ölgemalde von einem Maler in Rom (namens C. Torres?) gemalt.

文献：『キリシタン研究』VIII, 1963年，図版・解説；片岡弥吉『長崎の殉教者』，角川選書33，1970年，86頁，挿図；『開港四百年・長崎図録』，長崎開港400年記念実行委員会，1970年，図版11；『聖地長崎・長崎のキリシタン遺跡』，14頁挿図

45

G. マリアーノ

G. Mariano

ローマ，サン・アントニオ・ディ・パードヴァ聖堂（所蔵？）：油彩画（約250×250cm）

Roma, Chiesa di S. Antonio di Padova(?): Ölgemälde (ca. 250×250cm)

署名 Signiert: G. Mariano

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

幸田成友（「羅馬に在る日本殉教者図」，1931年）によれば，〈今サン・ジョーバニ寺の祭壇に近く左手のカペレの壁に嵌込んである〉という。一方，永山時英『増訂切支丹史料集』にも，本図と同じ図柄の挿絵が掲載されているが，その〈原図はレニンスブルクの某寺院に在り〉と述べられている。

文献：幸田成友「羅馬に在る日本殉教者図」，『和蘭夜話』，同文社，1931年，260–261頁，挿図；永山時英『増訂切支丹史料集』，長崎・対外史料寶鑑刊行会，1926年，第一三図

図版掲載：松崎實『切支丹殉教記』，春秋社，1925年；尾池義雄『切支丹宗門戦の研究』，昭文堂，1926年『切支丹風土記・九州編』，宝文館，1960年，140頁；『日本と世界の歴史13：16世紀』，学習研究社，1970年，97頁（岡田章雄）

46

長崎市立博物館：日本画，紙(65.0×76.5cm)，昭和20年頃

Nagasaki, Städtisches Museum: Papier (65.0×76.5cm), ca. 1945

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen

本カタログ44の作品のコピー。

Kopie nach dem Werk Kat. Nr. 44.

47

中田秀和（明治42年五島に生まれる）

Hidekazu Nakata (geb. in Goto/Japan 1909)

長崎，26聖人記念館：油彩画，1942年

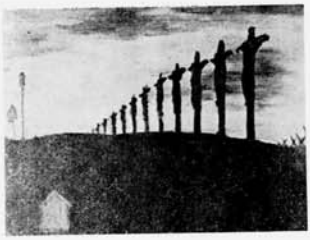
Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer: Ölgemälde, 1942

日本26聖人の磔刑

Die Kreuzigung der (26) Japanischen Heiligen

《黄昏》と題して昭和17年の第6回カトリック美術協会展に出品された。

図版掲載：『聲』，1942年2月号（第792号），挿図



48

中田秀和（本カタログ47参照）

Hidekazu Nakata (siehe Kat. Nr. 47)

所蔵者不明（作者所蔵？）：油彩画（25号），1944年

Jetziger Besitzer unbekannt: Ölgemälde, 1944

日本（26）聖人の磔刑

Die Kreuzigung der (26) Japanischen Märtyrer

脇田司教の依頼で製作されたもの。

図版掲載 Abgebildet bei: Th. Uyttenbroeck—S. Schneider, The Twenty-Six Martyrs of Japan (Historical Background; Authentic Biographical stories), Nagasaki 1919（小沢謙一訳『日本二十六聖殉教者——歴史的背景と略伝』，中央出版社，図版）；池田敏雄『人物による日本カトリック教会史——聖職者および信徒75名伝』，中央出版社，1968年，挿図

---

49 (a.b.c.)

長谷川路可（東京 明治30年—ローマ 昭和42年）

Luka Hasegawa (Tokyo 1897—1967 Roma)

チヴィタヴェッキア（イタリア），日本聖殉教者聖堂（フランシスコ会修道院附属）：内陣壁画（高さ 5 m），1954年

Civitavecchia (Italien), Chiesa dei Ss. Maritiri Giapponesi: Apsisfresken (Höhe: 5m), 1954

日本(26)聖人の磔刑場面（長崎への道中および殉教直前のエピソード2場面を伴う）

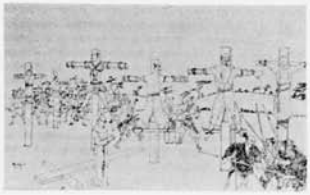
Die Martyriumszenen der (26) Japanischen Heiligen Märtyrer (mit zwei Episoden vom Weg nach Nagasaki und unmittelbar vor dem Martyrium)

聖堂は，1862年の列聖記念として1864年フランシスコ会によって建てられ，祭壇には26聖人殉教図があったという。しかし第二次大戦で破壊されたため，1950年再建された際，長谷川路可氏に聖堂の中央祭壇の周囲とその天井のための壁画が依頼された。祭壇後方の5つの壁面のうち，中央部（幅 3 m）および左右（幅，各 4 m）に磔刑場面が描かれ，さらに《枝川堤の宿場で長崎へと殉教の旅路を急ぐ一行に同行を懇願する薬師フランシスコ》および《同宿アントニオと長崎奉行寺沢ハサブロ》の2場面が左右の両端に加えられている。なお，本壁画の下絵（紙本着色，34.7×201.3, 1951年）は，長谷川路可夫人（東京）が所蔵している。

文献：片岡弥吉「二十六聖人殉教の位置とその宗教」，『長崎談叢』，第27輯，1955年，22–23頁；『キリシタンの美術』，宝文館，1961年，69頁（内山善一解説），図版；長谷川路可「チヴィタ・ヴェッキヤ壁画の由来」，『キリシタン研究』VIII, 1963年，195–198頁，図版

50
長谷川路可（本カタログ49参照）
Luka Hasegawa (Siehe Kat. Nr. 49)
長崎，26聖人記念館壁面：フレスコ壁画，1967年
Fresko (1967) auf der Wandfläche des Museums der 26 Märtyrer zu Nagasaki
日本26聖人の磔刑
Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen
磔刑図は《長崎への道》と題する14場面からなる壁画の最後の場面として描れている。なお，大阪の南蛮文化館にこのフレスコ壁画のための習作 (35×77cm) がある。

51
M. マレガ著『キリシタンの英雄たち』(1968年，ドン・ボスコ社刊）の挿絵 (8.4×13cm)
Buchillustration (8.4×13cm) zu dem 1968 in Tokyo erschienenen Buch von M. Marega über die Helden der japanischen Christen
日本26聖人の磔刑
Die Kreuzigung der 26 Japanischen Heiligen



iv. 殉教場面を表わすその他の作品
Andere Beispiele der Martyriumszene

52
ベルナルド・カヴァリーノ
Bernardo Cavallino (Napoli 1622—1654 Napoli; Thieme-Becker, VI, 224–225)
行方不明の（1597年長崎における殉教者）磔刑図（1840年刊 B. デ・ドミニチィ著『ナポリの画家伝』に記されている作品）。
Verschollenes Gemälde der Kreuzigung der Märtyrern in Nagasaki im Jahr 1597, das von B. De Dominici (*Vite de'Pittori etc. napoletani*, ed. 1840/46, III, 163) erwähnt ist.
文献 Lit.: B. De Dominici, op. cit.; *Pigler*, *Barock themen*, Bd. I, 434

53
フランチェスコ・マフェイ
Francesco Maffei Vicenza um 1620?—1660 Padua; Thieme-Becker, XXIII, 550)
スキオ，聖フランチェスコ聖堂内陣：油彩画
Schio, Chiesa di S. Francesco (Chor): Ölgemälde
（図版提供：坂本満氏）
フランシスコ会関係23人の殉教
Das Martyrium der 23 Märtyrer
本図の画面左，やや上方に殉教者たちを指し示しつつ座る殉教指揮者が描れているが，このモチーフは，ペリーノ・ダ・ヴァーガの《一万人の殉教》(1522/3 年頃のフレスコ画のためのカルトン，J. Shearman, *Mannerism*, Harmondsworth 1967, fig. 28 参照）や，ベルナルディーノ・ポッチェッティのフレスコ壁画《ベツレヘムの幼児虐殺》(1610 年，フィレンツェ・捨て子養育院, F. Würtenberger, *Der Manierismus—Der europäische Stil des sechzehnten Jahrhunderts*, Wien/München 1962, Abb.) などに見られるように典型的なマニエリスムのモチーフである。
Links oben im Bild ist der Befehlshaber, sitzend, dargestellt, der mit dem Finger auf die Märtyrer weist: ein typisch manieristisches Motiv, das z. B. in dem Karton (ca. 1522/23) des Perino da Vaga für ein Fresko des Martyriums der Zehntausend oder im Fresko (1610) des Bethlehemischen Kindermordes von Bernardino Poccetti im Findelhaus zu

Florenz zu sehen ist.

文献：坂本満「日本キリスト教徒殉教図の二，三について」，『美術史』74, Vol. XIX/No. 2, 1969年，69頁（第二十三回総会研究発表要旨）；坂本満「三人たりない殉教者」，『芸術新潮』1969年11月号，108頁；坂本満・吉村之雄『南蛮美術』，小学館（日本の美術34），1974年，94頁

54

コルネリウス・ハツァールト著『教会史』第1巻（ウィーン・1678年刊）の銅版挿絵（11.6×15.3cm）

Buchillustration (Kupferstich, 11.6×15.3cm) zu:‥ Kirchen-Geschichte/Das ist:/Catholisches Christenthum/durch die ganze Welt außgebveitet/Insonderheit/Bey nächst verflossenen und anjetzo fliessenden/Jahrhundert/Darinnen kürtzlich beschrieben wird/Jedes Land Arth und Belegenheit der/Einländer Lebens-Sitten eygenthumliche Secten Satzun-/gen Staats-Wesen Geist-und Weltliche Gepräng; besonders aber und/anßführlich beygebracht die erste Einpflantzung das Auffnehmen und die Er-/weiterung deß allda eingeführten wahren Christ-Glaubens: wie solchers von/vilen eyfrigen Blutzeugen verfochten von Lob-und merck-würdigen Tu-/gend-Thaten viler anderer Christ-Helden gezieret und von vilen/wundersamen Begebnussen bekräfftiget worden/Mit vilfältigen Kupffern zu füglicher Erkandnuß abgebildet. Erstlich beschriben und an Tag gegeben/Durch/R.P. Cornelium Hazart, Soc. Jesu./Nunmehr aber/Auß der Nider-in die Hoch-Teutsche Sprach übersetzet/und vermehret./Der erste Theil in sich begreiffend/Die Asiatische Länder Japon, China, Tarta-/ria, Mogor, und Bisnagar./Cum Gratia & Privilegio Sacrae Caesareae Majestatis./Permissu Superiorum./Gedruckt zu Wienn in Oesterreich/Durch Leopoldum Voigt/einer Löblichen Universität Buchdrucker/Anno M. DC. LXXVIII.

[*Laures 523 (363)*].

上智大学吉利支丹文庫(KB401/1/41-341)；東北大学蔵
Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko; Sendai, Tohoku Universität

1597年長崎の殉教
Das Martyrium in Nagasaki im Jahre 1597

殉教する3人のイエズス会士と4人のフランシスコ会士が表わされている。

55 (a—f)

ポルト，聖フランシスコ聖堂：レタベルの彫刻
Porto, Igreja de São Francisco: Retabelskulpturen

十字架にかけられたフランシスコ会士6名の像
Ssechs Franziskaner am Kreuze

文献 Lit.: *Mâle, Après Trente*, 118

56

M. マティス（ベルリン）旧蔵：17世紀・イタリアの絵
Ehem. Berlin, W. Matthis: Italienisches Gemälde aus dem 17. Jh.

1597年長崎における殉教者の磔刑図
Die Kreuzigung der Märtyrer von Nagasaki im Jahre 1597

文献 Lit.: *Der Cicerone*, 1927, 384; *Pigler, Barockthemen*, Bd. I, 434

II. 1597年の長崎における殉教者を表わす作品
Werke, die die Märtyrer von Nagasaki im Jahre 1597 darstellen

v. 十字架を持つイエズス会士
Die drei Jesuiten, die das Kreuz halten

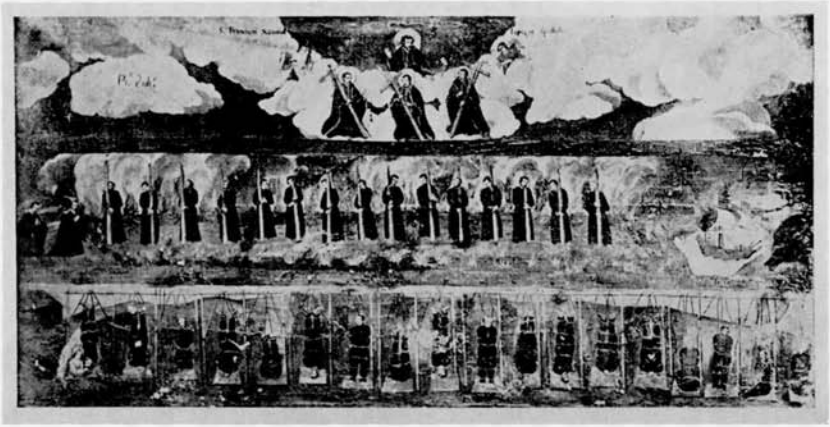
57

ローマ，イル・ジェズー聖堂，香部屋：17世紀前半の絵（104.2×210 cm）
Roma, Chiesa del Gesù, Sakristei: Gemälde aus der ersten Hälfte des 17. Jh. (104.2×210cm)

1597–1633年の日本における殉教イエズス会士（1597年の長崎における3イエズス会士殉教者を含む）
Jesuitenmärtyrer in Japan von 1597 bis 1633 (darunter die drei Jesuitenmärtyrer von 1597)

26殉教者中の3イエズス会士は三段のうちの最上部に，フランシスコ・ザビエルと共に表わされている。長谷川路可氏は，〈西欧の素人画家〉の手になるものと推定しているが，一方，R. P. タッキ・ヴェントーリ（*Frois—Galdos*, 134頁参照）は，本図は日本，多分，長崎で描れて，17世紀前半にローマに送り届けられた作品と考えている。イル・ジェズー聖堂の香部屋にある合計三点の日本殉教者図（他の二点は元和八年長崎大殉教図と元和五年五名殉教図）のうち，本図が最も洋風画派の作風に近いことは坂本満氏により指摘されている通りである。
L. Hasegawa schreibt dieses Gemälde einem europäischen Laienmaler zu, während R. P. Tacchi Venturi (vgl. *Frois—Galdos, Relación del Martirio*, 134) der Meinung ist, daß es in Japan, wahrscheinlich in Nagasaki, gemalt und dann in der ersten Hälfte des 17. Jahrhunderts nach Rom geschickt wurde. Dieses Bild ist allerdings unter den insgesamt drei Werken in der Sakristei von Il Gesù, die die japanischen Märtyrer darstellen (die anderen zwei haben das Martyrium im Jahre 1619 und das im Jahre 1622 zum Thema) am besten mit der japanischen Malerei im europäischen Stil vergleichbar, wie M. Sakamoto meint.

文献 Lit.: 幸田成友「羅馬に在る日本殉教者図」，『和蘭夜話』，同文社，1931年，246頁，図（三）; G. Schurhammer, Die Jesuitenmissionare des 16. und 17. Jahrhunderts und ihr Einfluß auf die japanische Malerei. Sonderdruck aus dem „Jubiläums-Band" 1933 der „*Deutschen Gesellschaft für Natur- und Völkerkunde Ostasiens*" in Tokyo, S. 7; *Frois—*



Galdos, Relación del Martirio, 134, Fig.; R. Boxer, *Christian century in Japan*, Berkeley/London 1951, plate;『キリシタンの美術』，東京・宝文館，1961年，158–159頁（No. 154，解説＝長谷川路可），図版；「南蛮美術と洋風画」，小学館（〈原色日本の美術25〉，1970年，77頁，図39（解説＝坂本満）；松田毅一『南蛮のパテレン——東西交渉史の問題をさぐる』，NHK ブックス，1970年，177頁（挿図）；坂本満『初期洋風画』，至文堂（〈日本の美術〉No. 80），1973年，第88図，93頁

---

58 (a, b)

フランシスコ・ディアス・デル・リベロ（スペイン・グラナダの彫刻家，1592—1670年）

Francisco Diaz del Rivero (spanischer Bildhauer, tätig zu Granada; Thieme-Becker, IX, 213)

グラナダ，聖ジュスト・聖ラストール聖堂（イエズス会の教会）：レタベルの木彫，1630年頃

Granada, Iglesia de los Santos Justos y Rastor (Antigua Iglesia de la Compañia Jesus): Holzskulupturen des Retabels, um 1630

a）三木パウロ，b）五島ジョアン

a) Paulus Michi, b) Johannes Goto

この聖堂自体は1580年に建築が開始され，1621年に完成した。フランシスコ・ディアス・デル・リベロ作の祭壇中央上部には，現在フランシスコ・ザビエル像が置かれているが，当初はその下，聖櫃の上部に，つまり，現在聖母マリア像（これは年代が下がる）がある位置に置かれていたものと推定される。これを挟んで左にパウロ三木，右に五島ジョアンが配されている。き斎ディオゴの像は，今は見られないが，当初は中央上部に置かれていたらしい。

Heute ist zwar die Statue des Jakobus Kisai nicht vorhanden, aber sie dürfte ursprünglich oben in der Mitte des Retabels, wo man jetzt die Statue des Franziskus Xaver sieht, placiert gewesen sein.

文献：パチェコ「エスパニアの日本殉教者彫像」，202–203頁，図版；『日本二十六聖人・長崎』，5頁，挿図

a)

b)

59 (a, b, c)

アロンソ・デ・サアヴェドラ（スペインの木彫家）

Alonso de Saavedra (Spanischer Holzbildhauer; Thieme-Becker, XXIX, 279)

カディス（スペイン），サンチアーゴ聖堂（イエズス会の教会）：レタベルの木彫，1670年

Cádiz, Iglesia del Apostel Santiago de la Compañia Jesus): Holzskulupturen der Retabel, 1670

（図版提供：ディエゴ・パチェコ師）

a）三木パウロ，b）五島ジョアン，c）き斎ディオゴ

b) Paulus Michi, b) Johannes Goto, c) Jakobus Kisai

中央にフランシスコ・ザビエルの像，その周囲に日本3イエズス会士の像が配されている。

文献：パチェコ「エスパニアの日本殉教者彫像」，203頁

b)

c)

60 (a, b)

リマ，聖ペドロ聖堂，香部屋：陶板，17世紀末

Lima, Iglesia de San Pedro, Sacristia: Azulejo aus dem Ende des 17. Jh.

（図版提供：ディエゴ・パチェコ師）

a）三木パウロ，b）き斎ディオゴ

b)

a) Paulus Michi, b) Jakobus Kisai

恐らくセビリアから舶来されたもの。

Wahrscheinlich von Sevilla importiert.

文献：パチェコ「リマ植民時代の美術に現れた日本の殉教者」，183頁

61

アンドレア・ポッツォのアトリエ（？）

Werkstatt des Andrea Pozzo (Trient 1642—1709 Wien; Thieme-Becker, XXVII, 334–336)

ウィーン，イエズス会の聖堂：油彩画，18世紀初頭（？）

Wien, Jesuitenkirche (Universitätskirche): Seitliches Ölgemälde in der 2. Kapelle (Evangelistenseite), Anfang des 18. Jh. (?)

3イエズス会士 Die drei Jesuiten

文献 Lit.: B. Grimschitz, *Universitätskirche Wien*, München—Zürich 1956 (Kunstführer Nr. 392 von 1938, 2. neubearbeitete Auflage 1956), 8; J. Schmidt—H. Tietze, *Wien* (Dehio-Handbuch), Wien—München 1960 (fünfte, ergänzte Auflage, neubearbeitet von A. Macku und E. Neumann), 27

62

トラウンキルヘン（上部オーストリア），旧イエズス会修道院聖堂：油彩画（18世紀？）

Traunkirchen (Oberösterreich), ehemalige Klosterkirche des Jesuitenordens (heute Pfarrkirche): Seitliches Ölgemälde im Presbyterium, 18. Jh.?

3イエズス会士　Die drei Jesuiten

文献 Lit.: E. Nürnberger, *Traunkirchens heilige Stätten (Pfarrkirche, Kapellen und Friedhof)*, Linz 1965, S. 14 (=Abbildung des Presbyteriums)

63

トラウンキルヘン，旧イエズス会修道院：油彩画

Traunkirchen, ehemaliges Kloster des Jesuitenordens: Olgemälde

3イエズス会士　Die drei Jesuiten

下部の銘 Inschrift unten: SS PAULUS MIKI, IACOBUS KISAI, IOAÑES DE GOTTO OMNES IAPONES. PRIM SOCTIS IESU SCHOLASTICUS, ALTER COADIUTOR TEMPORALIS, TERTIUS TYRO. POSTQUAM INCREDIBILI ZELOREM CHRISTIANAM INTER INFIDELES PROCURARUNT, NON MINORI CONSTANTIA CRUCIS SUPPLICIUM SUSTINUERE NAGASACHI

64

トラウンキルヘン，イエズス会修道院：油彩画

Traunkirchen, ehemaliges Kloster des Jesuitenordens: Ölgemälde

3イエズス会士　Die drei Jesuiten

65

コルドーバ，イエズス会の古い聖堂：油彩画

Cordoba, Antiqua Iglesia de la Compañia de Jesús: Ölgemälde

(図版提供：ディエゴ・パチェコ師)

3イエズス会士　Die drei Jesuiten

文献：パチェコ「エスパニアの日本殉教者彫像」，204頁

66 (a, b)

カルモーナ（スペイン），古いイエズス会の教会：木彫（18世紀末？）

Carmona (Spanien), Antiqua Iglesia S. J.: Holzskulpturen aus dem Ende des 18. Jh.?

a) 三木パウロ，b) 五島ジョアン

a) Paulus Michi, b) Jehannes Goto

文献：パチェコ「エスパニアの日本殉教者彫像」，204頁，『日本二十六聖人・長崎』，27頁，挿図2

a)

b)

67

ジュゼッペ・ボエロ『日本イエズス会聖人三木パウロ・五島ジョアン・き斎ディオゴの生涯と殉教』（ローマ・1862年刊）の銅版扉絵（10.3×7.2 cm）

Titelkupfer (10.3×7.2cm) zu: Istoria della vita e de martirio dei santi giapponesi Paolo Michi, Giovanni Soan de Goto e Giacomo Chisai della compagnia di Gesù compilata dal P. Giuseppe Boero ... Roma 1862. [*Laures 744 (514)*].

上智大学吉利支丹文庫（KB 535/50/60–78)）；東洋文庫（XVII–10–E–b/40）；慶応大学蔵

Tokyo, Sophia Universität, Kirishitan Bunko; Tokyo, Toyo Bunko; Tokyo, Keio Universität

3イエズス会士　Die drei Jesuiten

68

ダブリン・1862年刊『三木パウロ・き斎ディオゴ・五島ジョアンの生涯と殉教』の銅版扉絵（11.1×7.2 cm）

Titelkupfer (11.1×7.2cm) zu: The Jesuit Martyrs of Japan. A History of the Lives and Martyrdom of Paul Michi, James Chisai, and John Soan de Goto, by Father Boero of the same Society, translated from the Italian by a catholic priest. Dublin 1862.

国立国会図書館（C-227）蔵

Tokyo, Parlamentsbibliothek

3イエズス会士　Die drei Jesuiten

69

ジョヴァンニ・ガリアルディ（ローマの画家）

Giovanni Gagliardi (Maler in Rom im 19. Jh.; Thieme-Becker, XIII, 64)

ローマ，イエズス会本部：油彩画

Roma, Curia S. J.: Ölgemälde

3イエズス会士　Die drei Jesuiten

図版掲載　Abgegilbet bei: C. Testore, *I Santi Martiri Giaponesi Paolo Michi, Giovanni de Goto, Giacomo Kisai S. J.*, Venezia 1939, Abb.;『聲』729号（1942年2月号）

70

サンチアーゴ・パラモ

Santiago Paramo (Bogotá 1841—1915 Bogotá)

ボゴタ（コロンビア），聖イグナチオ聖堂，サン・ホセ礼拝堂：テンペラ画，750×770 cm

Bogotá (Kolumbien), Iglesia de San Ignacio, Capilla de San José: Tempera, 750×770cm

イエズス会の諸聖人（日本3イエズス会士を含む）

Die Heiligen des Jesuitenordens (darunter die drei Jesuiten von Japan)

本図の油彩下絵（78×70 cm）も同聖堂内にある，"Museo Paramo" に残っている。

Ölskizze (78×70cm) dazu im Museo Paramo (Igesia de San Ignacio, Bogotá).

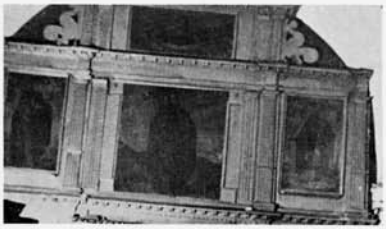
文献 Lit.: E. Ospina, *El Pintor Santiago Paramo (1841–1941)*, Bogotá 1941, Fig. 31, 43, 63, S. 106ff., 158ff.;『日本二十六聖人・長崎』，28頁挿図

71

ボゴタ，聖イグナチオ聖堂内パラモ美術館 Bogotá (Kolumbien), Igesia de San Ignacio, Museo Paramo

(図版提供：ディエゴ・パチェコ師)
3イエズス会士　Die drei Jesuiten

72
ボゴタ，聖イグナチオ聖堂：祭壇画
Bogotá, Iglesia de San Ignacio: Altargemälde
(図版提供：ティエゴ・パチョコ師)
3イエズス会士　Die drei Jusuiten



73
セビリア，イエズス会の家（香部屋）：彩陶
Sevilla, Residencia de Sevilla, Sacristia, Capilla doméstica: Farbenkeramik
(図版提供：ディエゴ・パチェコ師)
3イエズス会士を伴うキリスト磔刑
Die Kreuzigung Christi mit den drei Jesuiten

74
長崎，26聖人記念館：メダル（3.2×2.7 cm），1846年
Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer: Medaille (3.2×2.7cm), 1846
銘　Inschrift: S.S. PAULUS. JOAN. JAC. S. J. MARTYRI JAPON.
他面にピウス9世の肖像 Auf der anderen Seite: PIUS IX PONT. MAX ELECTUS 16 JUN 1846
3イエズス会士　Die drei Jesuiten

75
長崎，26聖人記念館：メダル（3×2.7 cm）
Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer: Medaille (3×2.7cm)
銘　Inschrift: S MM IAP
他面に聖イグナチウス・ロヨラの肖像
Auf der anderen Seit: S. IGNAT. DE LOY. SO. I.
3イエズス会士　Die drei Jesuiten

76
長崎，26聖人記念館：メダル（4.5×4cm）
Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer: Medaille (4.5×4cm)
銘　Inschrift: SOCIET. IHS
3イエズス会士を伴うキリスト磔刑
Die Kreuzigung Christi mit den drei Jesuiten

77
グァダラハラ（メキシコ），博物館：油彩画
Guadalajara (Mexiko), Museo: Ölgemälde
（図版提供：ディエゴ・パチェコ）
3イエズス会士を伴うキリスト磔刑
Die Kreuzigung Christi mit den drei Jesuiten

vi. 3イエズス会士を表わすその他の作品
Andere Werke, die die drei Jesuiten darstellen

78
ローマ，サン・アンドレアス・アル・キリナーレ，イエズス会修練所：破壊された17世紀前半のフレスコ壁画
Roma, Noviziat der Jesuiten in S. Andreas al Quirinale: zerstörtes Fresko aus der ersten Hälfte des 17. Jh.
3イエズス会士　Die drei Jesuiten
文献 Lit.: Richeome, *Peint. spirituelle*, p. 225 et suiv; *Mâle*, *Aprés Trente*, 118

79
カヴァリエーレ・ダルピーノ（本カタログ21参照）
Cavaliere d'Arpino, (Siehe Kat. Nr. 21)
版画作品
Gravüre (nach Mâle: Rome, Est. 37 H. 19.)
3イエズス会士　Die drei Jesuiten
文献 Lit.: *Mâle*, *Après Trente*, 118

80
ミシェル(？)・ドリニイ
Michel(?) Dorigny (St. Quentin 1617—1665 Paris; Thieme-Becker, IX, 475)
版画作品
Gravüre (nach Mâle: Rome, Est. 27 M. 13 II)
3イエズス会士　Die drei Jesuiten
文献 Lit.: *Mâle*, *Après Trente*, 118

a

b

c

81 (a, b, c)

フアン・デ・メサ（？）

Juan de Mesa (Cordoba 1583—1627 Sevilla; Thieme-Becker, XXIV, 427) zugeschrieben

セビリア，美術館：木彫3点（高さ 166, 162, 173cm)

Sevilla, Museo Provincial de Bellas Artes: drei Holzskulpturen—Nr. 460 (Johannes Goto, 166cm hoch), Nr. 491 (Paulus Michi, 162cm hoch) und Nr. 483 (Jakobus Kisai, 173cm hoch)

a）五島ジョアン，b）三木パウロ，c）き斎ディオゴ

a) Johannes Goto, b) Paulus Michi, c) Jakobus Kisai

これら3点の彫像は，セヴィリアのイエズス会の家から美術館に入ったもので，像の身体に着物を着せるように作られているため，頭部・首・手のみが入念に仕上げられている。かっては，フアン・マルティーネス・モンターニエスの作品ないし，そのアトリエの作と考えられていた。

Diese drei Statuen stammen aus la Casa Profesa de la Compñia de Jesús, Sevilla. M. E. Gómez Moreno hielt die Statue des Kisai (Nr. 493) für ein Werk des Juan Martínez Montañes (Alcalá la Real 1568—1649 Sevilla). Hiezu vgl. auch J. Sebastián Bandarán, Jesús de la Pasión, obra maravillosa de Martínez Montañes, in: *Boletín de Bellas Artes*, 1937, 162–163. Die Statue des Jahannes Goto (Nr. 460) sah M. E. Gómez Moreno hingegen als Werk des Ateliers von Montañes an.

文献 Lit.: (José Hernández Díaz), *Museo Provincial de Bellas Artes, Sevilla*, Madrid 1967, 104, 108, 109; パチェコ「エスパニアの日本殉教者彫像」, 204頁，図版；

図版掲載 abgebildet bei: P. Tisné, Spanien, *Bildatlas der spanischen Kunst*, Köln 1968, S. 380 (Abb. 65); 『日本二十六聖人・長崎』, 8頁，挿図

82 (a, b)

マルセリーノ・ロルダン

Marcelino Roldan (Sevilla 1696—1776 Sevilla; Thieme Becker, XXVIII, 533)

長崎，26聖人記念館；祭壇木彫（高さ 138cm），1732年

Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer: Holzskulpturen (138cm hoch) des Hochaltars, 1732

a）三木パウロ，b）五島ジョアン

a）Paulus Michi, b）Johannes Goto

これらの彫像は1970年にヘレス・デ・ラ・フロンテーラ（スペイン）のイエズス会の教会より長崎にもたらされた。祭壇中央には，フランシスコ・ザビエル像，その左右に三木パウロと五島ジョアンとが配置されていた。両者が手にする棕櫚の枝は殉教のシンボルである。

Diese beiden Statuen wurden 1970 von der Jesuitenkirche in Jerez de la Frontera (Spanien) nach Nagasaki gebracht.

文献：パチェコ「エスパニアの日本殉教者彫像」，204頁；『日本二十六聖人・長崎』，27頁，挿図

a

b

83 (a, b, c)

ペドロ・ドゥケ・コルネホ

Pedro Duque Cornejo (Sevilla 1677—1757 Córdoba Thieme-Becker, VII, 424–425)

セビリヤ，イエズス会の家：木彫胸像3点

Sevilla, Residencia de la compañia de Jesus: drei Büsten (Holz)

3イエズス会士 Die drei Jesuiten

（図版提供：ディエゴ・パチェコ師）

文献：パチェコ「エスパニアの日本殉教者彫像」，204頁

84

リマ，サン・ペドロ聖堂：17世紀中頃の絵

Lima, Iglesia de San Pedro: Gemälde aus der Mitte des 17. Jh.

3イエズス会士 Die drei Jesuiten

文献 Lit.: R. Vargas Ugarte, *La Iglesia de San Pedro de Lima*, Lima 1956, 48

85 (a, b, c)

ローマ，イル・ジェズー聖堂，聖イグナチオの部屋：遺骨箱の彫刻

Roma, Il Gesù, „Cámera" de S. Ignacio: Skulpturen auf den Reliquiaren

（図版提供：ディエゴ・パチェコ師）

3イエズス会士 Die drei Jesuiten

文献：『日本二十六聖人・長崎』，27頁の図版

Vii. フランシスコ会士6人，フランシスコ会関係23人，および26聖人全員を表わす作品
Werke, die die sechs Franziskaner, die 23 Märtyrer, und alle 26 Heilige darstellen

86 (a—f)

リマ，聖フランシスコ聖堂聖歌隊席：木彫高浮彫り（杉材；像の高さ約 60cm)，1674年頃

Lima, Iglesia de San Francisco, Silleria del Coro: Holzhochreliefs (Höhe der Figur: ca. 60cm), um 1674

フランシスコ会の殉教者像（1597年長崎における殉教フランシスコ会士6名を含む）

Die Märtyrer des Franziskaner-Ordens (darunter die sechs Franziskaner von den 26 Märtyrern in Nagasaki im Jahre 1597)

聖歌隊席は，フライ・ルイス・デ・セルベイラ（Fray Luis de Cervela）の首唱のもとに構築された。椅子席の背後上方に一列に並ぶフランシスコ会諸聖人の高浮彫りのうち，6人は自ら運ぶ槍と十字架からして1597年の長崎の殉教者像と推定される。リマ・バロックの代表的作品とされる。

文献：パチェコ「リマ植民時代の美術に現れた日本の殉教者」，181–182頁；『日本二十六聖人・長崎』，27頁挿図

87

リマの聖フランシスコ修道院門衛所にあった絵（現在行方不明）

Lima, Kloster San Francisco, Wachlakal: verschellenes Gemälde

23フランシスコ会関係殉教者

Die 23 Märtyrer von Nagasaki im Jahre 1597

文献：パチェコ「リマ植民時代の美術に現れた日本の殉教者」，184頁

88 (a—e)

長崎，26聖人記念館：銅版画5点，18世紀？

Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer: 5 Kupferstiche aus dem 18. Jh.?

各葉下部に付された銘 Inschriften unten am Rande jedes Blattes: B. FRANCISCUS BLANCO Sacerdos et Martyr Iappon. Ord. Min. Discale. occubuit an. 1597; B. FRANCISCUS A S. MICHAELE Laicus Martyr Iappon Ord. Min. Discale. occubuit an. 1597; B. CONSALVUS GARZIA Laicus Martyr Iappon. Ord. Min. Discale. occubuit an. 1597; B. PHILIPPUS A IESU Clericus Martyr Iappon. Ord. Min. Discale. occubit an. 1597; B. LEO CARAZUMA Martyr Iappon, 3. Ord. occubiut an. 1597.

1597年長崎における殉教者のシリーズより：フランシスコ・ブランコ，フランシスコ・デ・サン・ミゲル，ゴンサロ・ガルシア，フェリーペ・デ・ヘスース，鳥丸レオン

Aus dem Zyklus der Märtyrer von Nagasaki im Jahre 1597

銘に B (eatus) とあるところから，1862年の列聖以前のもので，恐らく23人のフランシスコ会関係殉教者のシリーズ中の一部と思われる。

89

キアーリ（アレッサンドロ・キアーリ？）

Chiari (Alessandro Chiari?: Thieme-Becker, VI, 484)

1862年の列聖式の時ローマのサン・ピエトロ大聖堂に飾られた絵（現所蔵者不明）

Gemälde, das bei der Kanonisation (1862) in der Peterskirche zu Rom aufgestellt war: jetziger Besitzer unbekannt

銘 Inschrift: QUI. CHRISTI. D. CRUCE. PARTAM/CRUCE. FIDEM CONFIRMASTIS/ADESTE. CATHOLICIS / UTI. NEQUOS / PRAECLARA. SPECIE. DECEPTOS / CRUCIS. INIMICI/IN. VETERUM. ERRORUM. COENUM / REIICIANT

フランシスコ会関係23殉教者の栄光

Die Glorie der 23 Märtyrer

文献 Lit.: *Descrizione dell'Apparato* ... (siehe Kat. Nr. 33), p. 41

90

ベルガラ（スペイン），聖ペドロ聖堂：1862年頃の絵

Vergara (Spanien, Vizcaya), Iglesia de San Pedro: Gemälde um 1862

フランシスコ会関係23殉教者の栄光

Die Glorie der 23 Märtyrer

この絵は，1862年の列聖式の時ローマのサン・ピエトロ大聖堂に飾られた。（本カタログ 89 の作品とあるいは同一かもしれない。）

Dieses Werk war dei der Kanonisation (1862) in der Peterskirche zu Rom aufgestellt. (Es ist eventuell mit dem Gemälde Kat. Nr. 89 identisch.)

図版掲載：『日本二十六聖人・長崎』，28頁挿図

91 (a—z)

岡山聖慮（明治37年広島に生まれる）

Franz Seikyo Okayama (geb. in Hiroshima 1904)

ローマ，ラテラノ伝道博物館

Roma, Museo Missionario-Lateranense

日本26聖人像シリーズ

Zyklus der 26 Japanischen Heiligen

文献 Lit.: 岡山聖慮「26聖人画像の製作断片」，『聲』664, 1931年，348–350頁; S. Schüller, *Neue christliche Malerei in Japan—Bilder und Selbstbiographien der bedeutendsten christlich-japanischen Künstler der Gegenwart*, Freiburg i. Br. 1939, 69ff.; C. Costantini, *L'arte christiana nelle missioni—Manuale d'arte per missionari*, Vaticana 1940, 230 ff.

92 (a—z)

愛久沢勇悟（明治42年愛媛県に生まれる）

Yugo Akuzawa (geb. in der Ehime-Präfektur 1909)

長崎，26聖人記念館：木版画26点（35.5×23.7cm），1962年

Nagasaki, Museum der 26 Märtyrer: 26 Holzschnitte (35.5×23.7cm), 1962

日本26聖人像シリーズ

Zykuls der 26 Japanischen Heiligen

93

中田秀和（本カタログ47参照）

Hidekazu Nakata (Siehe Kat. Nr. 47)

山口，ザビエル記念堂，内陣：壁画，昭和26年

Yamaguchi (Japan), Franz-Xaver-Gedenkkirche, Apsis: Fresko, 1951

聖フランシスコ・ザビエルに卒いられた等身大の日本26聖人・福音イサベラ・高山右近・細川ガラシア

Hl. Franziskus Xaver mit den 26 Japanischen Heiligen, Beatus Isabella, Ukon Takayama und Garcia Hosokawa

文献：中田秀和「26聖殉教者作画の思出」，『カトリック新聞』，1954年1月31日号，挿図

94

長谷川路可（本カタログ49参照）

Luka Hasegawa (siehe Kat. Nr. 49)

大阪，南蛮文化館：油彩画，111×241cm, 1956年

Osaka, Nanban Bunka Kan: Ölgemälde, 111×241 cm, 1951

1596年長崎における殉教

Das Martyrium in Nagasaki im Jahre 1596

文献：『長谷川路可展』，大阪・南蛮文化館，1972年，図38

95

舟越保武（大正元年岩手県に生まれる）

Yasutake Funakoshi (geb. in der Iwate-Präfektur 1912)

長崎，西坂公園，日本26聖人記念碑：ブロンズ・レリーフ，1962年

Nagasaki, Munument der 26 Japanischen Heiligen: Bronzehochreliefs, 1962

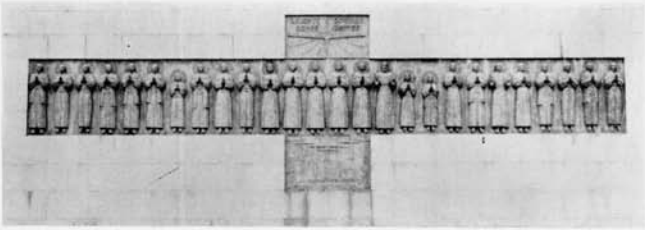
日本26聖人像

Die Japanischen 26 Heiligen

習作素描が数点長崎・26聖人記念館にある。

Einige Vorzeichnungen dazu befinden sich im Museum der 26 Märtyrer zu Nagasaki

文献 Lit.: 『キリシタン研究』VIII, 1963年，図版：舟越保武「聖人像の制作を了えて」，『長崎談叢』第40輯，22–23頁；藤本四八（撮影）『長崎26殉教者——舟越保武彫刻作品集』，美術出版社1963年，(*The 26 Martyrs of Nagasaki by Yasutake Funakoshi*, Tokyo 1963)



研修報告
版画作品の保存管理について
八重樫春樹

Sur la conservation des estampes,
par Haruki YAEGASHI

筆者は，1973年9月から1974年11月まで，ブリティッシュ・カウンシルの給費留学生として渡英し，主としてヨーロッパ版画史の研究に専念した。とにかく15ヵ月という短期間であり，特定のテーマに集中して考察を行なうよりもできる限り数多くの作品を直に手に取って丹念に観察しながらヨーロッパ版画史を通観することを第一の目的としたのだが，それさえ満足に完了せぬうちに帰国しなければならぬ時が来たのは，何としても残念なことであった。筆者はこの過程で，英国の美術館における版画作品の保存管理の方法を見，学ぶところが大きかった。また，筆者が滞英中折にふれて読んだ版画保存関係の著述で最も理想的と思われるのは，Carl Zigrosser & Christa M. Gaehde, *A Guide to the Collecting & Care of Original Prints*, London, 1966 (Copyright: Print Council of America, 以下 *Guide* と略す）の第七章 The Care and Conservation of Fine Prints（執筆担当は Christa M. Gaehde）であったが，英国の各美術館における保存管理の在り方も，その理想的な状態を目指して常に改善が進められている様子であった。以下は，英国各美術館における現状を上記著述に照らしながら，版画作品保存管理のあり得べき状態を要約的に記したものである。今後わが国においても版画コレクションは増大するであろうが，そこに常に付帯する保存管理上の問題に対して，この文が多少とも参考になるならば幸甚である。

＊　＊　＊

欧米の美術館では，通例「版画素描部門」という独立の部門が設けられている。版画と素描が同列に置かれるのは，いうまでもなく両者が多くの場合紙という共通の基底材をもち，ほぼ共通の管理を要求するからである。ロンドンのブリティッシュ・ミュージアム（以下 BM と略す）やヴィクトリア・アンド・アルバート美術館（以下 V & A と略す）などではそれぞれ尨大な数の版画や素描を所蔵しており，当然そのほんの一部しか展示されていないが，所蔵作品はすべて公開を建て前としており，閲覧室にはカタログが完備していて，それに基づいて要求すれば見せてくれる。ただ，世界的に貴重な作品を多く所蔵する BM の場合，閲覧のためにはしかるべき保証人が必要である。V & A では筆記用具なども割合自由だが，BM やエディンバラのナショナル・ギャラリー・オヴ・スコットランドでは，万年筆は勿論，ボールペン，色鉛筆も使用禁止である。万一作品あるいはマットに染みの付いた場合，鉛筆以外は容易に消し去ることができないことを考えれば，極めて当然の処置である。

版画は通例マットに貼って保護される。作品そのものを手で扱うことは，汚れや破損を招きやすいし，またむき出しのままの保存では作品の表面が擦れて紙の肌合いが著しく損われるし，特に銅版画の場合では盛り上がったインクが擦り減って，線の美しさが失われる。マットは台紙部と窓縁部から成り，作品は両者の間にサンドイッチ状に挟まれる。台紙と窓縁は同サイズで，糊付きの布テープを蝶番にして開閉できるようになっている。作品は台紙の方に貼り，マージン（作品外縁の余白）の部分を窓縁でおさえる形になってい

図1　マット

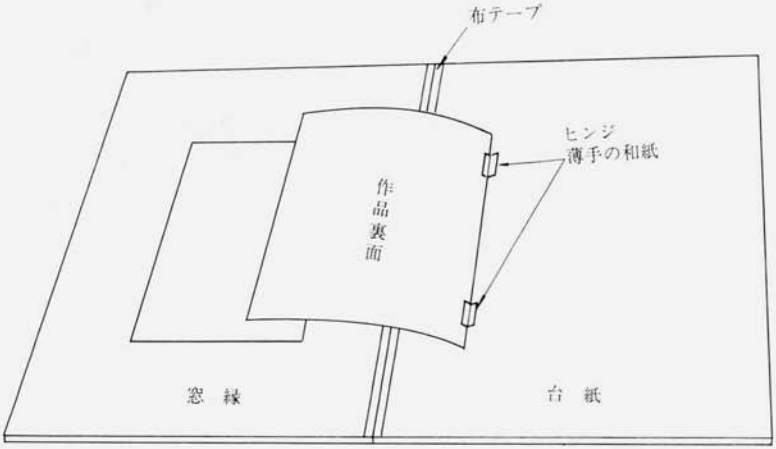


図2　窓縁断面

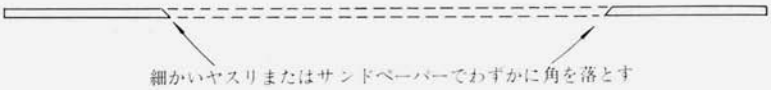
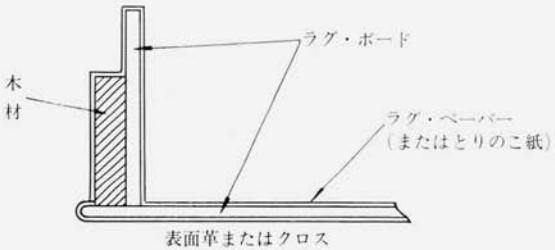


図3　収納箱

収納箱断面（部分）



るが15，16世紀の特にドイツの銅版画やレンブラントの版画の場合マージンがほとんどないことが多く，これらの場合は作品を間に挟むことができないので台紙と窓縁が全面で貼り合わされていることもある。作品の台紙への貼り付けは，当然ながら直接ではなくヒンジを用いて行なうが，ヒンジの材料としては作品よりも薄手の和紙が最もよく（和紙は伸縮に対する順応度が高く作品への負担が少ないし，また必要に際して取り除く場合も他の材質に比べて容易である），この小片をふたつ折りにしたものを作品の大きさに応じて2～数箇，作品の上辺あるいは台紙と窓縁が連結された側に向かった辺に米糊（米を細かく碾いたものを煮て作る。でき合いで買う場合は防腐剤が含有されていないことを確認すること）で貼り付ける。この際糊の量はヒンジを透過しないよう少なめにし，かつヒンジの折った側にわずかに余白を残すようにするのがよい（図1）。作品の一辺だけによって貼るのは，作品の気候条件の変化による伸縮を妨げないためでもあり，また，ウォーター・マークや紙質その他の調査の目的で裏面を見る必要が起った場合への備えでもある。しかし，閲覧者の多い美術館では，特に小さなしかも貴重な版画の場合，盗難防止のために作品の四辺全部を，直にあるいはヒンジを用いて台紙に貼り付けていることが多い。ただしこの方法が作品保存上の理想に適ったものでないことは，いうまでもない。なお，版画を台紙に貼る際，市販のセロファン・テープ類，ビニール・テープ，粘着テープなどは，作品にとり返しのつかない染みをつくることになるから，絶対使用すべきでない。樹脂接着剤その他の接着剤は，シンナー系のものは絶対使用してはならないし，また水溶性のものでも合成保存料などの含有が考えられるから，その使用は避けた方が無難である。窓縁の窓は作品のサイズに合せて刃物で斜めに切り落とすが，その縁（へり）は鋭く手を傷つけたり作品を破損したりする恐れがあるので，サンド・ペーパーか目の細かな鑢でわずかに角を落としておくのがよい（図2）。

マットの材料となる厚紙は，英国の美術館では無酸紙 acid-free board を使用しているが，これは製紙過程で漂白剤として酸を用いずソーダ系の薬品を用いたものである。欧米では製紙用繊維の漂白に亜硫酸などの酸を加えることが多いが，そのようにしてできた紙は微量ながら亜硫酸ガスなどの有害ガスを発散することがあるので，長い間には版画の紙やインクに変質を招くおそれがあり，マット用厚紙としては望ましくない。前掲書 *Guide* では，ぼろ100％を原料とした厚紙 rag-fiber mat stock のみを使用すべきだとしている。これは版画や素描の保存用，特にマット用として調製されたものである。これが推薦される理由は，温度，湿度などの変化に最も強いこと，適当な気候条件下ではセルローズを犯すバクテリアや黴に対する抵抗力が抜群であることである。マットの厚さは，長い方の両端を支えてほとんどたわまぬ程度，通常の扱いでは折れることのない厚さが必要である。窓縁の厚さは作品のサイズに合わせたものでよいが，少くとも額に入れた際に作品がガラス面に接触しないだけの厚さは必要である。

ガラスは気候的変化によって空気中の水蒸気を露結させやすいからである。マットの大きさは，美術館などで何段階かの標準化したサイズを採用している。これは，数点ずつまとめて箱に収納するためである。*Guide* は，一般に美術館が採用しているサイズとして，次の数値を掲げている。30×40 in（756×1020 mm），22×28 in（559×710 mm），16×22 in（406×559 mm），14¼×19¼ in（362×490 mm）あるいは 14×18 in（360×457 mm）。

閲覧の際の事故を妨ぐためにあるいは防塵の目的で，窓縁と作品の間に透明あるいはそれに近いシートを挿むことがあるが，その材料の選択には充分な注意を要する。セロファンは鑑賞上も醜いうえ，湿気を呼びやすく作品に粘着することがある。セルロイドは，燃えやすく自然発火の危険もあるし，紙に有害な硝酸が含まれている。軟質の塩化ビニールには可塑剤フタル酸ジプチルが含まれ，やはり有害なガスを発散する。*Guide* は，ポリエチレン系統で安全なものとしてポリエチレン・テレフィタレイト（ダクロン，テリレン，テトロンなど）を掲げている。

マットで保護された版画や素描は箱に納めて保存するが，英国の美術館で使用しているのは大旨（図3）のような構造のものである。この構造は，蓋を開いて箱の中に重ねて納めてあるマットをそのまま蓋の側に移し，その後に一点一点鑑賞しながら箱の方に戻してゆくという閲覧方式に便利である。ちなみに，蓋と本体が別々にできた箱は，作品を取り出すのに非常に不便で推薦できない。*Guide* は，箱の内側全体に rag-fiber board を貼るのが望ましいとしている。なお，箱の作成の際，木材，紙，クロス，革などの接合に接着料が使われるわけだが，いうまでもなく有害ガスを発散する樹脂系シンナー系の接着剤は使用すべきでない。なお重ねたマットの上下に各一枚ずつ，マットと同質の厚紙を保護板として加えるのがよい。

閲覧その他の場合のマットの取扱いの際厳守すべきことは，必ず両手で扱うこと，窓縁の面に指を触れないようにすることである。最も安全な扱い方は，レコード盤を持つ場合と同じように，両端を掌でおさえ両手の指で裏面を支えるようにして持つ。マットを片手でつかみあげるあいは片手で運ぶようなことは，絶対に避けるべきである。マットは作品に従属するもので汚損しても取替えることができるとはいえ，度々作品を台紙から剝がしたり貼りつけたりするのは好ましくないので，マットの表面には極力指で触れないようにするにこしたことはない。

マットを納めた箱は，通例ガラス戸のついた棚にねせておくか立てておかれるが，ねせておく方がより理想的である。というのは，作品が平面に保たれ「波打ち」のおこるのが避けられるからである。作品はマットの窓縁の厚みによって，上に重ねられたマットとの摩擦から保護されており，そこに空間の遊びができるので，マットが立っている場合の方が「波打ち」が生じやすいわけである。箱をねせておく場合は箱どうしを積み重ねずに，一箱一箱が納まる棚がほしい。やむをえず箱を立てる場合は，マットが常に垂直に保てるように留意する。箱の中に遊びのある場合は，

厚紙（acid-free board，あるいは rag-fiber board）を補充して，マットが傾斜しないようにする。

版画の保管室あるいは閲覧室は，完全に空気調整されていなければならない。紙は，カンヴァス等に比べてずっと温度や湿度の影響を受けやすい。紙の黄変や，黴等による褐色の染み foxing は，特殊な薬品によって洗浄復元することは可能だが，紙の肌合いを損う可能性が大きいし，銅版画の場合はわずかながら浮き出しているインクを平板なものにしてしまうことがある。紙はいわば生きもので，乾燥し過ぎるのも湿度のあり過ぎるのも，作品にとって致命的な損害の原因となるから注意を要する。どのような紙でも，最大の強度が保たれるのは，相対湿度50～65％の間である。*Guide* によれば，湿度がこの範囲内で温度が約 20°C 以下であれば，細菌類も活動しないという。温度 25°C 以上，相対湿度 30％以下では，紙は老化が早まって脆くなる。老化が極度に進むと，再び湿気を与えても元に戻らない。相対湿度 75％以上では，空気中の微生物が紙に付着して活動し，作品の汚損の原因になる。この活動は，時にして驚くべき早さで進行するものである。また，湿度が高過ぎると，作品の波打ち，ふくらみの原因となり，これが頻繁に起こると，やはり紙は老化する。空中湿度が一定していても温度が低くなると，過飽和状態となり余剰の水分が紙に吸収される。温度の頻繁な変化は相対湿度の変化を招く上，紙の伸縮が反復されて紙の組織内での摩擦，組織のほぐれを生じ，これも老化の原因となる。従って，空気調整設備は昼夜を分かたず活動さすべきであり，特に冬期など同設備の昼間のみの運転は，百害あって一利なしといえる。作品を箱に入れ，ガラス戸つきの棚に納めるのは，外部の気候的変化に対する緩衝の意味でもある。保管室，閲覧室内は，いうまでもなく禁煙である。火災防止のためばかりでなく，空気の清浄を保つためである。近代都市においては，空気は硫化ガスその他で汚染されているのが通例である。それゆえ，都市の美術館では空気浄化のための設備を持つことが望ましいであろう。美術品管理において大気汚染に対処しなければならないのは，なにもブロンズ彫刻だけではないのである。紙魚などの害虫の侵入，繁殖にも，絶えず注意を払わなければならない。ただし，防虫剤，殺虫剤の選択には，充分慎重を要する。紙の変色，汚損，あるいは化学的な「焼け」の原因となる場合があるからである。最近，空気中の酸素を吸収して，密閉された限定空間内を酸欠にする薬剤が開発されたが，対微生物，対害虫の課題に沿って実験してみる価値はありそうである。

一時的に，あるいは何らかの目的でマットに貼らない作品の保存には，ポートフォリオ（あるいは畳紙（たとう））か抽出に入れるのがよい。この際作品一点一点を二つ折りにした無酸薄洋紙 acid-free tissue に挟み，作品どうしが擦れ合うのを避ける。マットに貼らない版画は，直接手で触れる回数を少なくしたい。取扱いの際には，手に脂肪や汚れのないことを確認する。

版画は光の影響を受けやすい。特に太陽光線は，紙やインクの変色あるいは褪色を生じ

る力が大きいので，直射日光に作品を曝すことは絶対に避けなければならない。最も被害を受けやすいのは19世紀のリトグラフやポスターで，太陽光線の入る場所に展示した際わずか2・3週間で甚しい影響を受けたという(*Guide*)。展示室および閲覧室の照明には，必ず褪色防止のための処置をすることが大切である。螢光灯は絶対に褪色防止処理をしたものでなければならないが，市販の褪色防止螢光管は紫外線の遮断が完全でないことが多いうえ，長時間の使用では効力が減退するので，褪色防止塗料の塗布を定期的に行なう必要がある。版画作品が展示される場所では，紫外線の量がゼロであることが望ましいが，紙やインクを害するのは紫外線だけではない。可視光線そのものが紙の分子構造を破壊し，紙を脆弱なものにする。それゆえ，作品を不必要に光に曝すことは避けなければならない。展示の場合の作品への照度は50ルックス以下であることが望ましい。ひとつの作品が連続して展示される期間は最長2・3ヵ月とし，展示後少くとも同じ期間は休息させるべきである。休息は紙の寿命を保つために重要な処置である。休息は額に入れたままでなく，必ず箱の中で水平に保って与えなければならない。額の中に長期間放置することは，作品の波打ちふくらみを招き，これに空気中の酸素が作用した場合，台紙に密着した部分が白く残り浮きあがった部分が焼けて変色して，作品の価値を著しく損うことがある。

版画を額に入れる場合の注意は，画面が決してガラスに触れないようにすること，内部に塵が侵入しないようにすることである。塵を額に入れないためには，額の裏蓋と額縁との隙間をガム・テープで目張りする。台紙とガラスを重ね合せ，その四辺にテープを貼りめぐらして密閉した例があるが，これは空気中の水分も封じ込められることになり，温度の変化によって過飽和状態を生じるので好ましくない。額の裏蓋にはベニヤ合板がよく使われるが，合板加工用の接着剤が紙に有害なガスを発散することがあるので，避けるにこしたことはない。最も安全な材料は強化ボードである。空気調整が完全でない部屋に額をかける場合は，額の裏の四隅にコルクか木片をとりつけて，額の裏側の空気の流通をよくするのがよい。

以上に述べたような版画作品の保存管理の在り方は，わが国ではまだ徹底されていない。従って必要な材料もほとんど国内では生産されていない。*Guide* は，それぞれの材料を生産する米国内の業者を紹介している。わが国でも版画素描作品の保存管理に対する認識が高まり，必要な材料が国内生産されて入手が容易になることが望まれる次第である。

所蔵作品の修復報告

—昭和48年4月より昭和49年3月まで—

長谷川三郎

国立西洋美術館では，昭和48年度中に下記4点の所蔵作品の修復を行った。修復はいずれも絵画修復家黒江光彦氏による。なおこの修復報告は黒江氏の修復処置記録に基いて作成したものである。

1　(P・1959—105)

ポール・ゴーガン《ブルターニュ風景》

1888年　油彩　カンヴァス　89×116.5 cm

この作品は全面にわたって絵具層に大小の欠損部分及び剝離箇所があり，また塵埃の付着によって色彩効果も損われていた。

修復処置：蜜臘およびダンマール樹脂等の混合接着剤を用いて剝落箇所周辺及び剝落箇所を固定。作品裏面の除塵。テレビン精油，アルコール，ミネラル・スピリット及び一部に弱アンモニア水を使用して画面を洗浄。胡粉＋チタン白＋ポリビニール・アルコールによって絵具の欠損部分充塡。デトランプによる補彩。マット・ニスによる保護膜塗装。

2　(P・1959—137)

アンリ・マルタン《自画像》

油彩　カンヴァス　55×64.3 cm

左頬髯部分に絵具の剝離。

修復処置：蜜臘およびダンマール樹脂等の混合接着剤による剝離箇所（1カ所）の固定。

3　(P・1959—153)

クロード・モネ《陽を浴びるポプラ並木》

1891年　油彩　カンヴァス　92.5×73.5 cm

この作品は，絵具層のカンヴァスへの固着が弱く，常に亀裂・剝離の危険にさらされている。今回は画面中央部に絵具の剝離箇所が発見された。

修復処置：蜜臘およびダンマール樹脂等の混合接着剤による剝離箇所（1カ所）の固定。

Rapport de la restauration des tableaux dans la collection du Musée (avril 1973——mars 1974), par Saburoh Hasegawa

なお，本作品は昭和49年度中に全面裏打ちによる絵具層の固定修復を行う予定である。

4　(P・1959—194)

ヴァン・ドンゲン《ターバンの女》

1922年頃　油彩　カンヴァス　65×54 cm

右眼上睫毛部分に，湿度の急激な低下が原因と思われる絵具の剝離。本作品は保存状態良好で絵具の剝離が発見されたのは初めてである。

修復処置：蜜臘およびダンマール樹脂等の混合接着剤による剝離箇所（1カ所）及び剝片（1片）の固定。

特別展記録

●ウィーンの国立美術館所蔵　イタリア・ルネッサンスのブロンズと素描
Italienishche Kleinbronzen und Handzeichnungen der Renaissance und des Manierismus aus österreichischem Staatsbesitz

1973. 8. 18～1973. 10. 14
主催：国立西洋美術館・ウィーン美術史博物館・アルベルティーナ美術館
出品内容＝ブロンズ……112点
　　素　　描……　33点
　　計145点
入場者＝71,667人

巡回展記録

●松方コレクション展

1973. 10. 28～1973. 11. 25
会場＝高知県立郷土文化会館
高知県，高知県教育委員会，高知市，高知市教育委員会，高知新聞社，RKC高知放送と共催
出品内容＝絵画……62点
　　彫刻……19点
　　計81点
入場者＝105,498人

講演会記録

●「イタリア・ルネッサンスのブロンズと素描」展　特別講演会

1973. 9. 22
マニエリズモの彫刻
東京大学教授　前川誠郎

1973. 9. 29
ルネッサンスと古代
早稲田大学教授　澤柳大五郎

1973. 10. 6
ウィーン美術史博物館の彫刻と工芸
ウィーン美術史博物館彫刻工芸部　マンフレート・ライテニヤスパー（通訳　越 宏一）

●特別講演会

1973. 9. 26
絵画の科学的調査と芸術学的評価
バイエルン州文化財保護局監査官　ヨハネス・タウベルト（通訳　千足伸行）

テレビ放送

文化庁提供「美をもとめて」
放映：TBS系　毎日曜日　午前8時～8時15分
●「クロード・モネの世界」
第1回　1973. 8. 19
第2回　1973. 8. 26
●「イタリア・ルネッサンスのブロンズ」
1973. 9. 9.

資料

歳出歳入表

歳出予算表（単位千円）

事項／年度	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
国立西洋美術館運営費	79,806	91,636	144,913	263,385	197,821	150,333	161,913	188,369	270,392	220,212
人に伴う経費	22,469	26,472	29,455	33,576	38,361	42,856	49,837	56,429	64,500	71,952
庶務部運営	6,129	6,580	6,660	7,157	5,661	6,859	7,645	8,004	7,677	8,434
	(30,000)	(30,000)	(50,000)	(50,000)	(50,000)	(50,000)	(60,000)	(70,000)	(140,000)	(80,000)
事業部運営	33,806	33,811	55,180	55,222	57,809	57,038	67,677	77,688	148,465	89,370
特別展開催	8,665	11,140	40,902	43,104	36,066	37,800	30,507	36,458	39,286	34,675
巡回展開催	2,143	2,147	2,151	2,155	2,160	2,165	2,179	2,189	2,204	2,231
博物館等特別経費	379	523	600	600	600	558	558	558	558	558
陳列館新営敷地購入				112,500	54,483	0	0	0	0	0
一般研究費	129	129	129	129	125	125	125	125	125	125
施設設備整備	6,086	10,834	9,636	8,942	2,556	0	3,943	7,476	7,577	12,867
国立西洋美術館創設費										

備考

1　事業部運営欄（　）書は，美術作品購入費である。

2　昭和38年度施設設備整備70,576千円は，講堂および事務庁舎の新営費である。

歳入実績表（単位千円）

事項／年度	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
雑収入	43,997	26,180	28,236	37,088	53,622	32,647	32,553	61,652	37,953	31,853,466
入場料等収入	43,617	25,808	27,726	36,587	53,079	31,977	31,862	60,917	36,870	31,457,400
その他	380	372	510	501	543	670	691	735	1,083	396,066

年度別入館者総数（含特別展）

昭和34年度	584,861	昭和38年度	444,031	昭和42年度	567,490	昭和46年度	937,303
昭和35年度	400,218	昭和39年度	1,045,944	昭和43年度	761,609	昭和47年度	439,128
昭和36年度	280,146	昭和40年度	393,228	昭和44年度	312,291	昭和48年度	313,806
昭和37年度	341,250	昭和41年度	690,231	昭和45年度	424,630		

職員名簿

昭和49年3月31日現在

国立西洋美術館評議員会評議員

（五十音順）

ブリヂストンタイヤ株式会社社長
石橋幹一郎

東京国立博物館長
稲田　清助

東京国立近代美術館長
岡田　　譲

京都国立近代美術館長
河北　倫明

日本芸術院長
高橋誠一郎

評論家
谷川　徹三

株式会社丸善社長　東京商工会議所副会頭
司　　忠

海外子女教育振興財団専務理事
寺中　作雄

評論家
富永　惣一

鳩山威一郎

神奈川県立近代美術館長
土方　定一

東京都副知事（文化担当）
船橋　俊通

日米文化教育テレビ番組交流協会理事長
松方　三郎

国際文化会館専務理事
松本　重治

日本芸術院会員　画家
宮本　三郎

東海大学教授　東大名誉教授
吉川　逸治

日本学士院会員　東大名誉教授
脇村義太郎

国立西洋美術館職員

館長 文部事務官	山田智三郎
次長事務取扱	山田智三郎

庶務課

庶務課長 文部事務官	服部　栄次
庶務課課長補佐 文部事務官	杉本　光司
庶務係長 文部事務官	西山　　博
福祉主任 文部事務官	舟橋さち子
文部事務官	戸松　靖子
文部事務官	湯口太多史
事務員	渡辺　和子
文部事務官	浜田　　孝
文部事務官	樋口　泰一
文部事務官	山王堂正行
文部事務官	小林清太郎
文部事務官	井上武運児
文部事務官	羽山　正公
文部事務官	石井　茂夫
文部事務官	内藤　満枝
文部事務官	中村　繁子
経理係長 文部事務官	白石　治美
文部事務官	須田　文子
文部事務官	市川　　勇
文部事務官	古山　則夫
用務員	小林江考子
用度係長 文部事務官	田島　庄平
文部事務官	肥後　豊司
文部事務官	太田原　武
文部技官	白倉　由夫
文部技官	大竹　乙弘
文部技官	小宮　勝男
用務員	平山　節子
用務員	長島　武夫
事務補佐員	伊藤　　昌

事業課

事業課長 文部技官	穴沢　一夫
主任研究官 (併)渉外調査係長 文部技官	佐々木英也
文部技官	越　　宏一
陳列保存係長 事務取扱	穴沢　一夫
文部技官	八重樫春樹
(併)文部技官	長谷川三郎
普及広報係長 文部技官	千足　伸行
文部技官	長谷川三郎
事務補佐員	田近　祥子

国立西洋美術館年報 NO. 8

発行　1975年3月31日

編集　国立西洋美術館 東京都台東区上野公園

製作　美術出版デザインセンター

印刷　凸版印刷株式会社

BULLETIN ANNUEL DU MUSEE NATIONAL D'ART OCCIDENTAL, NO. 8

Publié le 31 mars 1975 par le Musée National d'Art Occidental, Tokyo

Imprimerie: Bijutsu Shuppan Design Center

© The National Museum of Western Art, Tokyo, 1975

Printed in Japan